大分市埋蔵文化財発掘調査報告　第50集

府内城・城下町遺跡

－第15次調査報告書－

2004

大分市教育委員会

序　文

本書は、平成14年度に実施いたしました大分市都町所在の府内城・城下町跡第15次調査の発掘調査報告書であります。

江戸時代に建設された府内城は、大分市荷揚町の城址公園が残っており、石垣や櫓、水堀、復元された廊下橋に往時の姿を偲ぶことができますが、その城下については、今の中心市街地に重なり、戦後の復興により近代的な町並みに改変されています。

すでに14次にわたる府内城・城下町遺跡の調査によりまして、府内城下内の武家屋敷跡や町屋跡の様子が断片的に明らかになっております。今回発掘調査を実施したところは、城下の北東に位置する堀川町にあたる場所で、町人町建設に伴い新たに形成された町であります。遺跡からは、火災後に処理をおこなった土坑や町を区画する東西道路の跡、町屋の建物基礎などが見つかり、町並み景観を復原する貴重な資料を得ることができました。なかでも家屋の火災処理をおこなった土坑からは、年代を記した硯が大量の陶磁器と共に出土しています。この実年代の分かる遺物群の発見は、全国的にも希少であり、当時の生活や堀川に所在していました町屋敷の様子を知る重要な成果を得ることができました。

本書が、学術研究はもとより、郷土の歴史を回帰する資料として寄与できるとともに文化財の保護・活用の一助になれば幸いです。

最後に、本遺跡の発掘調査の実施から本書の発刊に際し、ご理解とご協力をいただきました高橋治郎氏ならびに関係各位に対しまして深く感謝申し上げます。

平成16年３月31日

大分市教育委員会

教育長　秦　　政博

例　　言

1．本書は、大分市教育委員会が高橋治郎氏の委託を受けて実施した、大分市都町に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2．府内城・城下町跡第15次の発掘調査は、大分市教育委員会が調査主体となって、平成14年10月より平成15年３月にかけて実施した。
3．発掘調査にあたっては、高橋治郎氏の全面的な協力を得た。
遺跡の調査担当は池邉千太郎・羽田野達郎が行った。
4．本書に掲載した遺構実測図は、調査担当である池邉千太郎・羽田野達郎が、佐藤信良・姫野尚之・近藤智史の協力を得て作成した。遺構写真撮影は、池邉・羽田野が行った。
5．遺物整理は、高橋美佐子・芦田美保子・矢野幸栄・西田裕子が行った。
6．出土遺物の実測は、芦田・矢野・西田が行った。また、一部を雅企画有限会社に委託した。
7．遺物のトレースは、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
8．遺構のトレースは、株式会社大分コピーに委託した。
9．遺物の拓本は、雅企画有限会社に委託した。
10．報告書の図・表・レイアウト作成は、芦田・矢野・神崎順子・近藤・植田高夫が行った。
11．表作成は、芦田・矢野が行った。
12．遺物の写真撮影については、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
13．本調査の座標は、世界測地系(日本測地系2000)の平面直角座標２系(北緯33°０′、東経131°０′)をX・Y座標の基点として調査を行った。図版の座標の(　)内は、旧日本測地系の数値を記載している。
基準点測量においては、南武コンサルタント株式会社が行い、これを調査において使用した。
17．本書の執筆は、池邉・羽田野が行った。
18．本書の編集・構成は池邉・羽田野が行った。

凡　　例

1．遺構の規模については、mを用いている。
2．遺構実測の基準及び方位は、国土座標(第Ⅱ座標系)を用いている。
3．本書に用いた出土遺物の分類及び年代観は以下の文献による。

肥前陶磁器	九州陶磁学会編　2000　『九州陶磁の編年』
染付	小野正敏　1982「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁器研究』№2
擂鉢	佐藤浩司「近世擂鉢考　北部九州における擂鉢の生産と流通(１)」法哈嗟　第２号
	佐藤浩司「近世擂鉢考　北部九州における擂鉢の生産と流通(２)」法哈嗟　第３号
瓦	大分県教育委員会　1993　『府内城三之丸遺跡』
	吉田　寛　2003「近世府内城・近世府内城下町跡出土瓦の編年的研究」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念事業会
その他全般	江戸遺跡研究会編　2001『図説江戸考古学研究事典』

また、一部の近世陶磁器の分類、編年観については吉田寛氏(大分県教育委員会)よりご教示いただいたものである。

4．焼継ぎ文字の判読については、以下の方のご教示による。
武富雅宣（大分市歴史資料館）
5．本書には、遺構・遺物・調査映像等を収録したCD－ROMが付属する。

目　　次

第１章　はじめに……1
　１節　調査に至る経緯……1
　２節　調査の経過……1
　３節　調査組織……2
第２章　遺跡の地理的環境……3
　１節　遺跡周辺の立地と環境……3
　２節　遺跡の立地と環境について……5～6
第３章　発掘調査の成果……7
　１節　調査の概要と基本層位……7
　２節　主要遺構……15
　　１．土坑遺構……15
　　２．柱穴遺構……45
　　３．溝状遺構……45
　　４．整地層……47
　　５．その他遺構・出土遺物……48
第４章　まとめ……50
　１節　火災処理土坑について……50
　２節　出土土師器について……51～52
　３節　遺構の変遷について……53
　４節　遺物の組成について……55

図版目次

第１図　遺跡周辺分布図（1/25,000）……4
第２図　調査地点位置図（1/2,500）……6
第３図　土層模式図……7
第４図　調査区グリッド配置図（1/200）……7
第５図　遺構配置図（1/100）……8
第６図　遺構平面図（1/80）……9～10
第７図　西面土層断面図（1/100）……11
第８図　南面土層断面図（1/100）……12
第９図　S001平面・断面図（1/40）……15
第10図　S001遺物実測図①（1/3）……15
第11図　S001遺物実測図②（1/4）……15
第12図　S001遺物実測図③（1/4）……16
第13図　S002平面・断面図（1/40）……16
第14図　S002遺物実測図①（1/3）……17
第15図　S002遺物実測図②（1/3）……18
第16図　S002遺物実測図③（1/3）……19
第17図　S002遺物実測図④（1/3）……20
第18図　S002遺物実測図⑤（1/4）……20
第19図　S002遺物実測図⑥（1/4）……21
第20図　S006平面・断面図（1/40）……21
第21図　S006遺物実測図①（1/3）……21
第22図　S006遺物実測図②（1/4）……21
第23図　S007・008平面・断面図（1/40）……22
第24図　S007遺物実測図（1/3）……22
第25図　S008遺物実測図（1/3）……22
第26図　S015平面・断面図（1/40）……23

第27図　S015遺物実測図①（1/3）……23
第28図　S015遺物実測図②（1/4）……24
第29図　S016平面・断面図（1/40）……24
第30図　S016遺物実測図（1/4）……24
第31図　S019遺物実測図（1/3）……25
第32図　S022平面・断面図（1/40）……25
第33図　S022遺物実測図①（1/3）……25
第34図　S022遺物実測図②（1/4）……25
第35図　S025平面・断面図（1/40）……26
第36図　S025遺物実測図①（1/3）……26
第37図　S025遺物実測図②（1/4）……26
第38図　S032平面・断面図（1/40）……27
第39図　S032遺物実測図①（1/3）……27
第40図　S032遺物実測図②（1/3）……28
第41図　S032遺物実測図③（1/3）……29
第42図　S032遺物実測図④（1/3）……30
第43図　S032遺物実測図⑤（1/4）……31
第44図　S032遺物実測図⑥（1/4）……32
第45図　S033平面・断面図（1/40）……32
第46図　S033遺物実測図①（1/3）……33
第47図　S033遺物実測図②（1/4）……34
第48図　S034平面・断面図（1/40）……34
第49図　S034遺物実測図①（1/3）……34
第50図　S034遺物実測図②（1/3）……35
第51図　S034遺物実測図③（1/4）……35
第52図　S039遺物実測図（1/3）……36
第53図　S040平面図（1/40）……36
第54図　S040遺物実測図（1/3）……36
第55図　S042断面図（1/40）……37
第56図　S042遺物実測図①（1/3）……37
第57図　S042遺物実測図②（1/4）……37
第58図　S045平面・断面図（1/40）……38
第59図　S045遺物実測図（1/3）……38
第60図　S046平面図（1/40）……38
第61図　S046遺物実測図①（1/3）……38
第62図　S046遺物実測図②（1/3）……39
第63図　S046遺物実測図③（1/4）……39
第64図　S049平面図（1/40）……39
第65図　S049遺物実測図（1/3）……39
第66図　S050平面図（1/20）……40
第67図　S050遺物実測図（1/3）……40
第68図　S051平面図（1/40）……40
第69図　S051遺物実測図（1/3）……40
第70図　S052平面・断面図（1/40）……41
第71図　S052遺物実測図①（1/3）……41
第72図　S052遺物実測図②（1/4）……42
第73図　S054平面・断面図（1/40）……42
第74図　S054遺物実測図①（1/3）……42
第75図　S054遺物実測図②（1/4）……42
第76図　S055平面図（1/40）……43
第77図　S055遺物実測図①（1/3）……43

第78図　S055遺物実測図②（1/3）……44
第79図　S055遺物実測図③（1/4）……44
第80図　S058平面図（1/40）……44
第81図　S058遺物実測図（1/3）……44
第82図　S009遺物実測図（1/3）……45
第83図　S023遺物実測図（1/3）……45
第84図　S011遺物実測図（1/4）……45
第85図　S012遺物実測図（1/3）……46
第86図　S031遺物実測図（1/3）……46
第87図　整地層遺物実測図①（1/3）……47
第88図　整地層遺物実測図②（1/4）……47
第89図　S021・024・027・043・057・059・060・061・063遺物実測図（1/3）……48
第90図　S066・067遺物実測図（1/3）……49
第91図　S061・066・067遺物実測図（1/4）……49
第92図　表土遺物実測図①（1/3）……49
第93図　表土遺物実測図②（1/4）……49
第94図　京都系土師器変遷図……51

表　目　次

第１表　遺構台帳①……13
第２表　遺構台帳②……14
第３表　「府内藩日記」にみえる大火（100軒以上のもの『大分市史　中巻』より）……50
第４表　遺構変遷表……54
第５表　時期別陶磁器の組成表……56
第６表　時期別陶磁器の組成グラフ……56
第７表　時期別特定遺物数量表……56
第８表　時期別陶器の産地数量表……56
第９表　遺構別陶器の産地別組成表……56
第10表　遺物観察表①……57
第11表　遺物観察表②……58
第12表　遺物観察表③……59
第13表　遺物観察表④……60
第14表　遺物観察表⑤……61
第15表　遺物観察表⑥……62
第16表　遺物観察表⑦……63
第17表　遺物観察表⑧……64
第18表　遺物観察表⑨……65
第19表　遺物観察表⑩……66
第20表　遺物観察表⑪……67
第21表　遺物観察表⑫……68
第22表　遺物観察表⑬……69
第23表　遺物観察表⑭……70
第24表　遺物観察表⑮……71
第25表　遺物観察表⑯……72
第26表　遺物観察表⑰……73
第27表　遺物観察表⑱……74

第1章　はじめに

1節　調査に至る経緯

平成13年(1997)大分市都町2丁目133番、134番、164番-1・2で娯楽施設が計画され、これに伴い地権者である高橋治郎氏より、埋蔵文化財の所在状況について照会が行われた。この事業計画地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である府内城・城下町遺跡の範囲内にあたることから、大分市教育委員会では、まず遺構の遺存状況を確認することとし、確認調査を平成13年10年25日、11月1日に実施した。その結果、近世期の遺構が検出された。このため、事業主体者である高橋氏と協議を行った結果、発掘調査を実施し遺構の記録保存を図ることにした。本調査にあたっては、平成14年10月7日から調査に着手することとなった。

2節　調査の経過

調査日誌抄

2002年(平成14年)

10月7日(月)　重機による表土はぎ開始
10月15日(火)　遺構検出作業開始
　　遺物の洗浄と接合を開始
10月16日(水)　撹乱の掘り下げ開始
10月21日(月)　調査区北側部分の遺構検出を開始
　　調査区壁面の精査を行う
　　火災処理土坑、道路状遺構確認
10月23日(水)　調査区の全域の遺構検出終了
10月24日(木)　基準点測量及び基準点設置
　　調査区の遺構検出全景写真撮影
11月5日(火)　遺構の掘り下げ本格的に開始
11月6日(水)　S001の掘り下げにより紀年銘のある硯が出土
　　遺構が1734年・堀川町大火時の火災処理土坑であることが判明
12月5日(木)　調査区拡張のため拡張区精査
　　重機による廃土移動
　　遺構の測量に使用するパソコン設置
　　測量システム始動
12月10日(火)　拡張区の掘り下げ開始
　　埋置された京都系士師器が出土
12月11日(水)　礎石建物跡の写真撮影を行う
12月19日(木)　調査区全景完掘写真の撮影

2003年(平成15年)

1月8日(水)　整地層掘り下げ開始
2月7日(金)　上野中学校の体験学習を受け入れる
2月14日(金)　整地層掘り下げ完了、壁面再精査
2月20日(木)　壁面の写真撮影、土層図の作成
3月11日(火)　壁面の写真撮影、土層図の作成完了
3月12日(水)　調査区へ土を埋め戻し
3月20日(木)　埋め戻し完了、調査終了

報告書日誌抄

2003年（平成15年）

4月
　遺物接合
　図面の整理
5月
　遺物・遺構台帳作成
6月
　実測委託の遺物の分類
　遺物実測
7月
　遺物実測
8月
　遺物実測
9月
　遺物実測委託
10月
　図版の下図作成
11月
　図版トレース委託
　報告書レイアウト作成
　第1章原稿作成
12月
　遺構・遺物図版の版組み
1月
　第2・3章原稿作成
　コンテンツ製作
2月
　第4章原稿作成
　校正開始　CD－ROM作成
3月
　印刷

3節　調査組織

平成14年度（本調査）

調査主体　大分市教育委員会　教育長　秦　政博

事務局　大分市教育委員会　文化財課
- 課長　帯刀　修一
- 参事　玉永　光洋

管理係　課長補佐兼管理係長　熊谷　一秋
- 指導主事　姫野　公徳
- 主任　幸　裕美　桑原　治
- 主事　三浦　亜紀

文化財係　課長補佐兼文化財係長　讃岐　和夫
- 専門員　塔鼻　光司
- 指導主事　後藤　典幸
- 主任技師　坪根　伸也　池邉千太郎　塩地　潤一
- 技師　高畠　豊　河野　史郎　中西　武尚
- 主事　永松　正大
- 事務員　佐藤　道文
- 嘱託　井口あけみ　荻　幸二　宮田　剛　奥村　義貴　勝間田あや　苅谷　史穂　羽田野達郎　梅木　信宏　上野　淳也　梅田　昭宏　岩尾美保子　佐藤　孝則　松竹　智之　松尾　聡　小住　武史　羽田野裕之　水町　裕子
- 発掘作業員　安倍いつよ　工藤　錠二　奈須　敏雄　西田　裕子　高橋美佐子　斎藤ふみ子　島田　栄子　城本　和子　佐藤　信良　古谷　哲男　姫野　学　姫野　尚之　近藤　智史

平成15年度（調査報告書刊行）

調査主体　大分市教育委員会　教育長　秦　政博

事務局　大分市教育委員会　文化財課
- 課長　帯刀　修一
- 参事　玉永　光洋

管理係　管理係長　久多羅木明
- 主査　平野　勝敏
- 指導主事　姫野　公徳
- 主任　桑原　治　安倍　一成
- 主事　三浦　亜紀

文化財係　課長補佐兼文化財係長　讃岐　和夫
- 専門員　塔鼻　光司
- 指導主事　後藤　典幸
- 主任技師　坪根　伸也　池邉千太郎　塩地　潤一
- 技師　高畠　豊　河野　史郎　中西　武尚
- 主事　永松　正大　佐藤　道文
- 事務員　五十川雄也
- 嘱託　井口あけみ　荻　幸二　宮田　剛　奥村　義貴　苅谷　史穂　羽田野達郎　梅木　信宏　上野　淳也　梅田　昭宏　岩尾美保子　佐藤　孝則　松竹　智之　松尾　聡　小住　武史　羽田野裕之　水町　裕子　小橋　寛之　江藤　亮介　江上　正高　大野　瑞恵　秦　さとみ　吉本　明高
- 整理作業員　芦田美保子

第２章　遺跡の地理的環境

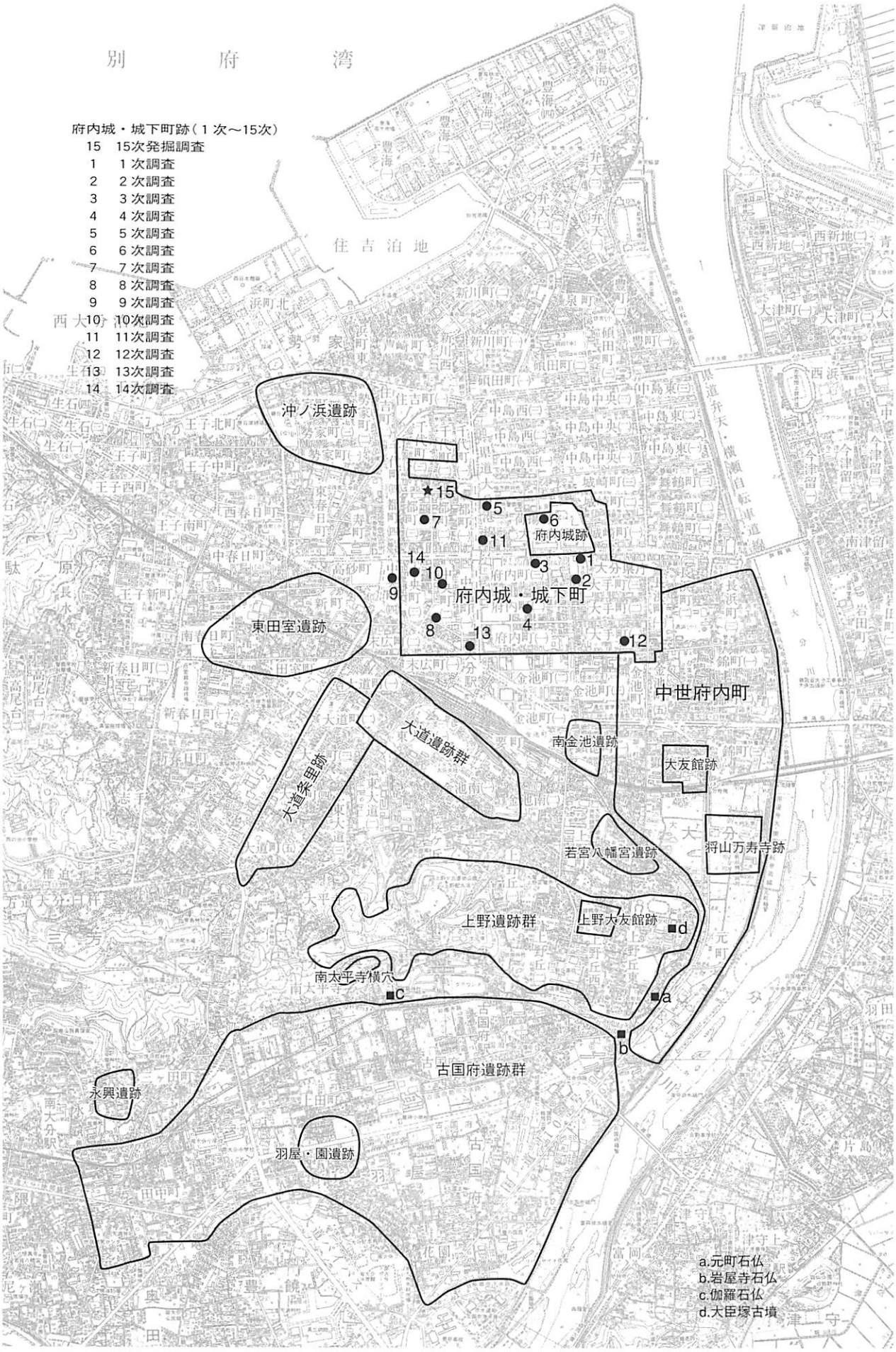
１節　遺跡周辺の立地と環境

１、遺跡の立地

遺跡の立地する大分平野は、別府湾に面しており、丘陵地・台地・低地の三つの地形で構成される。この大分平野には、東側に大野川と、中央部から西側に大分川の２大河川が存在しており、これらの河川が大分平野の地形に少なからず影響を与えている。今回の調査地である府内城・城下町跡は、大分平野の中央部に位置し、大分川の河口付近、大分川の分流と住吉川にはさまれた標高3.5～4.0mの微高地に形成されている。遺跡のすぐ北側には別府湾が広がり、南側には、標高35mの上野丘丘陵がある。

２、歴史的環境

このような立地環境の中、大分川左岸地域の主要遺跡を中心に時代ごとに中世に至るまで概観していくと古くから遺跡が展開していることが分かる。縄文時代では、縄文時代後期～晩期の遺物の出土が確認されている大分川河川敷遺跡がある。弥生時代では、上野丘丘陵に位置する弥生時代中期後半の環濠集落が確認されている上野遺跡群がある。弥生時代終末～古墳時代初頭の遺跡では、市街地の中心部に位置し、集落跡が確認された東田室遺跡群、大道遺跡群がある。古墳時代は、上野丘丘陵西端に位置する全長50mを測る前方後円墳の大臣塚古墳がある。古墳時代～古代にかけての時代には、推迫丘陵の南側斜面に位置する国史跡古宮古墳があり、被葬者として壬申の乱で活躍した大分君恵尺が推測されており、また、畿内型石室を持つという特徴がある。古代では、市街地の南に位置する古国府・羽屋の一帯の古国府遺跡群と、上野丘丘陵一帯の上野遺跡群が挙げられる。古国府遺跡群は、今でも古国府と呼ばれ、また、国司の機能を代表する、国印と官倉を司ったとされる印鑰社が所在しているなど、古くから国府に推定地になっていた所である。一方、上野遺跡群も、かつて平安時代後期に「高国府」と称され、豊後国の中枢となる国府の推定地となっている。そのような歴史的背景の中、現在の古国府遺跡群の西側に位置する羽屋井戸・羽屋園遺跡では、官衙遺跡の前身と考えられる７世紀後半～８世紀初頭の時期に方形の堀り方をもつ総柱の掘立柱跡や大型の掘立柱跡が確認されている。上野遺跡群では、９世紀代を中心に10世紀に至るまでの掘立柱建物跡や築地塀跡などが検出されている竜王畑遺跡があり、国司館ではないか想定されている。そのほか、遺跡群内には、８世紀～９世紀に作られた基壇の伴う礎石建物跡や豊後国分寺創建時の軒平瓦が出土した古代寺院・上野廃寺が存在する。このように、古国府から上野丘丘陵にかけては、豊後を治めた政治の拠点として機能していた地域であることがおぼろげながら判明しつつある。中世では、鎌倉時代中期に豊後国に守護として大友氏３代頼泰が入国して以来、その拠点である守護所がおかれ、戦国時代にかけては中世都市「府内」として発展した大友城下町がある。そして、その中世「府内」については戦国時代末期の様子を描いたと推定される絵図「府内古図」に存在を知ることが出来る。それによれば、当時の町は南北に４本の大路とこれに交差する７本の東西道とにより、碁盤目状に区切られ、道の交差する所には木戸を示した表現も見られる。その中に大友館や万寿寺、御蔵場が描かれている。この「府内古図」の現地比定については、1987年の大分市史編纂の際に試みられ、「戦国時代の府内復原想定図」が作成されている。これにより絵図に描写された府内町は現在の大分川下流左岸に位置し、南北2.2km、東西0.8kmにわたって広がっていることが考えられ、1996年から始まった中世大友府内町跡の発掘調査、1998年から始まった大友氏館跡の発掘調査により、復元想定図が考古学的観点からみて信憑性が高いことが確かめられている。そして、現在、館跡はその古図を基にした調査により、庭園跡、土塁跡、大型礎石建物跡などが発見され、平成13年には、国史跡として指定されている。中世大友府内町跡では、大友御蔵場の北側築地塀の発見を始めとして、館東側に面していた南北大路と名ケ小路の交差地点と木戸跡、教会施設に付属する墓地跡、万寿寺跡北限の溝などが確認され、キリシタン関係を示唆するコンタやメダイ、また、中国華南地方・タイ・ミャンマー・ベトナムの陶磁器類が大量に発見されるなど、中世の国際貿易都市府内の繁栄ぶりが徐々にではあるが明らかになりつつある。



第1図　遺跡周辺分布図（1/25,000）

2節　遺跡の立地と環境について

城下形成の歴史

文禄2年(1593)大友吉統が朝鮮出兵での失態を理由に除国され、豊後国は、豊臣秀吉の直轄地(蔵入地)となる。早川長敏は、その豊後府内に蔵入地預かり分を含む計6万石で入封し、旧大友館を修築して使用したといわれる。府内城・城下町の形成の歴史は、その長敏に替わって、豊後臼杵から慶長2年(1597)福原直高が大分郡及び速見郡計12万石で入封した頃から始まる。直高は中世府内町の北方、別府湾に面する「荷落」と称されていた地を選地し、築城に着手し、慶長4年(1599)には二ノ曲輪三重櫓や三ノ曲輪家臣屋敷を完成させ、地名を「荷揚」と改め、新城を「荷揚城」と称している。しかし同年、直高は改易され、その後、早川長敏が再入封するが滅亡。慶長5年(1600)関ヶ原合戦の後、豊後高田から竹中重利が3万5千石で入封すると、竹中氏は築城事業を再開し、慶長7年(1602)には四重天守等の城郭中心部を完成させた。そして、慶長10年(1605)城下町を囲繞する濠を築き、城名を「府内城」、城下町を「府内」と改めると、慶長12年(1607)には城下の東に塩九升口、西に笠和口、北に堀川口を設置し、翌年には船入り「京泊」を造らせ城下町は完成している。完成後は、寛永11年(1634)竹中氏二代重義が改易された後、替わって下野国壬生から2万石で入封した日根野吉明が府内城・城下町の再整備を行っている。明暦2年(1656)日根野氏が一代で断絶し、一旦幕府の管理下に置かれた後は、万治元年(1658)松平忠昭が2万2千石で入封し、明治時代を迎えるまで松平氏が十二代にわたって城主として府内藩を統治している。

城下町の様子と構造

府内藩は、松平氏時代以降には2万2千石に過ぎなかったが、城下町は小藩と思えない規模で発展している。これは、当初大分郡・速見郡12万石の城として築城されたということ、並びに中世府内町の移転により大友氏時代から続く豊後の経済的中枢機能を引き継いだことに起因すると考えられる。17世紀末に府内城下を訪れた儒学者、貝原益軒は、「町すこぶるひろし、万の売り物備われり」などと記しており、その繁栄がうかがわれる。それは、城下町が東西1.1km、南北約1kmの豊後最大の規模を誇っていたことにも表れている。そして、その構造が城においては、本丸を囲む堀、二ノ丸をめぐる内堀に区画され、平城の無防備を水で固めた水城の性格を持つものであり、城下町は、侍町の三ノ丸を囲む中堀、そしてまた、町人町の外を大きくめぐる外掘りを設けるものであった。このように、府内城下は4重の構えとなっている。外堀の内側部分は御門内で、外側部分の門外とは、三口御門でつながる。西にある笠和口、西北隅にある堀川(勢家)口、東南隅にある塩九升口がそれである。中堀と外掘りの間に築かれた町人町は、ほぼ長方形に区画された町割りが特徴である。一方、三ノ丸の侍町は、概して不統一な町割りとなっている。町数は、門内では47町、門外では4町である。

府内城・城下町の現在

大正3年陸軍陸地測量部作成の地図においても大分市の市街地は依然として府内城・城下町の範囲を大きく出ていないことが読みとれる。市街地の飛躍的な改変は、太平洋戦争後の再建、さらには高度成長期に実施された大規模な市町村合併による新大分市の成立と新産業都市としての発展により変貌した。そのため、江戸時代の府内城と城下町のその姿を伝える遺構は、現在、城址公園として残る石垣・水堀と本丸人質櫓、二ノ曲輪宗門櫓、帯曲輪石垣、整備復原された廊下橋で、旧来の規模の1/10にも満たない。そしてかろうじて空襲の被害が軽微であった千代町、大手町、長浜町付近の区画が城下町の町割りをほぼ踏襲しているだけである。

発掘調査の成果

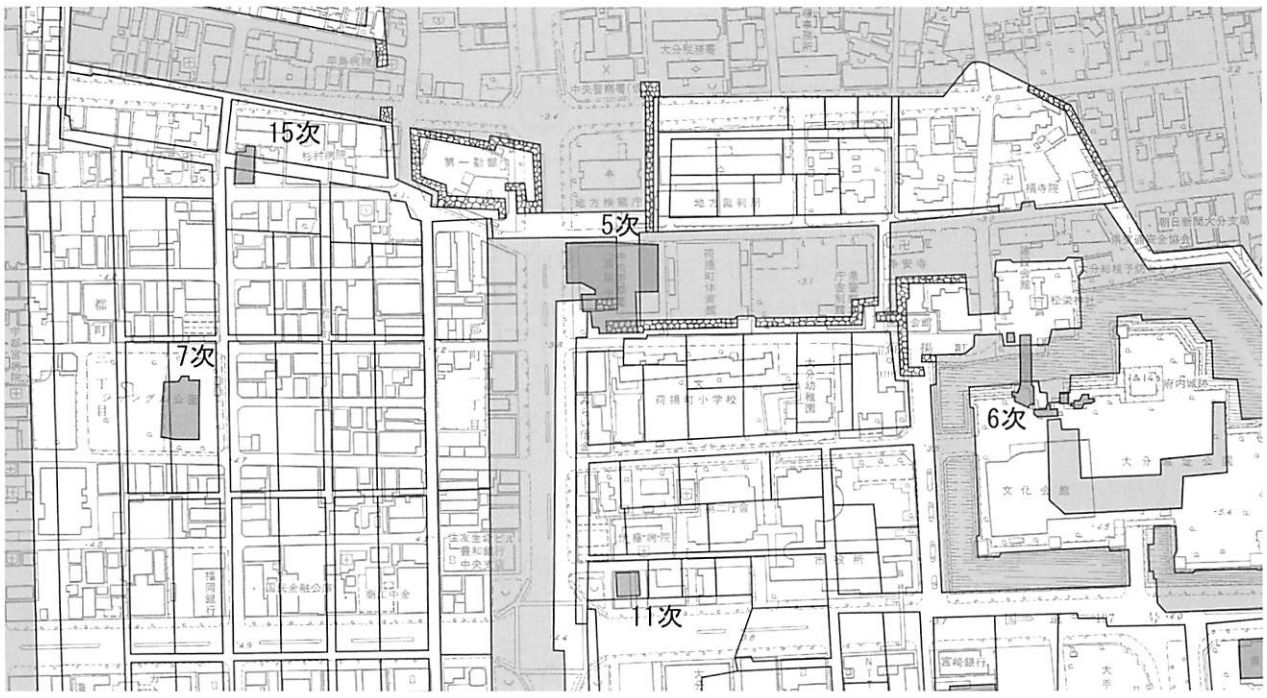
近世の府内城・城下町跡の発掘調査は、市街地の再開発により1991年から本格的に行われ、これまで14次にわたって調査が行われている。主要な成果としては、内曲輪内では、第1次調査で武家屋敷跡(木村家)・寺院跡(福寿院)・寛保の大火時の土坑、第11次調査で浄安寺の北側外郭線に伴う石列・武家屋敷(森下家)、三ノ丸北口にあたる第5次調査で門櫓の石垣・2重櫓台、第6次調査で内堀を横断する土橋の跡が出土している。外曲輪内では、第7次調査で寺町と塗師町との町境・町名の記された陶磁

器、第８次調査で城下町形成段階の整地層・西町と西上市町に面した道路跡、第12次調査で土塁跡・多量の焼き継文字の書かれた陶磁器、第14次調査で竹町に見られる東西道路に面した短冊地割りなどが確認されている。以上のように、城下の形成過程と構造、当時の人々の暮らしなどを窺い知る資料が出土し、徐々にその姿が明らかになりつつある。

堀川町について

堀川町は、絵図によると、府内城下町の北西端にあたる。その位置は、府内城下の絵図と復元図によれば、城下は北西隅に堀川口(勢家口)(現在の勢家町)、西側に笠和口(現在の竹町)南東には塩九升口(現在の長浜町)と呼称される３カ所の入り口が存在していることが分かる。このうち、堀川町は、その堀川口から入って最初の町で、口から船奉行屋敷に至るＬ字状に配置された南北道と東西道の両側に展開する両側町であった。由来は、慶長13年(1608)に北西に商船出入りのための堀江を開いた後、堀川と名付け、港を設置したことに始まる。またの名を「京泊」とも呼ばれている。そして、その堀を挟んで町の最も北側には、船頭町がある。船頭町は、現在は、千代町とよばれ近世の町割りを今にとどめている所である。町の西は、外曲輪土塁を挟んで外掘りに面しており、堀川町の門外は、沖ノ浜町が広がる。堀川町の南には、今在家町、田町、茶屋町、魚町が展開している。

旧堀川町が、その歴史の記録で残っている主な事項としては、大火が起きたことと、近現代に、路面電車の軌道が敷設されていたことである。そして府内城下町は太平洋戦争末期の空襲による被災や近年の都市再開発により城下町の面影を偲ばせる景観がほとんど失われ、城下町内で使用されていた47の町名も昭和38年(1963)に施行された新地番表示により公式には使用されなくなった。そのため、旧堀川町とその周辺には、城下町を偲ぶ、町名や佇まいはほとんど残っていない。



第２図　調査地点位置図（1/2,500）

参考文献

大分市教育委員会　1997　『大分市の文化財』

大分市教育委員会　1987　『大分市史』　上巻、中巻、下巻

大分市教育委員会　2001　『南蛮都市・豊後府内　都市と交流』中世都市研究会

大分市歴史資料館　1995　「豊後府内城」　第14回特別展『城のある風景』図録

加藤　貞　弘　1977　『大分市・消えた町名　－その由来と暮らし－』　大分合同新聞社

木村　幾多郎　1997　「豊後府内の都市建築」『大分・大友土器研究会』第21号　大分・大友土器研究会

木村　幾多郎　2001　「豊後府内町移転と旧府内町」『大分・大友土器研究会論集』

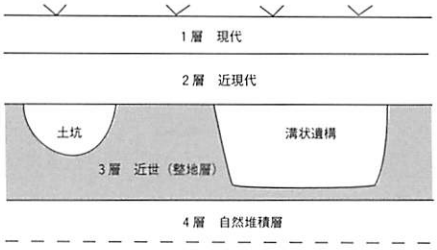
大野　康　宏　2001　「府内城・城下町の曲輪間段差とその意義について」『大分・大友土器研究会論集』

第３章　発掘調査の成果

１節　調査の概要と基本層位

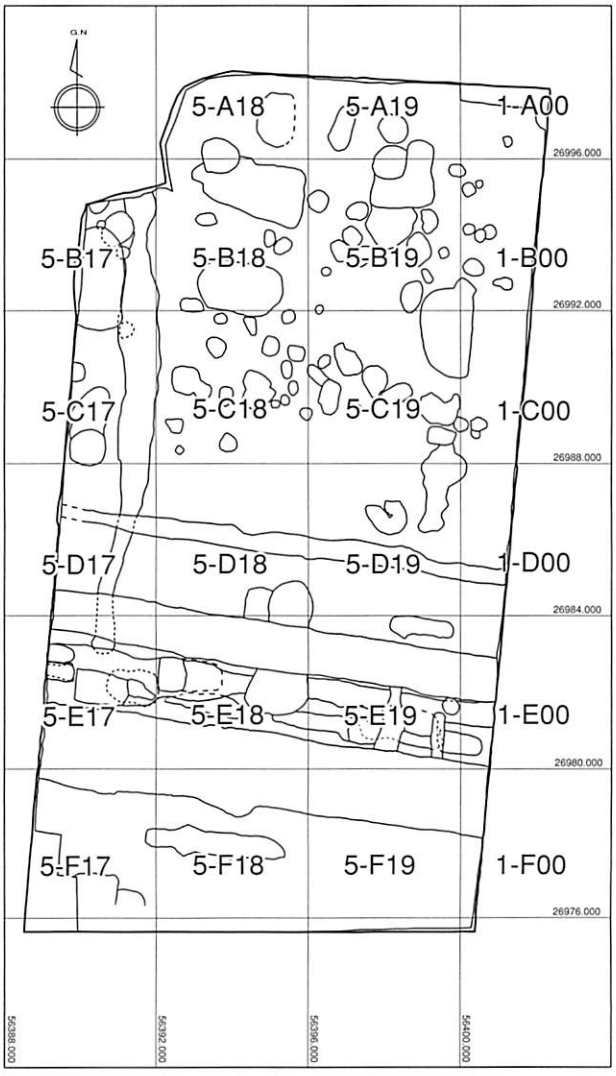
調査をおこなった府内城・城下町跡の調査面積は、216㎡である。調査の結果、一部近現代の開発に伴って近世の遺構が削平を受けているため、残存率が良好ではない遺構も存在したものの、概ね調査地全域で遺構を検出することができた。調査により、遺構面は一面で、近世初頭の整地層に18世紀～19世紀にかけて遺構が形成されていることが判明した。確認された近世の遺構は、火災処理土坑３基、廃棄土坑６基、溝状遺構３条、土坑３基、礎石跡、道路状遺構、土器埋置遺構、柱穴である。

火災処理土坑(S002)は、焼土や被災を受けた多量の陶磁器や瓦、硯が出土している。硯には享保13年(1728)の紀年銘とともに「安倍時信」という名と花押が彫りこまれている。このことから享保19年(1734)１月14日に堀川町の松本与七郎の土蔵から出火し、町数24、家608、倉13、死人９(男６・女３)、酒井七兵衛屋敷等が焼けるという大火の災害記録が残っているように、火災に伴う屋敷の片付けによって作られた遺構と考えられる。東西方向にのびる道路状遺構は、南北に幅４ｍと想定され、深さ1.5mの近現代の側溝施設によって破壊されていた。しかし、土層の一部に密な互層堆積層と道路に付設したと思われる溝状遺構(S042, S047, S048)が認められ、また、近現代の側溝が旧道路空間を踏襲して作った施設である可能性が高いことを考慮すると、復元図で想定した位置に道路が存在していたことはほぼ間違いないものと考えられる。そのほか、一時期道路推定内に複数の土坑(S015, S025, S032, S033, S034, S046, S052, S055)が連続して作られることが認められる。そのため、道路幅の変更が行われていたことが考えられる。土器埋納遺構(S050)は、火災処理土坑(S002)が埋まった後に新たに掘りこまれた状況で検出され、遺構内の並んだ二つの礎石の間に、京都系の系譜をたどる非ロクロ成形の土師器皿２枚が合わせ口に重ねられ埋置した状態で出土している。東西に渡り検出された溝状遺構(S044)は、建物敷地内と道路空間を区切る区画の溝であることが考えられる。南北に渡り検出された溝状遺構(S033)は、区画の溝であることが考えられる。その他、明治時代以降の遺構は、コンクリート製の排水施設と思われる構造物、昭和20年７月の太平洋戦争による大分市空襲時の火災処理層が確認されている。

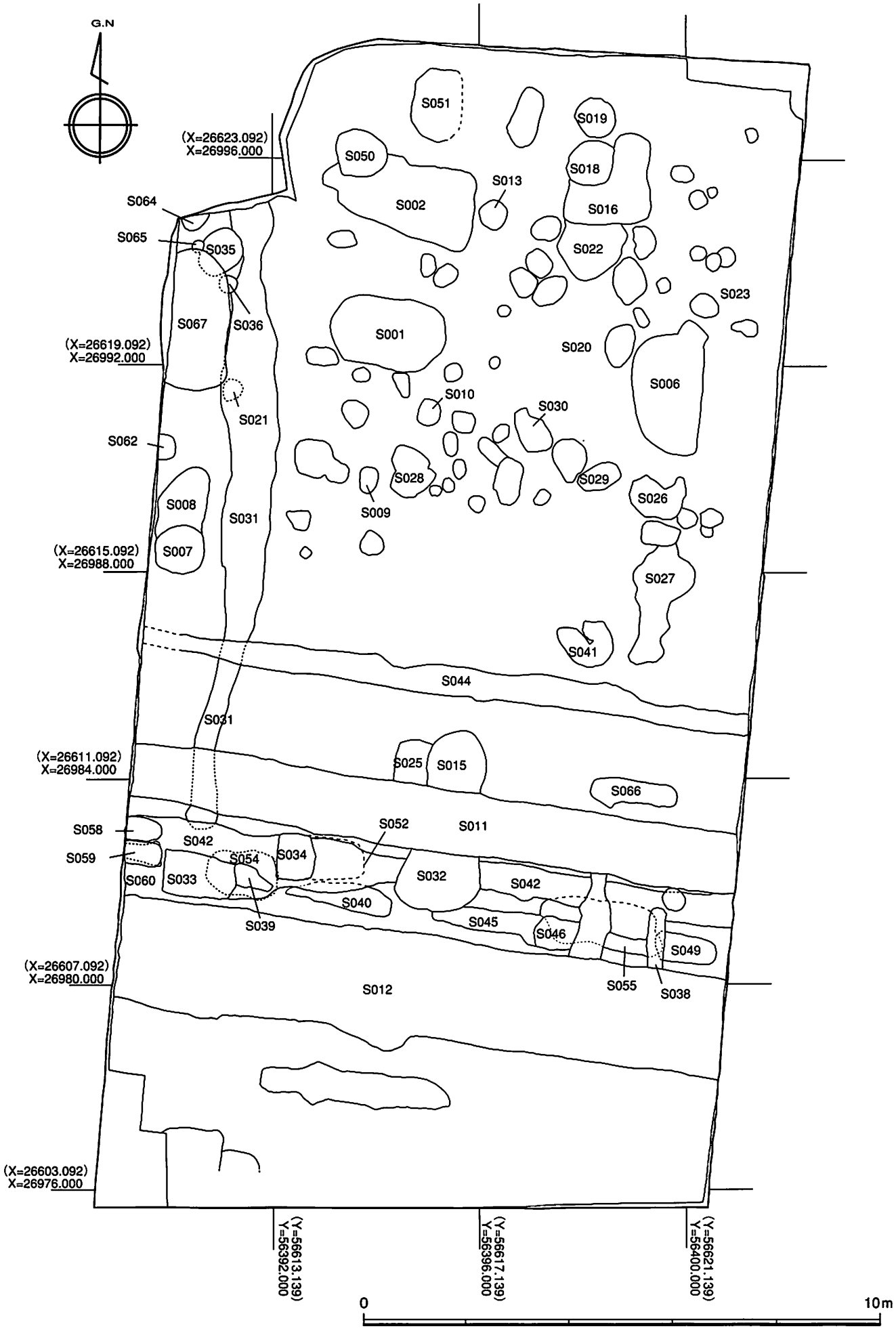


第３図　土層模式図

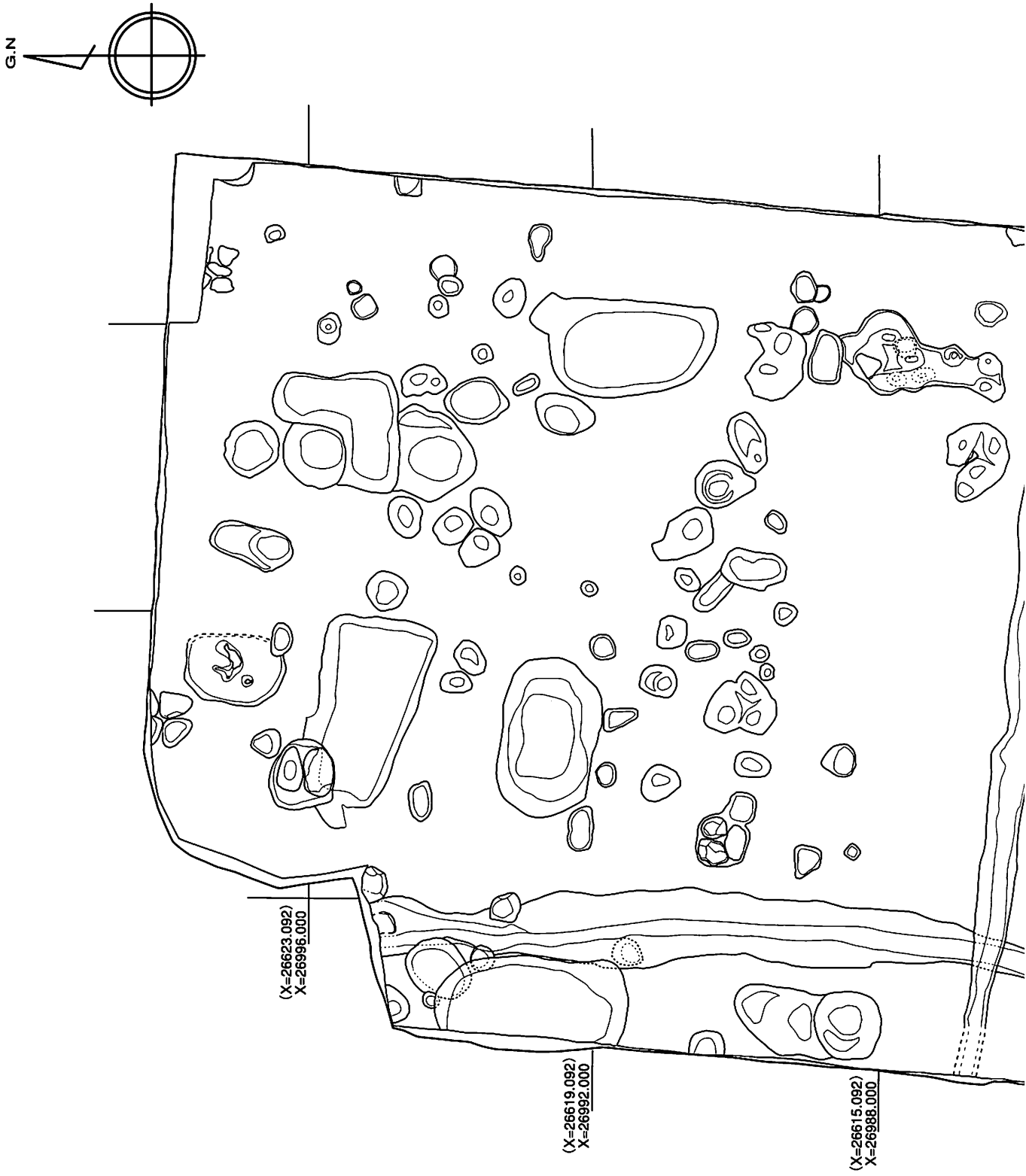
調査地点の基本層位は、大別して４層に分かれる。１層は、現代の整地層、２層が近現代の整地層(昭和20年７月の太平洋戦争による大分市空襲時の火災処理層も含む)、３層が近世の整地層、４層が自然堆積層であった。



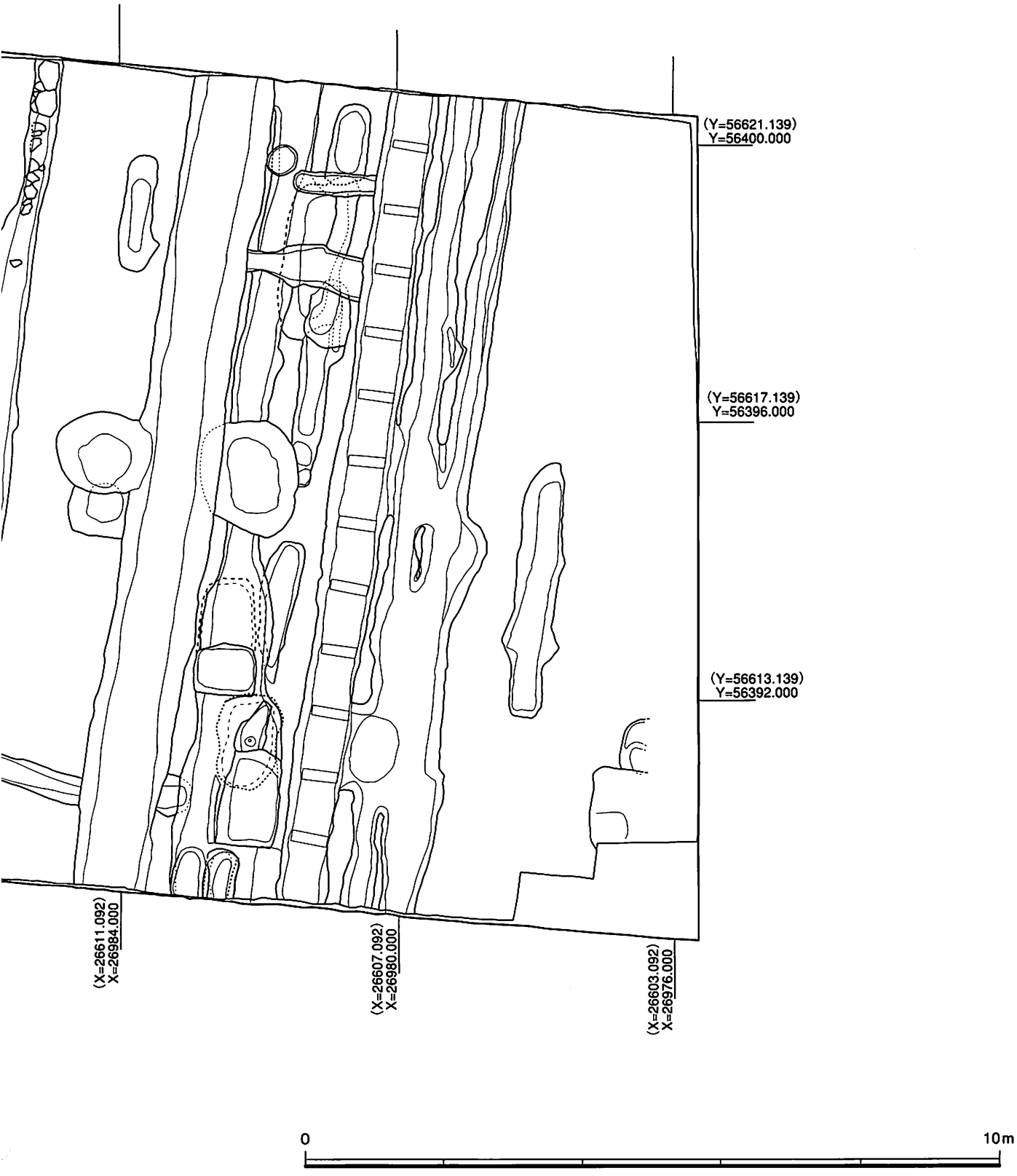
第４図　調査区グリッド配置図（1/200）

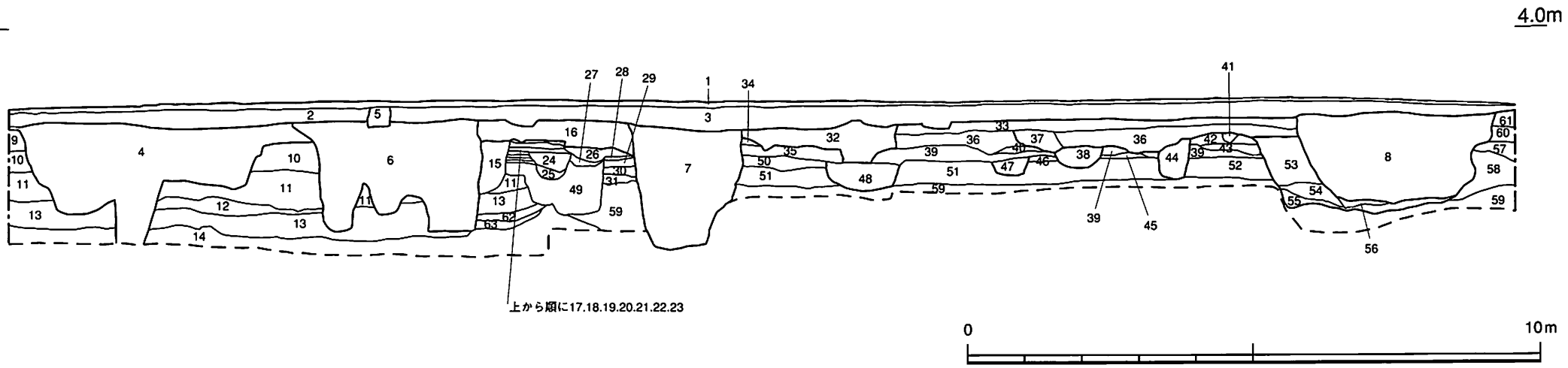


第５図　遺構配置図（1/100）



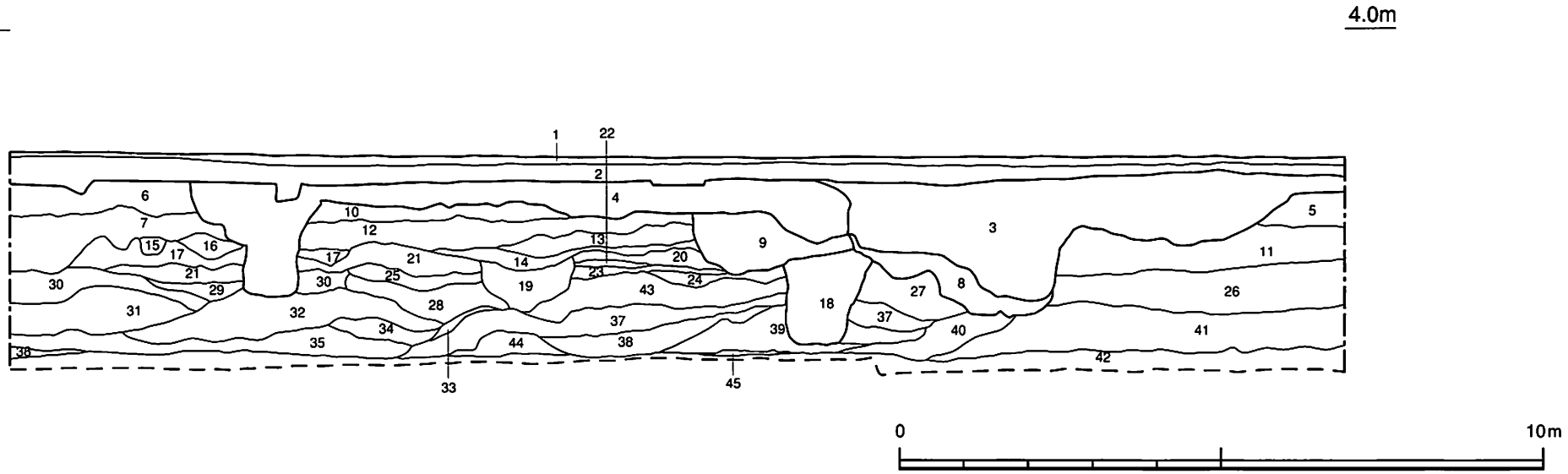
第6図　遺構平面図（1/80）


(Y=56621.139)
Y=56400.000
(Y=56617.139)
Y=56396.000
(Y=56613.139)
Y=56392.000
(X=26611.092)
X=26984.000
(X=26607.092)
X=26980.000
(X=26603.092)
X=26976.000
0
10m



第7図　西面土層断面図（1/100）

1　アスファルト
2　近・現代の整地層
3　近・現代の整地層（1部空襲時の火災処理土を含む）
4　撹乱
5　コンクリートの基礎
6　撹乱
7　撹乱
8　撹乱
9　淡褐色土層（焼土粒を微量に含む）
10　褐色土層（炭を微量に含む。茶色ブロック土を少量含む）
11　褐色土層（茶色ブロック土を微量含む）
12　暗褐茶色土層（黄色ブロック土中量含む）
13　淡灰黄褐色土層（黄灰色ブロック土中量含む。褐色ブロック土が一部シミ状に少量堆積する、灰色ブロック土が少量含む。暗黄色ブロック土が一部シミ状に少量堆積する）
14　灰褐茶色シルト質土層（一部上層との境に鉄分沈着層あり。自然堆積層）
15　暗褐黄色土層（灰色ブロック土を微量に含む）
16　近・現代の道路舗装面か？非常に密に版築されている。非常に硬く締まる
17　灰褐色土層（道路状遺構の版築跡）
18　暗灰褐色土層（道路状遺構の版築跡）
19　褐灰色土層（道路状遺構の版築跡）
20　灰色土層（道路状遺構の版築跡）
21　暗灰色土層（道路状遺構の版築跡）
22　灰色粘土層（道路状遺構の版築跡）
23　暗褐灰色土層（道路状遺構の版築跡）
24　淡褐色土層
25　淡褐茶色土層
26　黒褐色土層
27　淡灰褐色土層
28　褐色粘土層（道路状遺構の版築跡）
29　褐茶色土層（道路状遺構の版築跡）
30　黄茶色粘土層（道路状遺構の版築跡）
31　黄茶色シルト質土層
32　撹乱
33　褐色土層（茶色ブロック土微量含む、近・現代の層）
34　灰色土層
35　淡褐色土層
36　暗褐色土層（焼土粒を微量に含む。茶色ブロック土を微量に含む）
37　暗褐色土層（近・現代の火災処理土坑。瓦を多量に含む）
38　灰褐色土層（礫を多量に含む）
39　淡褐灰土層
40　淡褐色粘質土層
41　褐色土層
42　褐灰色土層
43　暗褐茶色土層（黄茶色粘質ブロック土を含む）
44　褐黒色土層
45　淡灰褐色砂利層
46　淡褐灰色砂利層
47　茶褐色土層
48　暗灰褐色土層
49　茶灰色粘土層
50　暗褐色土層
51　褐黄色土層
52　暗灰褐黄色土層
53　暗褐色土層（焼土粒を少量含む。灰茶色ブロック土を微量に含む）
54　灰褐色土（灰茶色ブロック土を微量に含む）
55　暗灰褐色粘質土層
56　褐色土層（撹乱土層の下層）
57　暗灰褐色土層
58　明褐色土層（茶色ブロック土を少量含む）
59　青灰色シルト質土層（一部上層との境に鉄分沈着層あり。自然堆積層）
60　褐色土層（近・現代の層）
61　近・現代の整地層（3層と同層か？）
62　淡褐灰色シルト質土層（砂粒を微量に含む）
63　淡黄茶色シルト質土層
（1，2，3，4，5，6，7，8，9，14，16，32，33，59，61を除き、すべての層は近世）



第８図　南面土層断面図（1/100）

1　アスファルト
2　現代の整地層・コンクリート
3　撹乱
4　撹乱
5　淡褐色土層（焼土粒を微量に含む）
6　淡褐色土層（近現代の層）
7　淡褐色土層（近現代の層・焼土粒を中量含む）
8　淡褐灰色土層
9　淡褐色土層（土層内に人頭大の礫を多量に含む）
10　褐色土層（焼土粒・炭を微量に含む。茶色ブロック土を微量に含む）
11　褐色土層（炭を微量に含む。茶色ブロック土を少量含む）
12　褐茶色土層（焼土粒を少量含む。炭を微量に含む。茶色ブロック土を少量含む）
13　黒灰褐色土層（炭を多量に含む。焼土粒を多量に含む。
享保19年（1734）１月14日、堀川町大火の火災時の層と考えられる）
14　暗褐灰色土層
15　灰褐色土層
16　淡褐灰色（焼土粒を小量含む。炭を少量含む）
17　暗褐茶色土層（炭を微量含む。茶色ブロック土を少量含む）
18　褐茶色土層（茶色ブロック土を少量含む）
19　褐茶色土層（茶色ブロック土を少量含む。瓦を含む）
20　淡褐茶色土層（炭を微量含む。茶色ブロック土を少量含む）
21　淡褐灰色土層（炭を微量含む。茶色ブロック土を微量含む）
22　淡灰黒褐色土層（炭を微量含む）
23　淡灰褐色土層（茶色ブロック土を微量含む）
24　暗灰褐色土層（茶色ブロック土を微量含む）
25　淡茶褐色土層
26　褐色土層（茶色ブロック土を微量含む）
27　暗褐茶色土層（茶色ブロック土を中量含む）
28　明褐茶色土層（茶色ブロック土を少量含む。砂粒を少量含む。黒色ブロック土を少量含む）
29　暗茶灰色土層（茶色ブロック土を少量含む）
30　淡褐茶色土層（灰色ブロック土を微量含む）
31　暗褐灰色土層（灰色ブロック土を少量含む）
32　灰黒褐色土層（黄茶色ブロック土を少量含む）
33　黄褐色土層
34　灰褐色土層（灰色ブロック土を少量含む）
35　褐黄灰色土層（灰色ブロック土を少量含む）
36　灰褐黄色土層
37　暗黒黄褐色土層（茶色ブロック土を少量含む。灰色ブロック土を少量含む）
38　黒褐色粘質土層（黄灰色ブロック土を微量含む）
39　黄褐色土層（黄灰色ブロック土を少量含む。褐色ブロック土を少量含む。黄色ブロック土を少量含む）
40　暗灰褐色粘質土層（黄灰色ブロック土を少量含む。自然堆積層）
41　淡灰黄褐色土層（黄灰色ブロック土を中量含む。褐色ブロック土が一部シミ状に少量堆積する。灰色ブロック土を少量含む。暗黄色ブロック土が一部シミ状に少量堆積する）
42　灰褐茶色シルト質土層（一部上層との境に鉄分沈着層あり）
43　明黄褐色土層（黄灰色ブロック土を中量含む。砂粒を微量含む。褐色ブロック土を微量含む）
44　暗褐黄色土層（黄色ブロック土を少量含む。褐色ブロック土を微量含む）
45　褐黄色土層
（1，2，3，4，5，6，7，8，9，10，11，12，42を除き、すべての層は近世）

遺構番号	種別	平面形態	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	面積（m²）	遺構の先後関係	遺構時期	遺物番号	備考
S001	火災処理土坑	楕円形	2.27	1.3	0.55	2.67	－	18世紀前半	R001～R022・R049	S002・S024と遺物接合
S002	火災処理土坑	隅丸長方形	3.03	1.59	0.85	3.72	S002→S050	18世紀前半	R023～R048・R050～R121	S001・S024・S050と遺物接合
S006	廃棄土坑	隅丸長方形	2.38	1.4	0.65	2.85	－	18世紀前半	R122～R125	
S007	土坑	円形	0.97	0.94	0.62	0.72	S008→S007	17世紀末	R126～R129	
S008	土坑	楕円形	1.56＋α	0.94	0.69	1.08＋α	S008→S007	17世紀末	R130・R131	
S009	ピット	楕円形	0.5	0.37	0.23	0.14	－	17世紀中頃	R132	
S010	ピット	楕円形	0.5	0.44	0.46	0.18	－	－	－	
S011	溝	－	検出11.89	幅1.2	0.75	検出13.86	S025→S015→S011、S031→S011、S032→S011	19世紀初頭	R133～R136	N－81°－W、東下がり、S033と遺物接合
S012	溝	－	検出11.83	幅2.0	0.53	検出23.85	S038→S012	19世紀後半	R137～R142	N－81°－W、東下がり
S013	ピット	円形	0.58	0.54	0.14	0.24	－	－	－	
S015	廃棄土坑	楕円形	1.43	1.16	1.12	1.33	S025→S015	18世紀中頃	R143～R160	S025と遺物接合
S016	土坑	不定形	1.76	1.68	0.16	1.90＋α	S018→S016	20世紀前半	R161～R175	
S018	土坑	円形	0.91	0.85	0.32	0.64	S018→S016	－	－	
S019	土坑	円形	0.78	0.73	0.45	0.47	－	－	R176	
S020	土坑	楕円形	0.86	0.55	0.47	0.36	－	－	－	
S021	ピット	円形	0.45	0.36	0.56	0.12	S021→S031	－	R177	
S022	土坑	不整形	1.12＋α	1.36	0.44	1.14＋α	S022→S016	17世紀末	R178～R180	
S023	ピット	円形	0.54	0.44	0.21	0.19	－	19世紀初頭	R181	
S025	土坑	方形	0.85＋α	0.62＋α	1	0.6＋α	S025→S015	18世紀前半	R182～R189	S015と遺物接合
S026	土坑	不定形	1.07	0.66	0.28	0.66	－	－	－	
S027	土坑	不定形	2.39	1.19	0.2	1.6	－	－	R190	
S028	ピット	不定形	0.94	0.88	0.18	0.61	－	－	－	
S029	ピット	楕円形	0.82	0.47	0.3	0.31	－	－	－	
S030	ピット	不定形	0.94	0.57	0.23	0.42	－	－	－	
S031	溝	－	検出12.4	幅1.1	0.2	検出8.7	S031→S011、S031→S044、S031→S035→S067	17世紀後半	R191	N－3°－E、南下がり、S053と遺物接合、S053と同一遺構
S032	廃棄土坑	隅丸長方形	1.66	1.41	0.95	1.88	S042→S032、S045→S032、S042→S032、S032→S011	19世紀中頃	R192～R309・R420	S034と遺物接合
S033	土坑	長方形	1.4	0.87	0.23	1.1	S054→S042→S039→S033	19世紀中頃	R310～R333	S011・S039と遺物接合

第1表 遺構台帳①

遺構番号	種　別	平面形態	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	面積（㎡）	遺構の先後関係	遺　構　時　期	遺物番号	備　　考
S034	土坑	長方形	0.9	0.73	0.5	0.6	S052→S042→S034	19世紀中頃	R334～R368	S032・S052と遺物接合
S035	土坑	楕円形	0.92	0.7＋α	0.48	0.5＋α	S031→S035→S067	－	－	
S036	ピット	円形	0.36	0.33	0.46	0.09	S031→S036→S067	－	－	
S038	溝	長楕円形	1.17＋α	0.34	0.1	0.37＋α	S049→S055→S038、S048→S038	－	－	
S039	土坑	不定形	0.8＋α	0.44	0.28	0.24＋α	S054→S039→S033	19世紀中頃	R369～R371	S033と遺物接合
S040	土坑	長楕円形	2.04	0.55	0.32	0.8	S040→S042	19世紀前半～19世紀中頃	R372～R380	
S041	土坑	不定形	1.13	0.91	0.2	0.67	－	－	－	
S042	溝	－	検出11.8	幅0.6	0.2	検出6.7	S042→S032、S052→S042、S042→S034、S054→S042→S033	19世紀前半～19世紀中頃	R381～R388・R407～R415・R417	N－81°－W、東下がり、S054と遺物接合、S042・S047・S048・S061と同一遺構
S044	溝	－	検出11.18	幅0.4	0.1	検出5.3	S031→S044	－	－	N－82°－W、東下がり
S045	土坑	長楕円形	2.16＋α	0.4	0.5	0.8＋α	S045→S032、S045→S055→S046	18世紀後半	R390～R394	
S046	土坑	楕円形	0.96＋α	0.6	0.43	0.5＋α	S045→S055→S046	19世紀初頭	R395～R406	
S049	土坑	隅丸長方形	1.2	0.56	0.51	0.6	S049→S055→S038	18世紀前半	R416	
S050	土坑	円形	0.94	0.94	0.17	0.71	S002→S050	18世紀中頃	R421～R422	S024と遺物接合
S051	土坑	隅丸長方形	1.39	1＋α	0.1	1.18＋α	－	18世紀後半	R423～R425	
S052	土坑	隅丸長方形	0.96＋α	0.82	0.35	0.77＋α	S052→S042→S034	19世紀前半～19世紀中頃	R426～R455	S034と遺物接合
S054	土坑	隅丸長方形	1.38	0.93	0.5	1.06	S054→S042→S033、S054→S034	19世紀前半～19世紀中頃	R456～R464	S042と遺物接合
S055	土坑	隅丸長方形	2.43	0.93	0.52	1.95	S055→S042、S045→S055→S046、S055→S038	19世紀末	R465～R485	
S058	土坑	－	0.72＋α	0.49	0.21	0.3＋α	S042→S058	19世紀中頃以降	R487・R488	
S059	土坑	隅丸長方形	0.67＋α	0.4	0.3	0.24＋α	S059→S060	19世紀中頃以降	R489	
S060	土坑	隅丸長方形	0.69＋α	0.4	0.17	0.27＋α	S059→S060	19世紀中頃以降	R490～R492	
S062	ピット	円形	0.5	0.34＋α	0.39	0.14＋α	－	－	R496	
S064	ピット	円形	0.55	0.30＋α	0.15	0.13＋α	－	－	－	
S065	ピット	円形	0.23	0.21	0.04	0.04	S065→S067	－	－	
S066	土坑	隅丸長方形	1.64	0.48	0.32	0.73	－	17世紀末～18世紀初頭	R498～R502	
S067	土坑	隅丸長方形	2.74	1.14＋α	0.37	2.74＋α	S065→S067	18世紀後半	R504～R509	

S003,004,005,014,017,024,037,043,047,048,053,056,057,061,063は欠番

第2表　遺構台帳②

2節　主要遺構

1．土坑遺構

S001（CDコード：2401）

グリット…5-B18

形　状…楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
2.27	1.3	0.55	2.67

埋　土

土層は、3層に分かれ、基本的に3層とも、軟質である。すべての層において焼土塊が出土している。

遺物出土状況

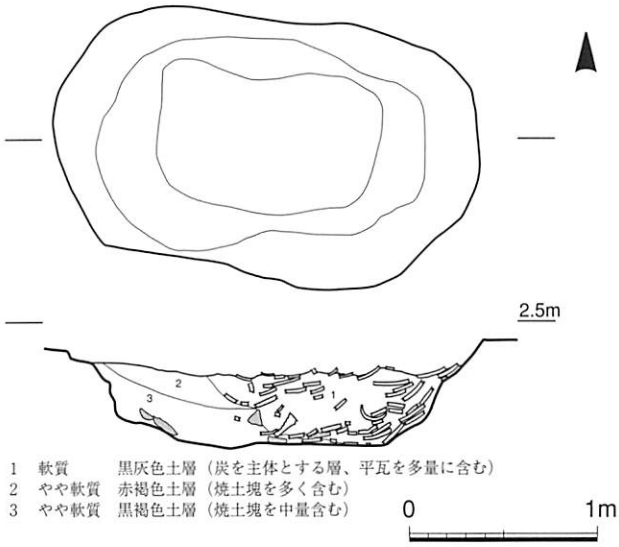
遺構の1層において焼けた瓦片が多数認められた。これら瓦の多くには炭が付着しており、建物火災に伴うものと思われる。瓦片の一部は、遺構壁面に突き刺さって出土しているものも観察された。陶磁器は、すべての層において出土し、瓦同様に炭が付着していた。

遺構の時期…18世紀前半

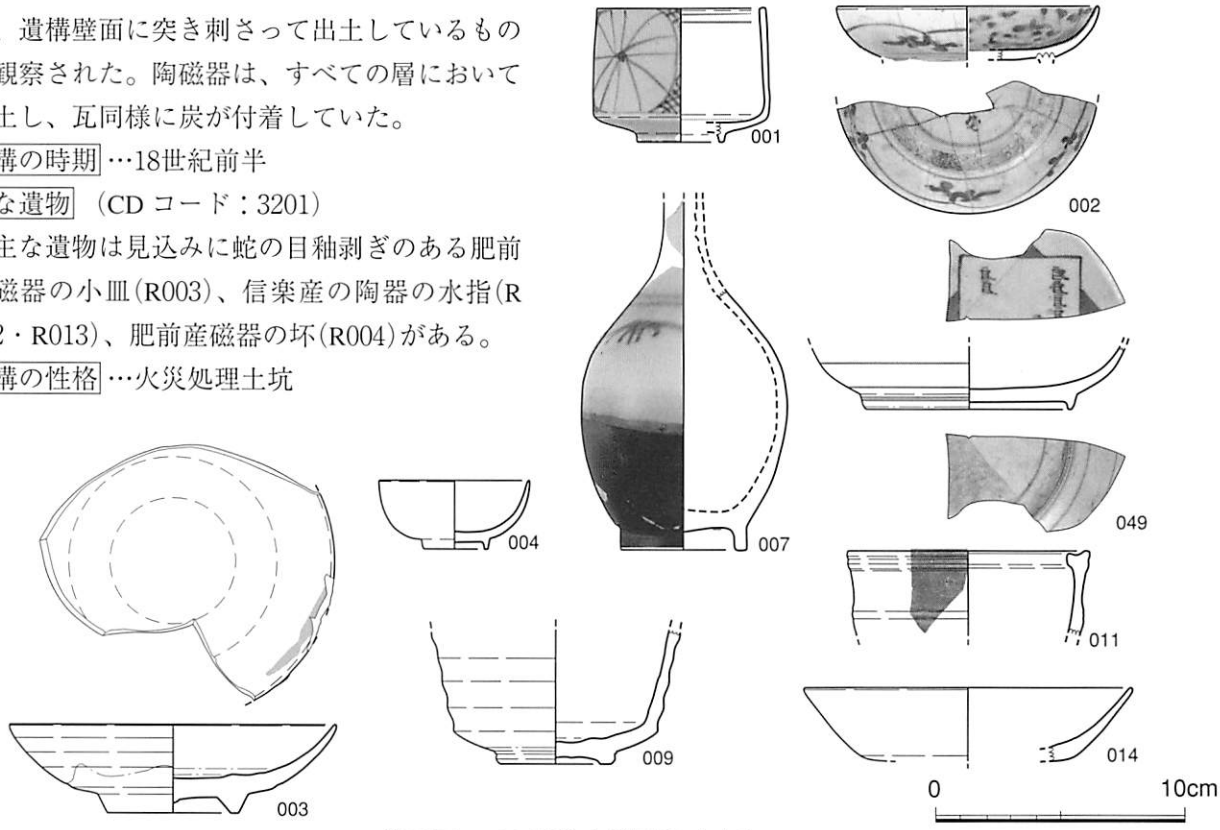
主な遺物（CDコード：3201）

主な遺物は見込みに蛇の目釉剥ぎのある肥前産磁器の小皿(R003)、信楽産の陶器の水指(R012・R013)、肥前産磁器の坏(R004)がある。

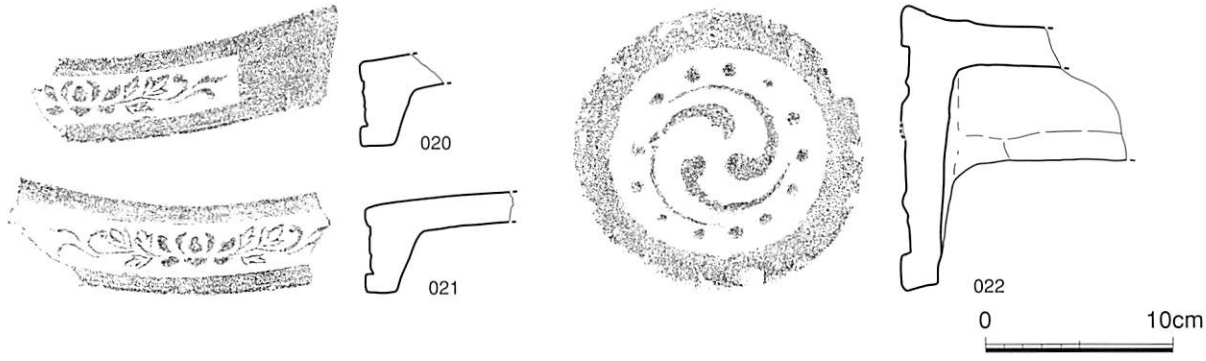
遺構の性格…火災処理土坑



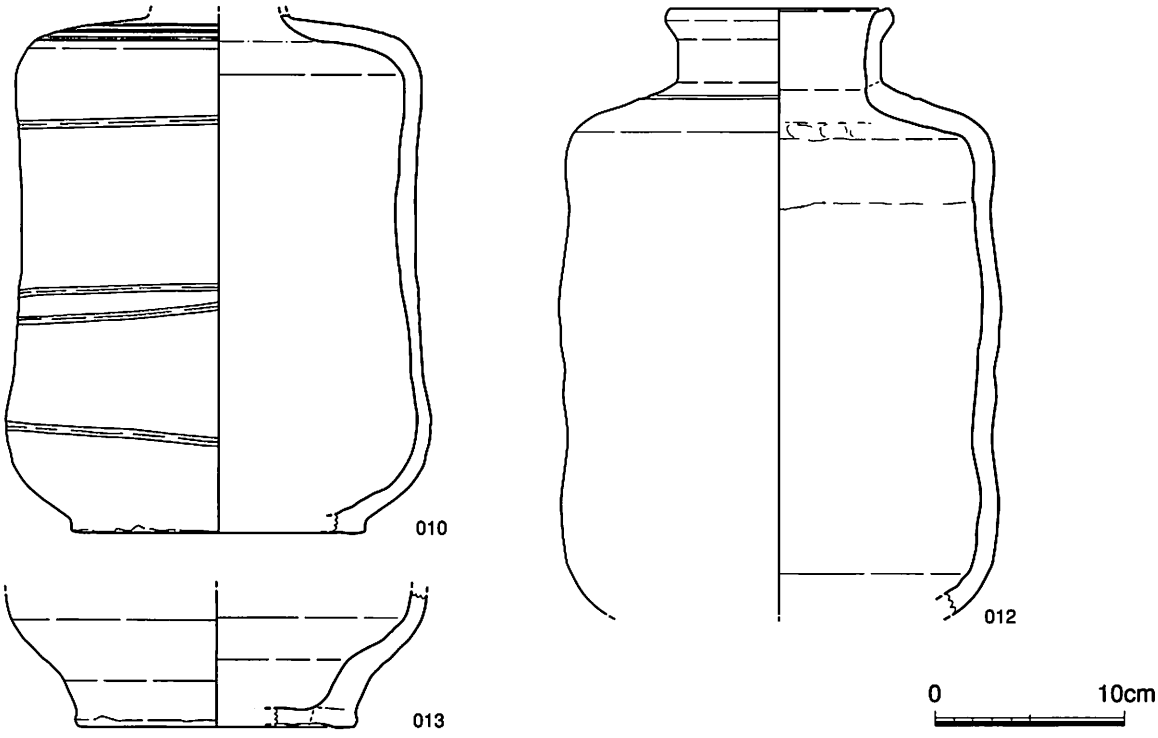
第9図　S001平面・断面図（1/40）



第10図　S001遺物実測図①（1/3）



第11図　S001遺物実測図②（1/4）



第12図　S001遺物実測図③（1/4）

S002（CDコード：2402）

グリット…5-B18

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
3.03	1.59	0.85	3.72

埋　土

土層は、3層に分かれ、基本的にすべての層とも軟質で、焼土塊が出土している。1層では、炭の出土が顕著に見られた。

遺物出土状況

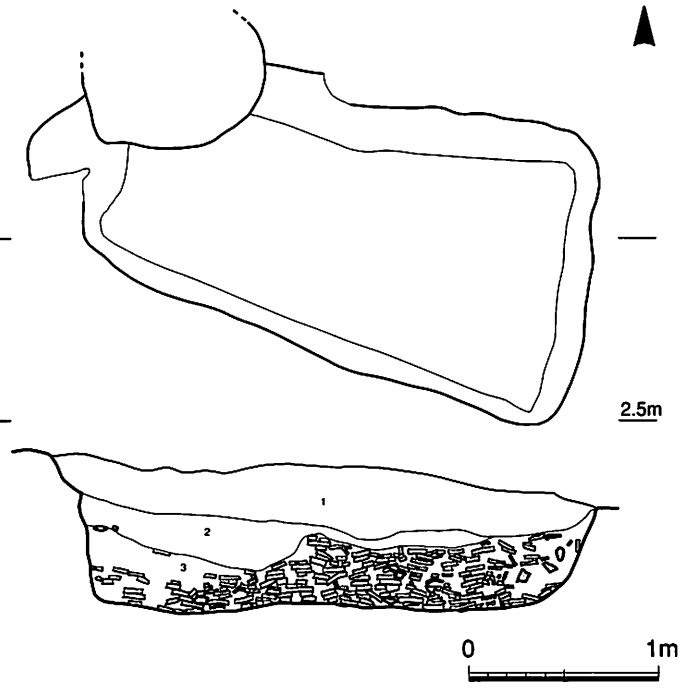
とくに遺構の2、3層の中央部分に瓦片がびっしりと隙間なく重なった状態で出土し、その多くは炭が付着していた。陶磁器は、すべての層において出土し、瓦同様に炭が付着していた。

遺構の時期…18世紀前半

主な遺物（CDコード：3202）

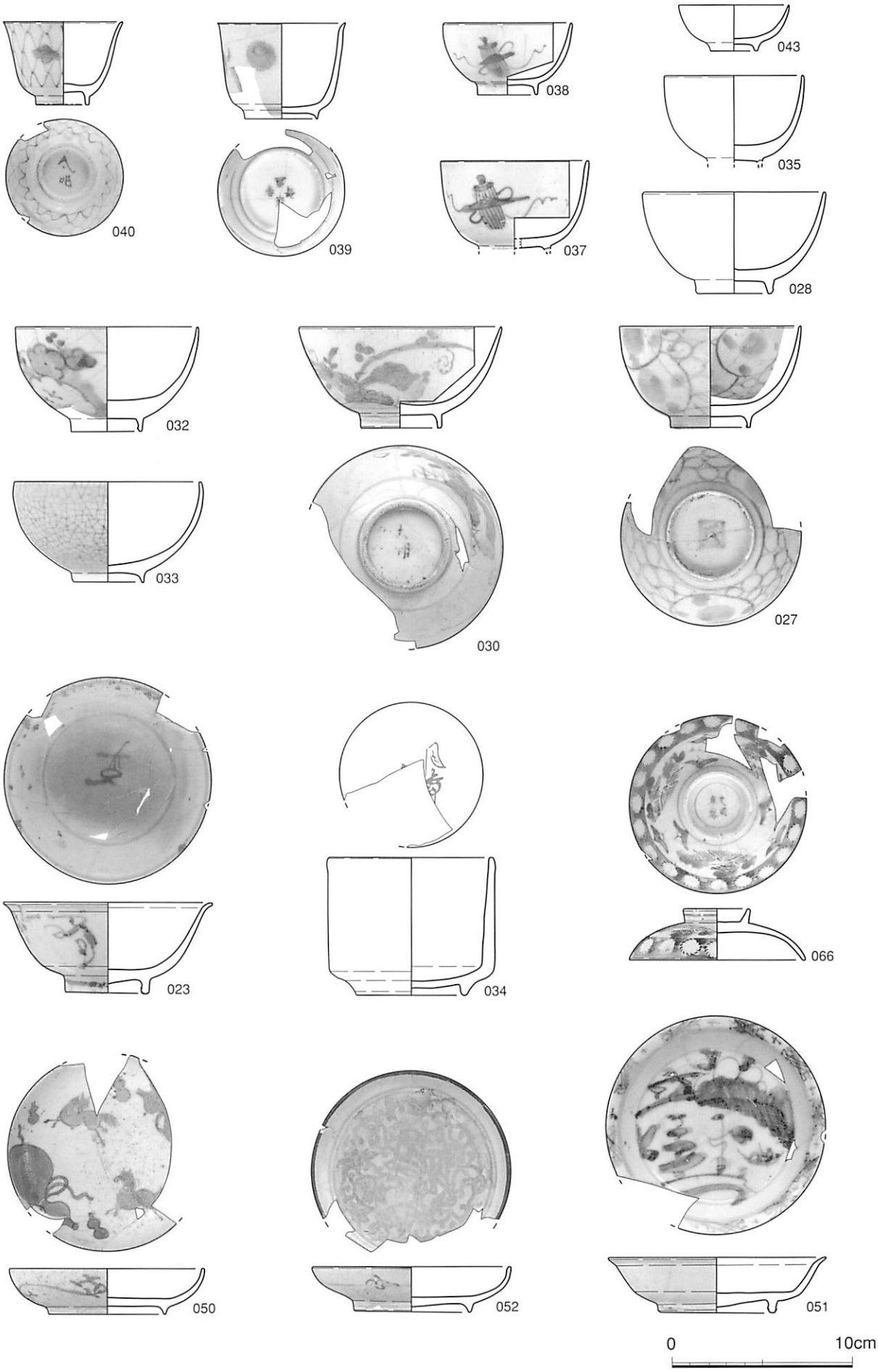
主要遺物は、中国産の人物が描かれた染付碗(R023～R026)、肥前産の磁器染付小坏(R040～R042)、三足付きの肥前産の磁器聞香炉(R069～R070)、肥前産の染付瓶(R076)、京都・信楽産の陶器碗(R081)、信楽産の陶器水指(R097)、赤間石産の硯(R112)など、優越品も含まれる。

遺構の性格…火災処理土坑

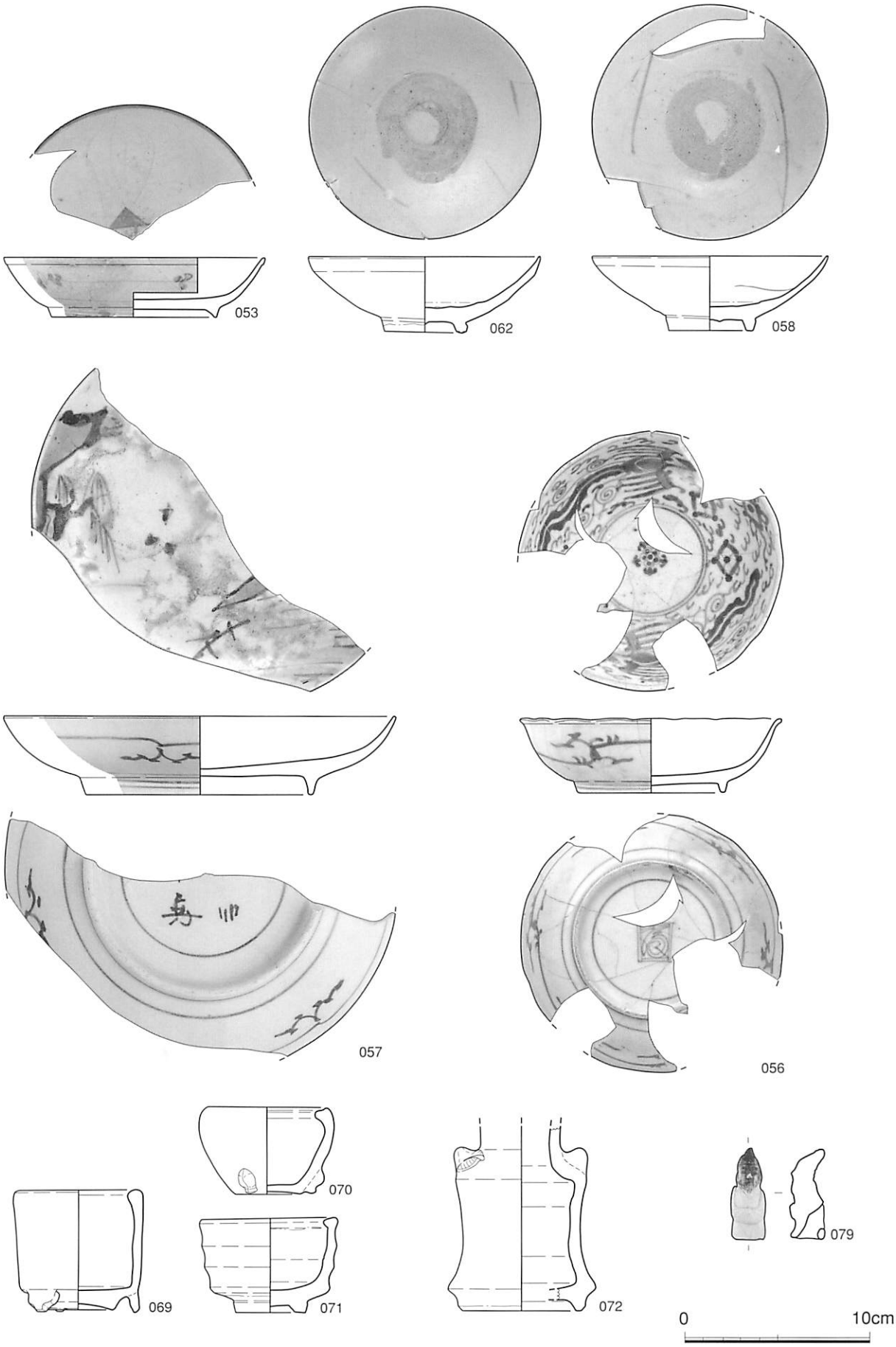


1　軟質　暗茶褐茶色土（焼土ブロックを中量含む。炭を少量含む）
2　軟質　暗褐茶色土（1より焼土ブロックを多量含む。炭を少量含む）
3　軟質　褐色土（瓦が多量に廃棄されている層。炭を少量含む）

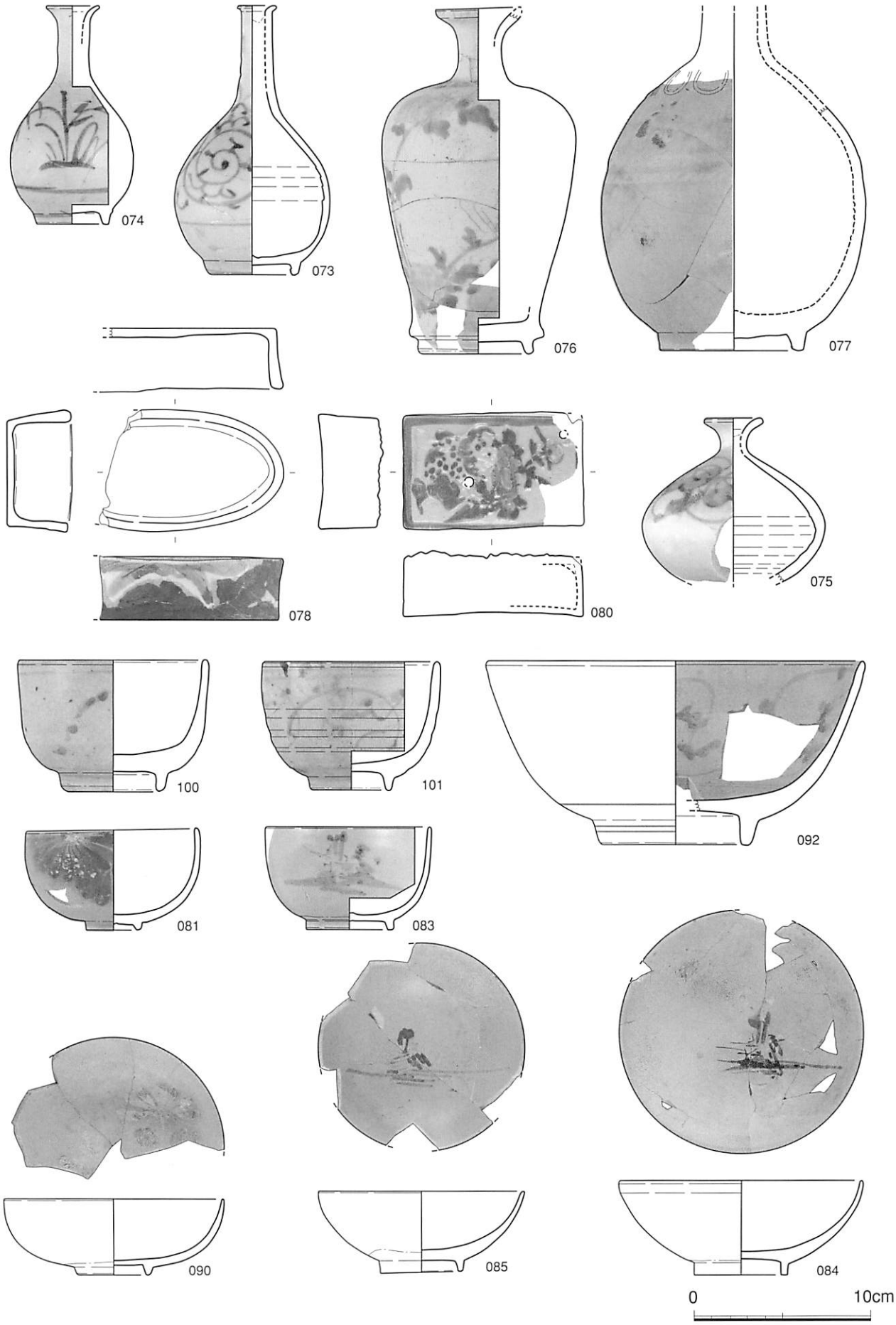
第13図　S002平面・断面図（1/40）



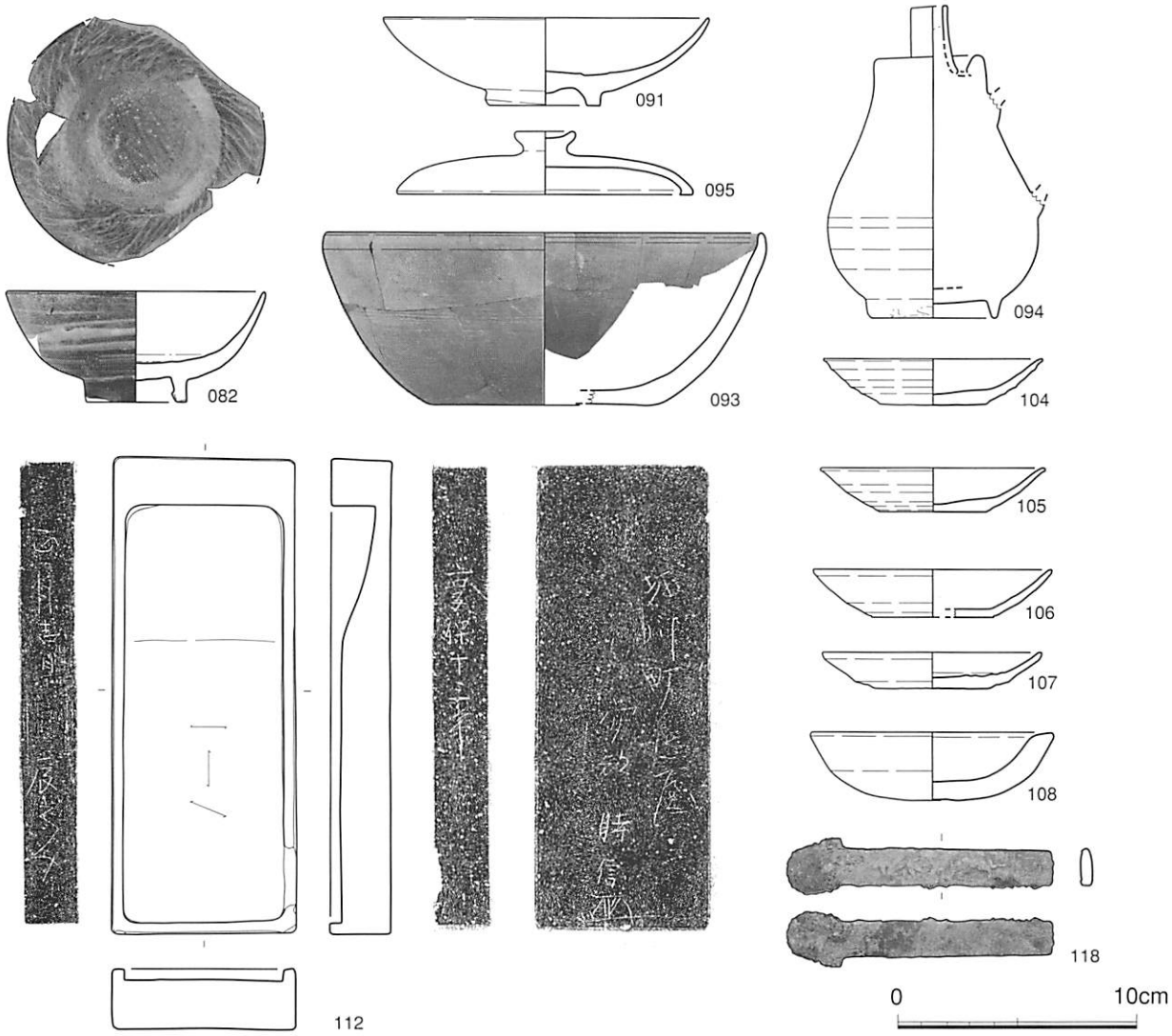
第14図　S002遺物実測図①（1/3）



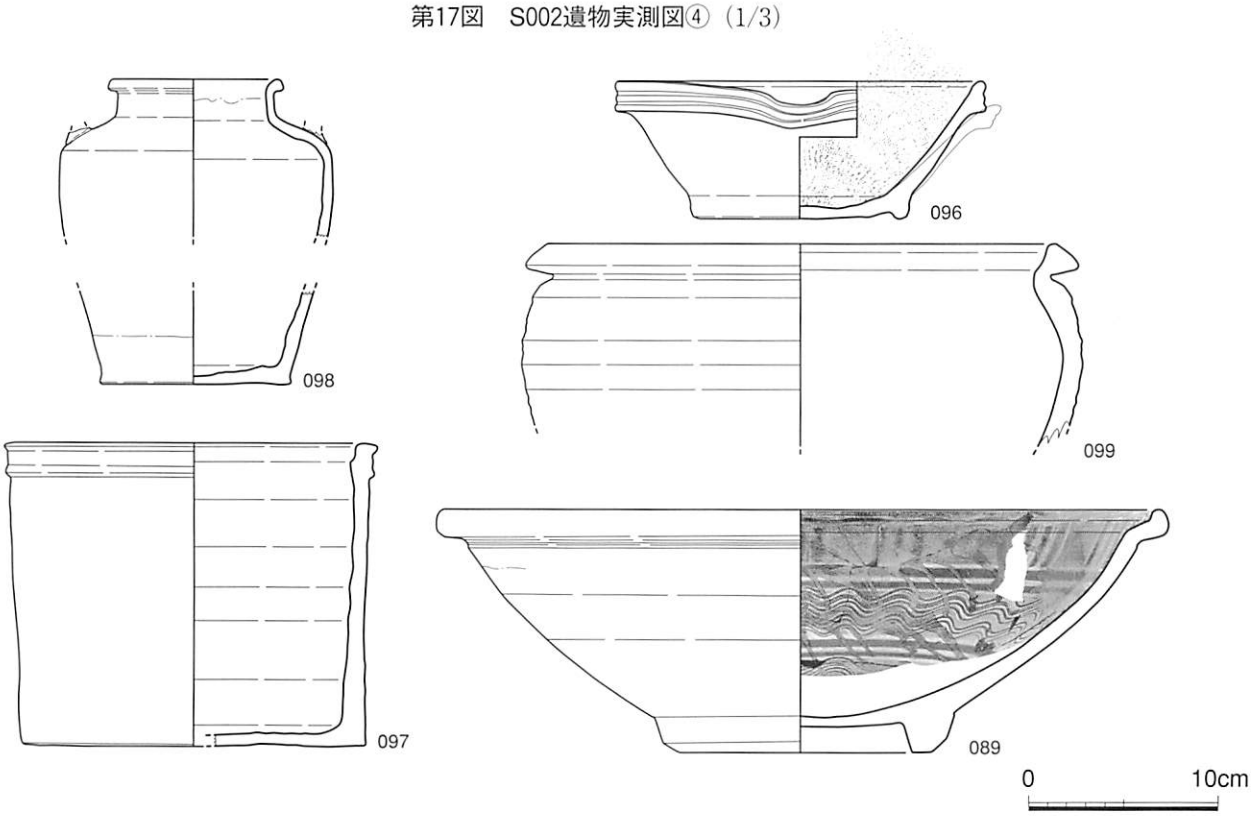
第15図　S002遺物実測図②（1/3）



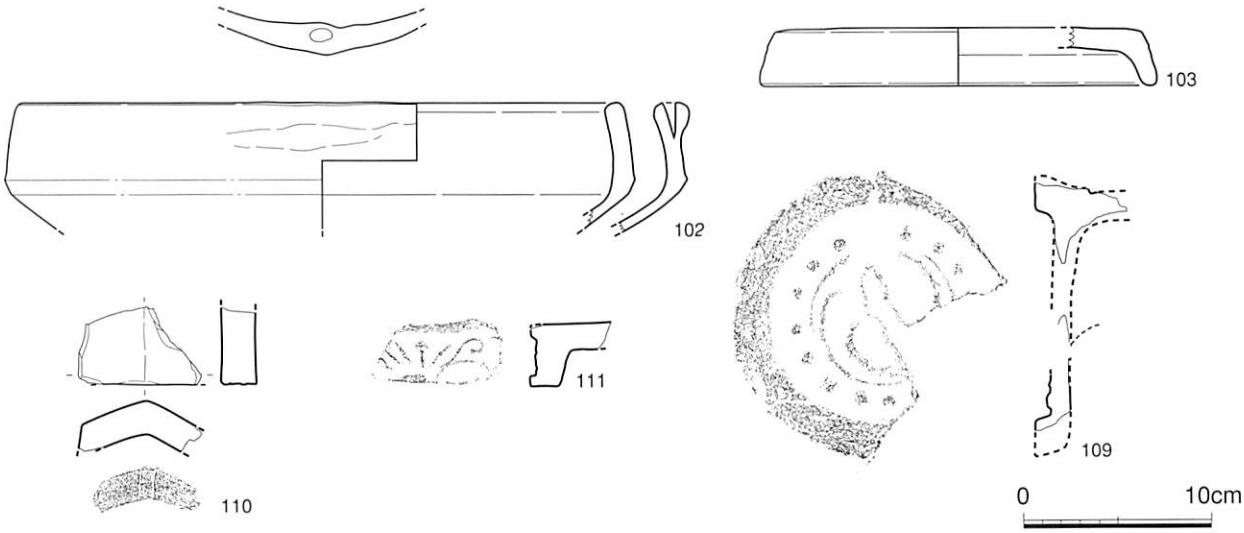
第16図　S002遺物実測図③（1/3）



第17図　S002遺物実測図④（1/3）



第18図　S002遺物実測図⑤（1/4）



第19図　S002遺物実測図⑥（1/4）

S006（CD コード：2406）

グリット…5-C19

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
2.38	1.4	0.65	2.85

埋　土

土層は、やや軟質の黒褐色土での単層で、多量の焼土塊と30～40cm 大の石が重なるように一気に廃棄され、堆積したものである。石は、建物の礎石として使用されていたものと考えられる。

遺物出土状況

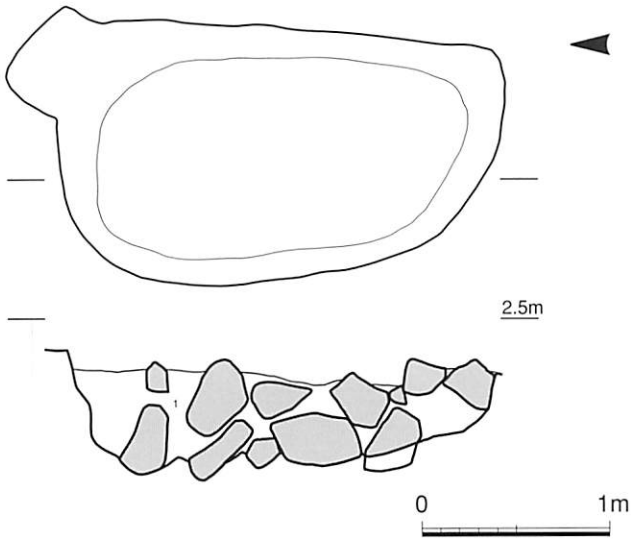
陶磁器、瓦に炭が付着し出土している。出土量は少ない。

遺物の時期…18世紀前半

主な遺物

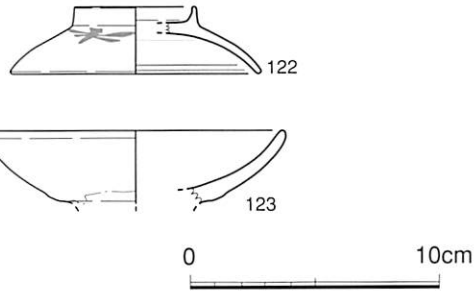
主な遺物は、吉田分類「G 群古段階」と類似する、R124・R125の均整唐草文の軒平瓦と18世紀初め～18世紀前半代の磁器染付蓋(R122)、17世紀中頃～17世紀末の見込みに胎土目痕を有する陶器小皿(R123)である。

遺構の性格…廃棄土坑



1　やや軟質　黒褐色土層（2～5cm 大の焼土塊を多量に含む。大型の石を多く含む。掘削後、ただちに石を廃棄して焼土混じりの土で埋めている）

第20図　S006平面・断面図（1/40）



第21図　S006遺物実測図①（1/3）

第22図　S006遺物実測図②（1/4）

S007（CD コード：2407）

グリット…5-C17

形　状…円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
0.97	0.94	0.62	0.72

埋　土

土層は、2層に分かれ、上層はやや軟質で、下層は砂質である。南側がS008に切られている。

遺物出土状況

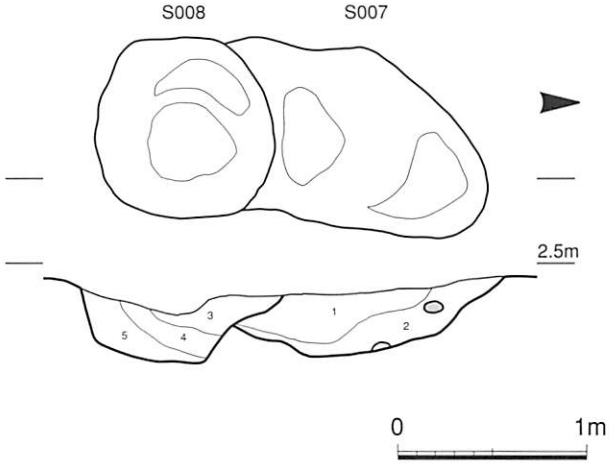
陶磁碗(R128)が床面直上に反転した状態で出土している。

遺構の時期…17世紀末

主な遺物（CD コード：3207）

主な遺物は、鉄釉流し掛けの陶器碗(R127)、唐津系の見込みと高台に胎土目痕を有する溝縁の陶器皿(R129)がある。

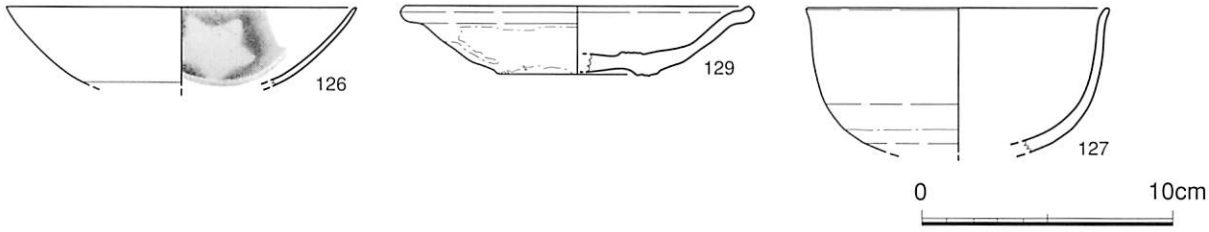
遺構の性格…土坑



S007
1　やや軟質　茶褐色土層（地山ブロックを少量含む、砂を多く含む）
2　砂質　淡黒褐色土層
（砂を多く含む、陶磁碗が床面に貼りついて反転している）

S008
3　やや硬質　暗茶褐色土（炭化物を微量にふくむ）
4　やや軟質　淡黒褐色（少しザラザラしている、砂を多く含む）
5　やや軟質　黒灰色（ザラザラしている、砂を多く含む）

第23図　S007・008平面・断面図（1/40）



第24図　S007遺物実測図（1/3）

S008（CD コード：2408）

グリット…5-C17

形　状…楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
1.56+α	0.94	0.69	1.08+α

埋　土

土層は、2層に分かれ、軟質で、4・5層に砂が多く含まれていた。北側においてS007を切っている。

遺物出土状況

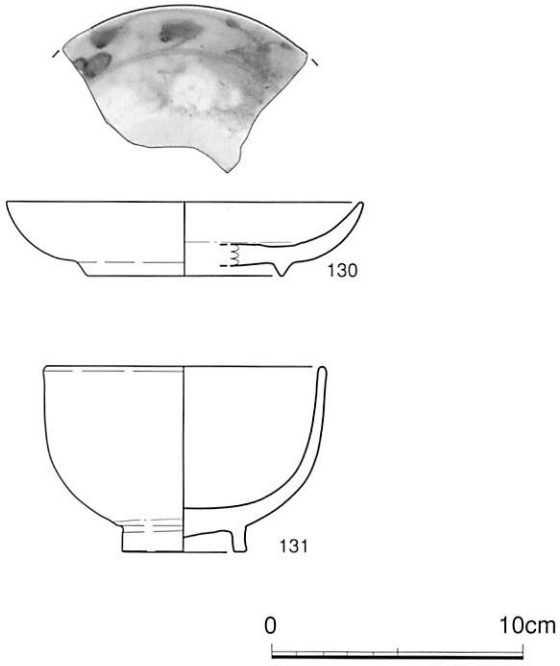
出土した遺物は、少ない状態であった。

遺構の時期…17世紀末

主な遺物（CD コード：3208）

主な遺物は、見込みに蛇の目釉剥ぎのある肥前産の磁器小皿(R130)、高台が露胎した唐津系陶器碗(R131)である。

遺構の性格…土坑



第25図　S008遺物実測図（1/3）

S015（CDコード：2415）

グリット…5-D18

形　状…楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
1.43	1.16	1.12	1.33

埋　土

掘り方が現存で1mを越え、6層に分かれ、基本的にすべての層とも軟質で、最下層では粘質であった。

遺物出土状況

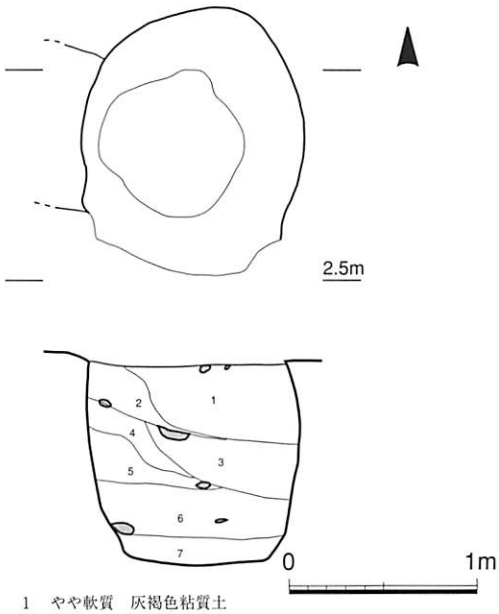
とくに遺構の2・3層において、陶磁器・瓦が重点的に出土し、遺物には炭が付着していた。

遺構の時期…18世紀中頃

主な遺物（CDコード：3215）

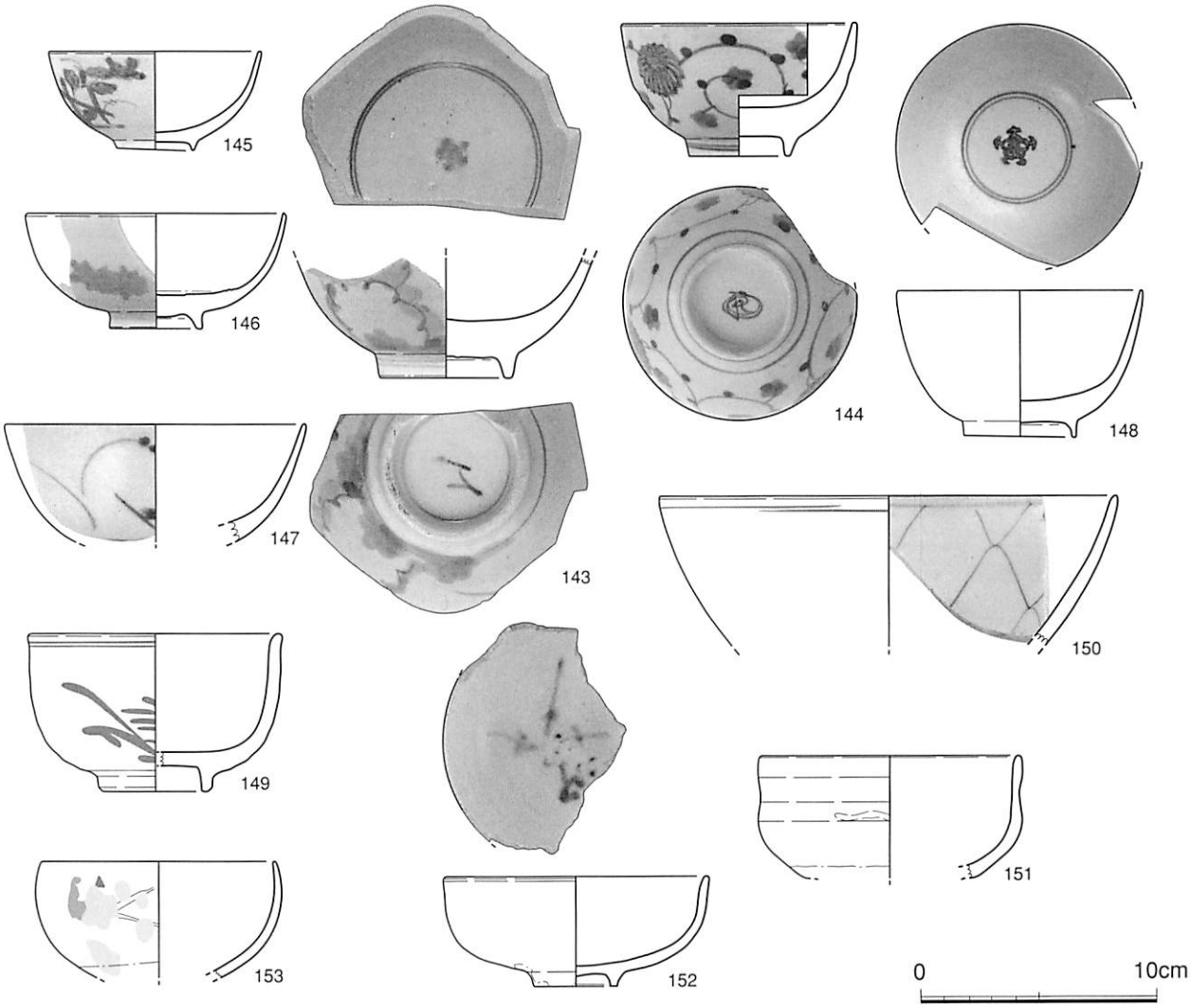
主な遺物は、見込みに五弁花文のコンニャク印判のある肥前産の磁器碗(R143)、見込みに手描き五弁花文のある肥前産の磁器碗(R148)、瀬戸美濃産の陶器腰折碗(R151)、関西系の陶器碗(R152)、堺産の陶器擂鉢(R157・R158)がある。

遺構の性格…廃棄土坑

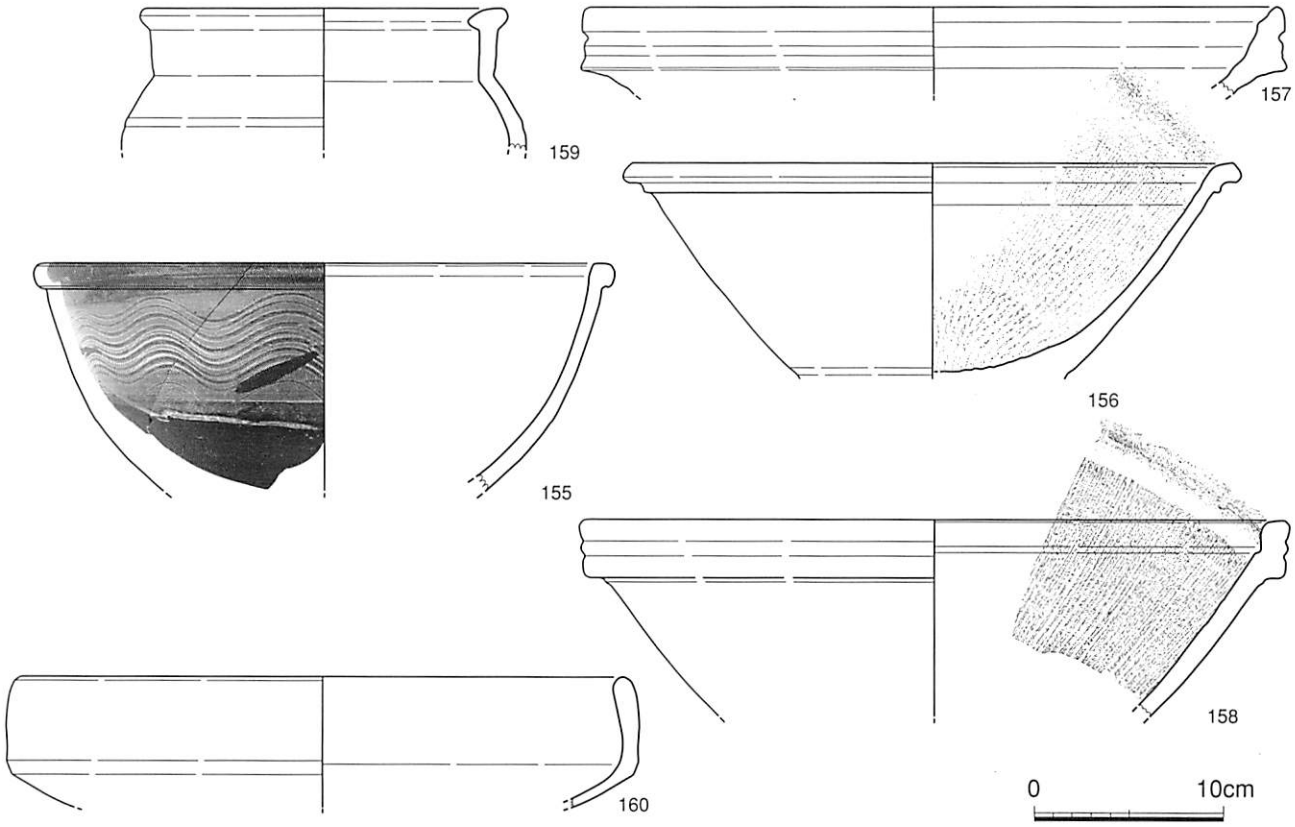


1　やや軟質　灰褐色粘質土
2　軟質　灰褐色粘質土
3　軟質　淡灰褐色土（炭を中量含む）
4　軟質　淡灰褐色粘質土
5　軟質　褐色粘質土（炭を微量に含む）
6　軟質　褐灰色粘質土（水分を多く含む。炭を微量に含む）
7　軟質　暗褐灰色粘質土（水分を多く含む。炭を微量含む）

第26図　S015平面・断面図（1/40）



第27図　S015遺物実測図①（1/3）



第28図　S015遺物実測図②（1/4）

S016（CD コード：2416）

グリット…5-B19

形　状…不定形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
1.76	1.68	0.16	1.90+α

埋　土

堆積層は、3層に分かれ、1層目には焼土が確認できる。また、遺物(R161～R173)を意図的に埋置した後、埋土は人為的に埋められている。

遺物出土状況

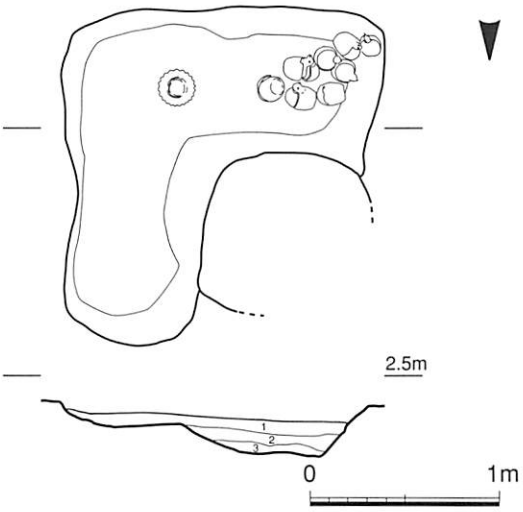
遺物の出土が僅少で、磁器の小皿4点・容器9点、陶器と瓦が数点であった。

遺構の時期…20世紀前半

主な遺物（CD コード：3216）

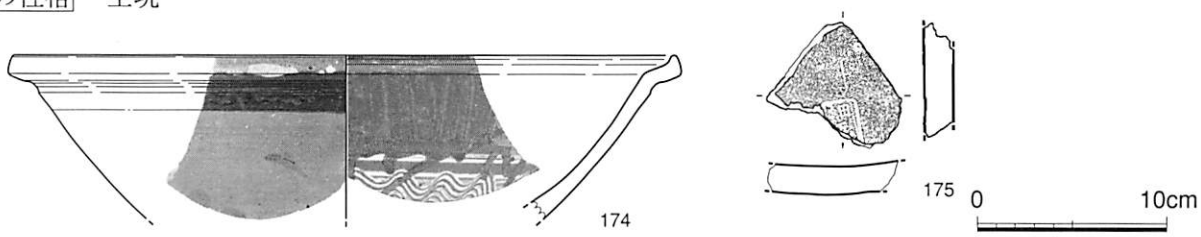
白化粧の刷毛目のある唐津系の陶器鉢(R174)、「細瓦」の刻印ある平瓦(R175)、醤油屋の粗品として配られたと思われる磁器の小皿(R161～R164)と雛形の醤油容器(R165～R173)である。

遺構の性格…土坑



1　軟質　褐色土（焼土ブロック土を含む）
2　軟質　灰褐色土
3　軟質　淡灰褐色土

第29図　S016平面・断面図（1/40）



第30図　S016遺物実測図（1/4）

S019（CDコード：2419）

グリット…5-A19

形　状…円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
0.78	0.73	0.45	0.47

埋　土

土層は、1層で褐色の砂質土であった。

遺物出土状況

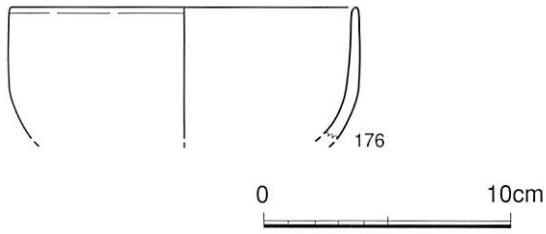
遺物の出土は、僅少で陶器碗1点のみであった。

遺構の時期…不明

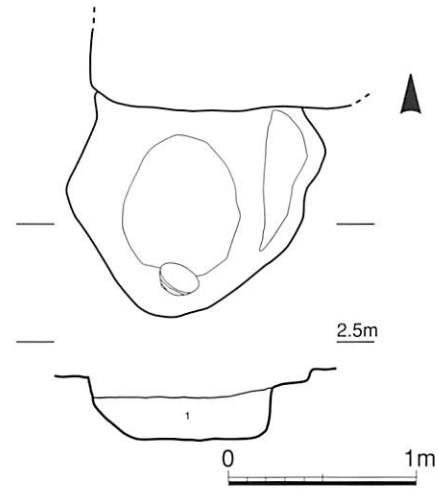
主な遺物

遺物は、京都・信楽系の灰釉の掛かった陶器碗(R176)である。

遺構の性格…土坑



第31図　S019遺物実測図（1/3）



1　軟質　褐茶色土層

第32図　S022平面・断面図（1/40）

S022（CDコード：2422）

グリット…5-B19

形　状…不定形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
1.12+α	1.36	0.44	1.14+α

埋　土

褐茶色土の単層で、炭を少量含んだ軟質の土層である。

遺物出土状況

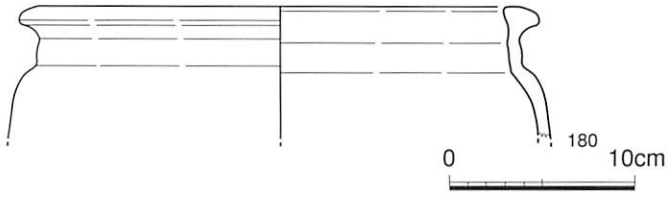
出土点数が少なく、陶磁器が数点出土しているのみである。肥前産の染付小皿(R178)は完形品であった。

遺構の時期…17世紀末

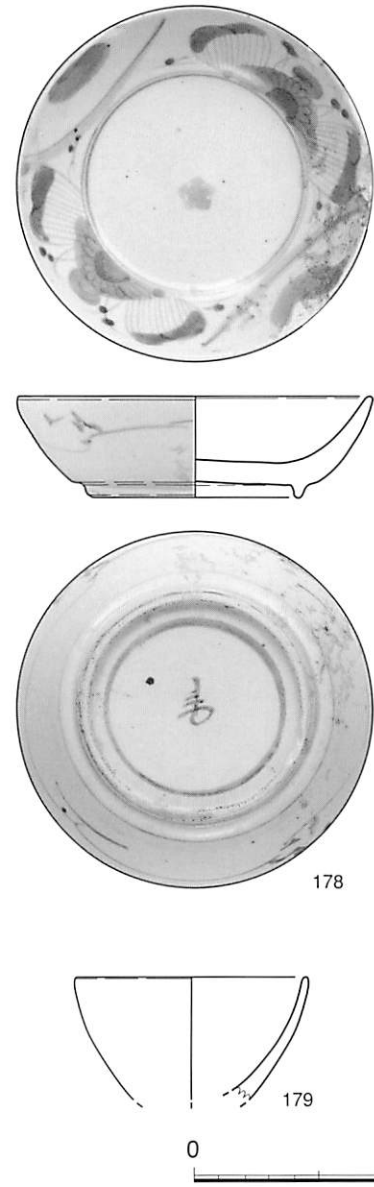
主な遺物

主な遺物は、見込みに五弁花コンニャク印判のある肥前産の磁器小皿(R178)、灰釉の掛かった唐津系の陶器碗(R179)である。

遺構の性格…土坑



第34図　S022遺物実測図②（1/4）



第33図　S022遺物実測図①（1/3）

S025（CD コード：2425）

グリット…5-D19

形　状…方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
0.85+α	0.62+α	1	0.6+α

埋　土

堆積土は、4層に分かれ、いずれも基本的に軟質である。また、炭が微量に含まれている。4層目は、粘質を帯びている。東側は、S015によって切られている。

遺物出土状況

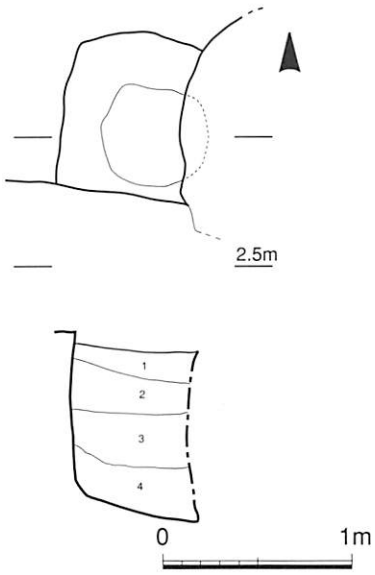
すべての層において遺物が出土し、数量は18点である。磁器が11点、陶器が6点である。

遺構の時期…18世紀前半

主な遺物（CD コード：3225）

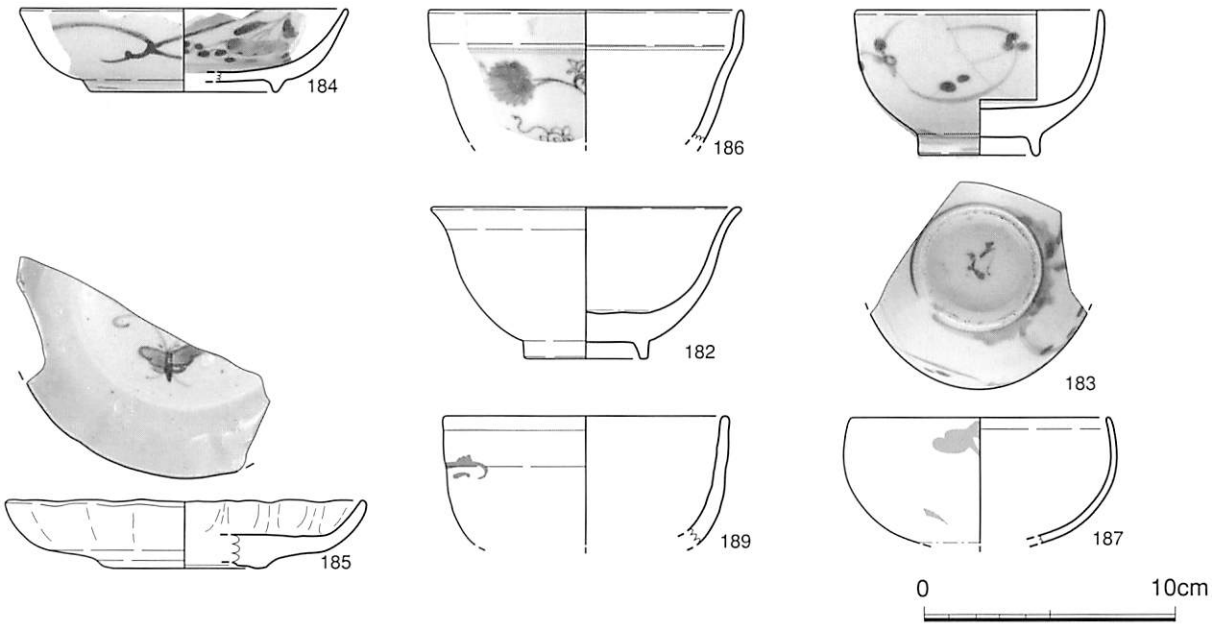
主な遺物は、高台内に銘がある肥前産磁器染付碗(R183)、京都・信楽産の陶器碗(R187)、堺産の陶器擂鉢(R188)、外面に唐草文のある半磁半陶の肥前産染付碗(R189)である。

遺構の性格…土坑

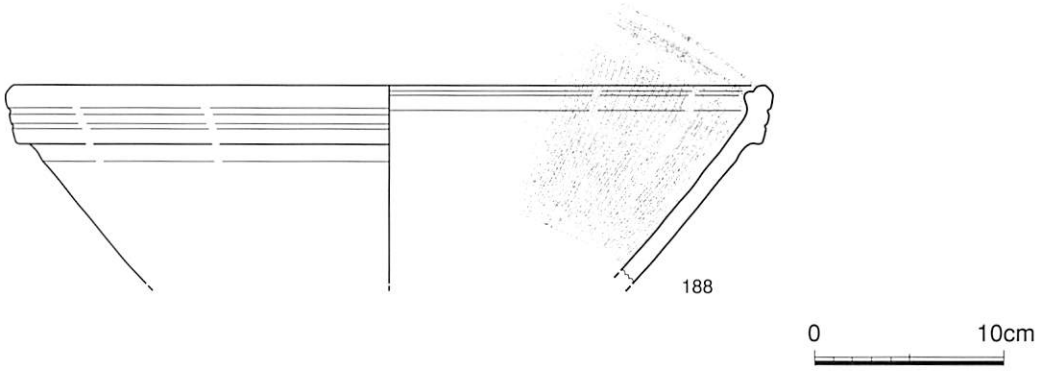


1　軟質　茶褐色土（炭を微量に含む）
2　軟質　褐茶色（砂と炭を微量に含む）
3　軟質　褐茶褐色（砂と炭を微量に含む）
4　軟質　淡褐茶色粘質土（炭を微量に含む。3より粘性が強い。4の下層が湧水レベル）

第35図　S025平面・断面図（1/40）



第36図　S025遺物実測図①（1/3）



第37図　S025遺物実測図②（1/4）

S032（CDコード：2432）

グリット…5-E19

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
1.66	1.41	0.95	1.88

埋　土

堆積層は、5層に分かれ、褐色を基本とした軟質の土層である。1～4層は廃絶時の人為的埋土である。5層には焼土粒を少し含み、陶磁器類が多量に出土した。

遺物出土状況

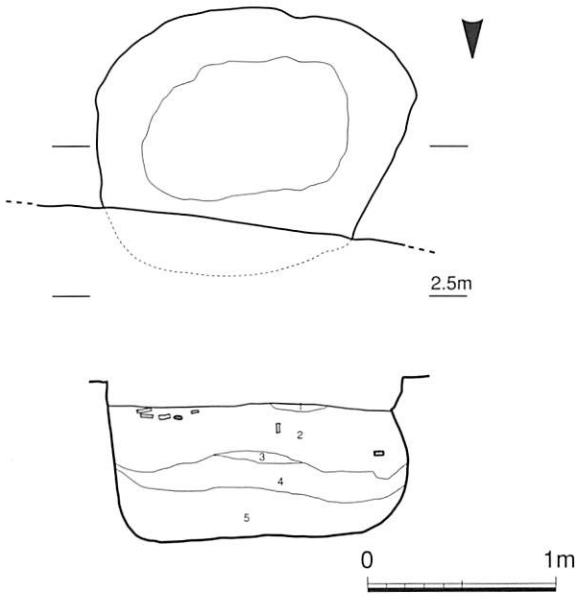
216点に及ぶ遺物が出土し、磁器が124点、陶器が56点と多い。紅猪口・紅皿が25点、硯が1点出土している。

遺構の時期…19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3232）

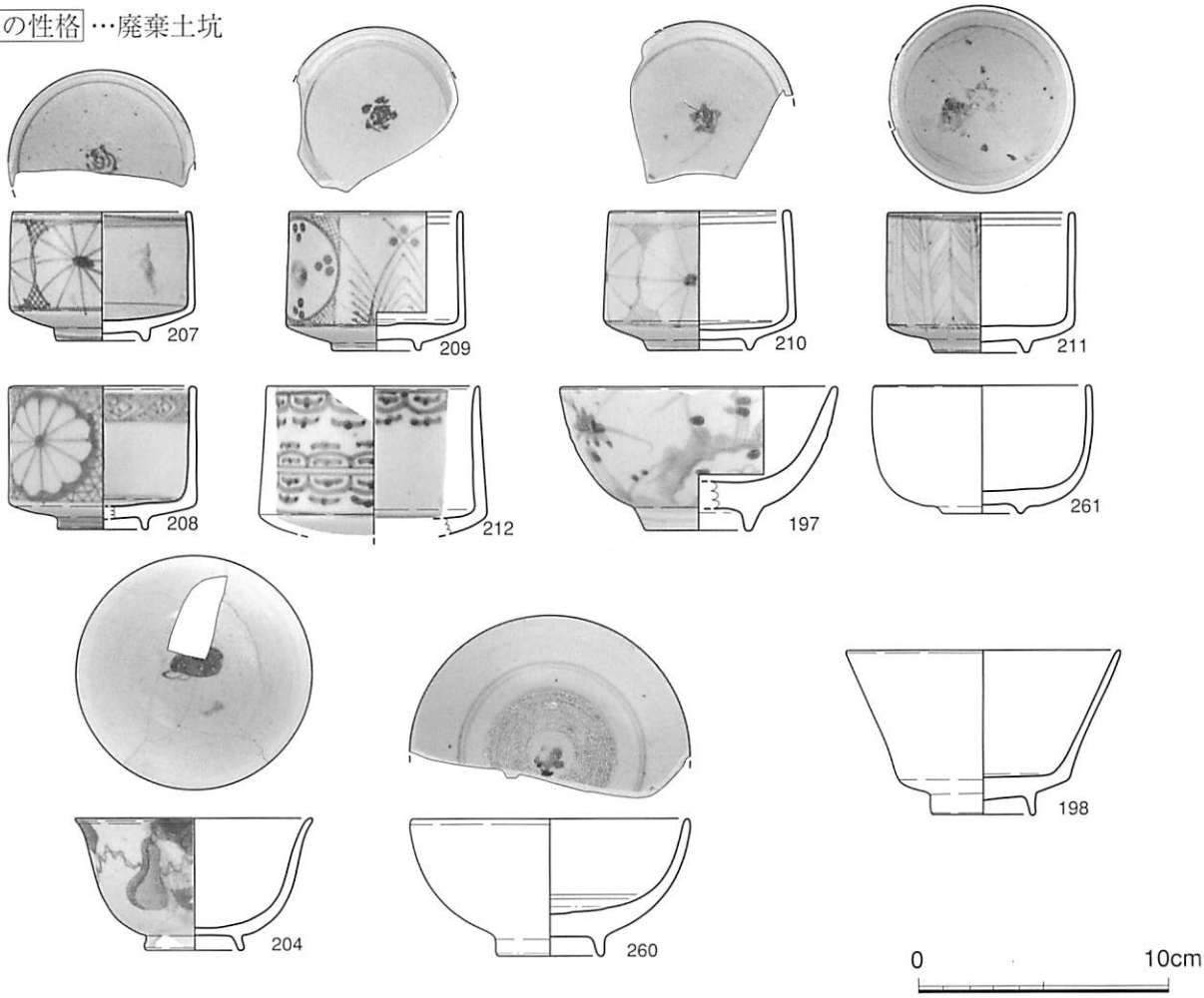
主な遺物は、高台内に朱文字があり焼継を施した肥前産の広東碗(R192)、肥前産の磁器筒型碗(R207～R213)、蛇の目凹形高台の肥前産の磁器小皿(R221)、磁器の紅皿(R228～R241)・紅猪口(R242～R246)、赤間石産の硯(R308)がある。

遺構の性格…廃棄土坑

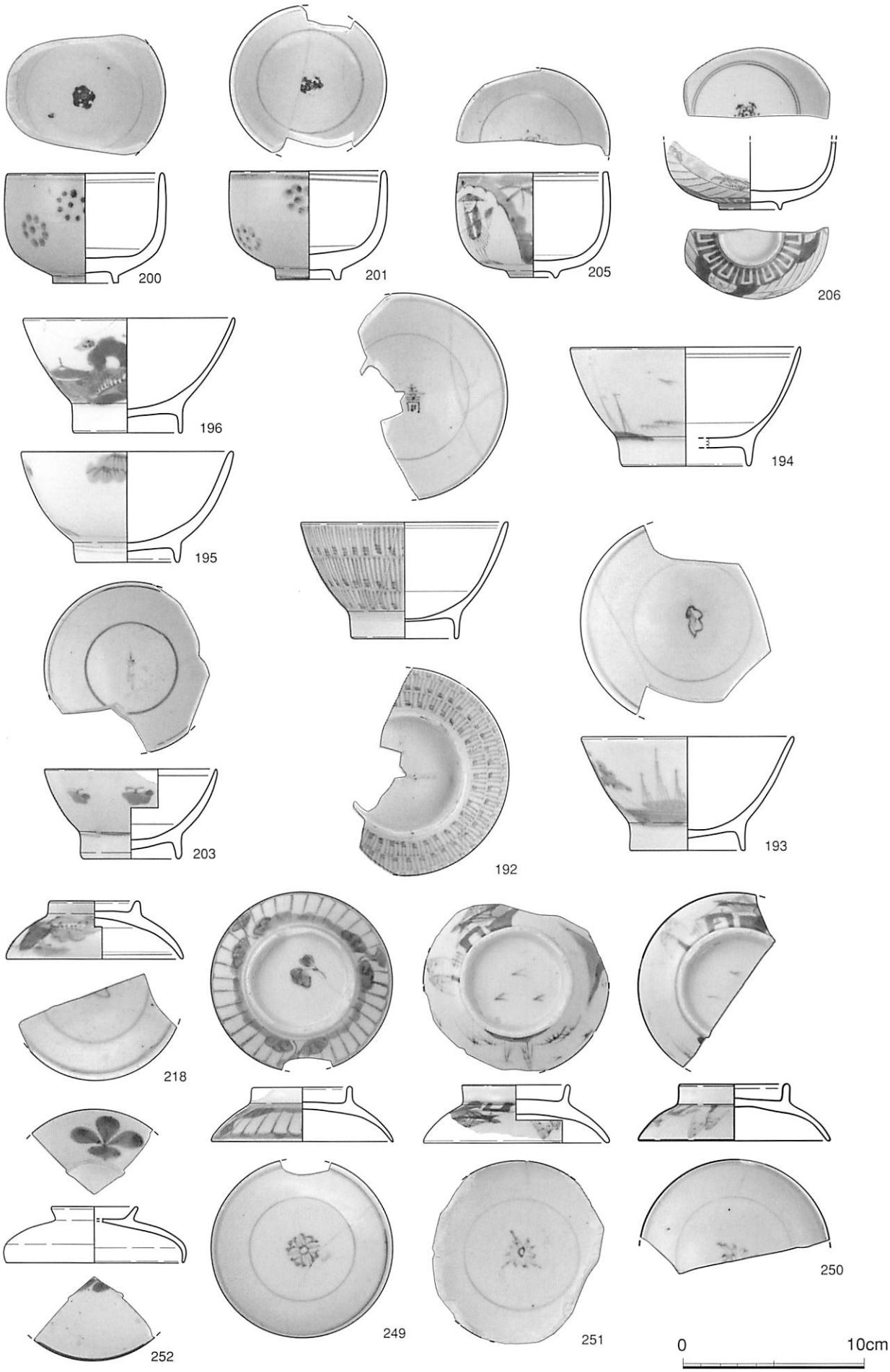


1　軟質　茶褐色土
2　軟質　灰褐色土（炭を微量に含む）
3　軟質　褐色粘質土（炭を微量に含む）
4　軟質　茶褐シルト質土（炭を少量含む）
5　軟質　褐色シルト質土(炭と焼土粒を少量含む。遺物が多量に出土)

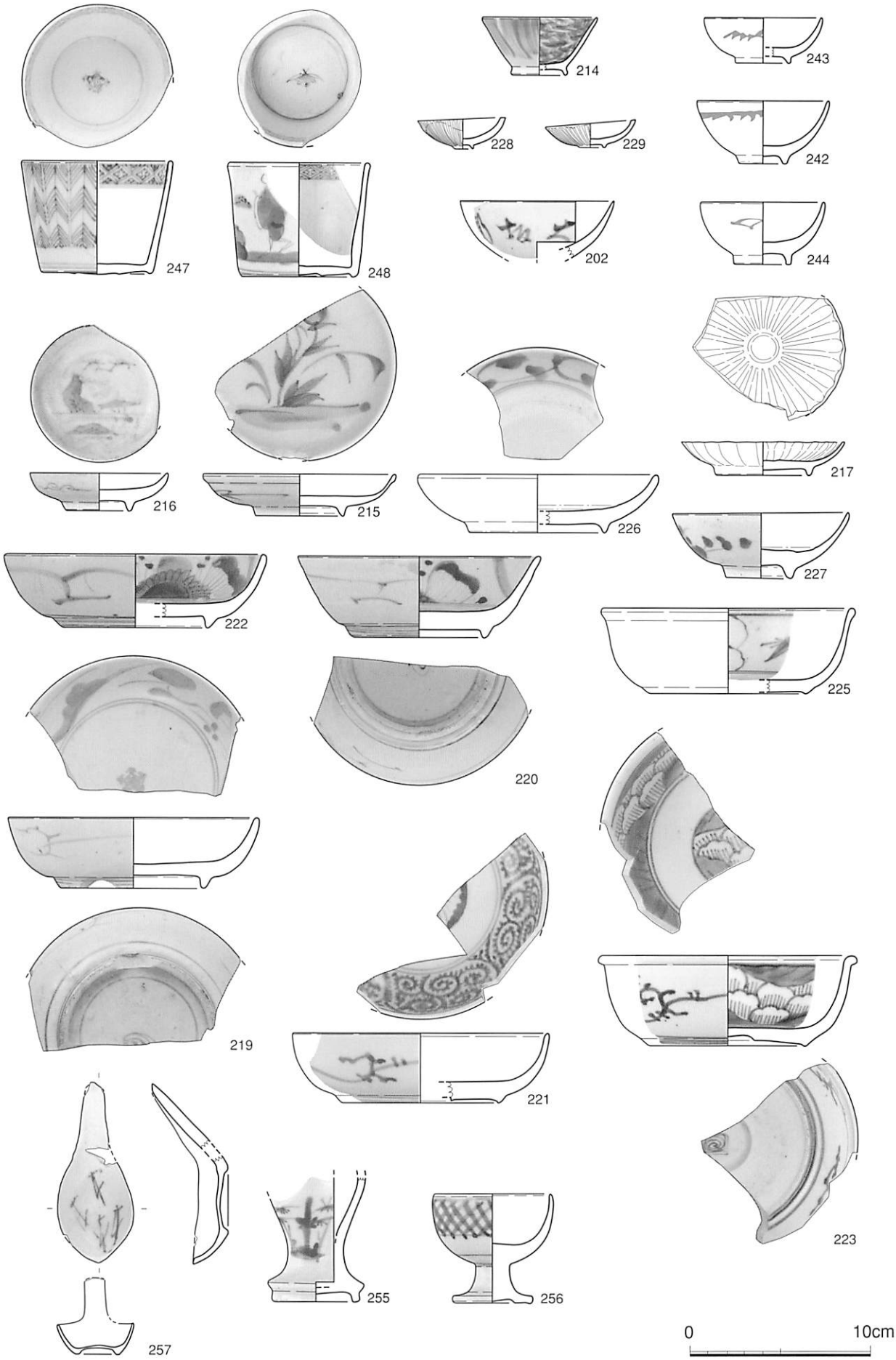
第38図　S032平面・断面図（1/40）



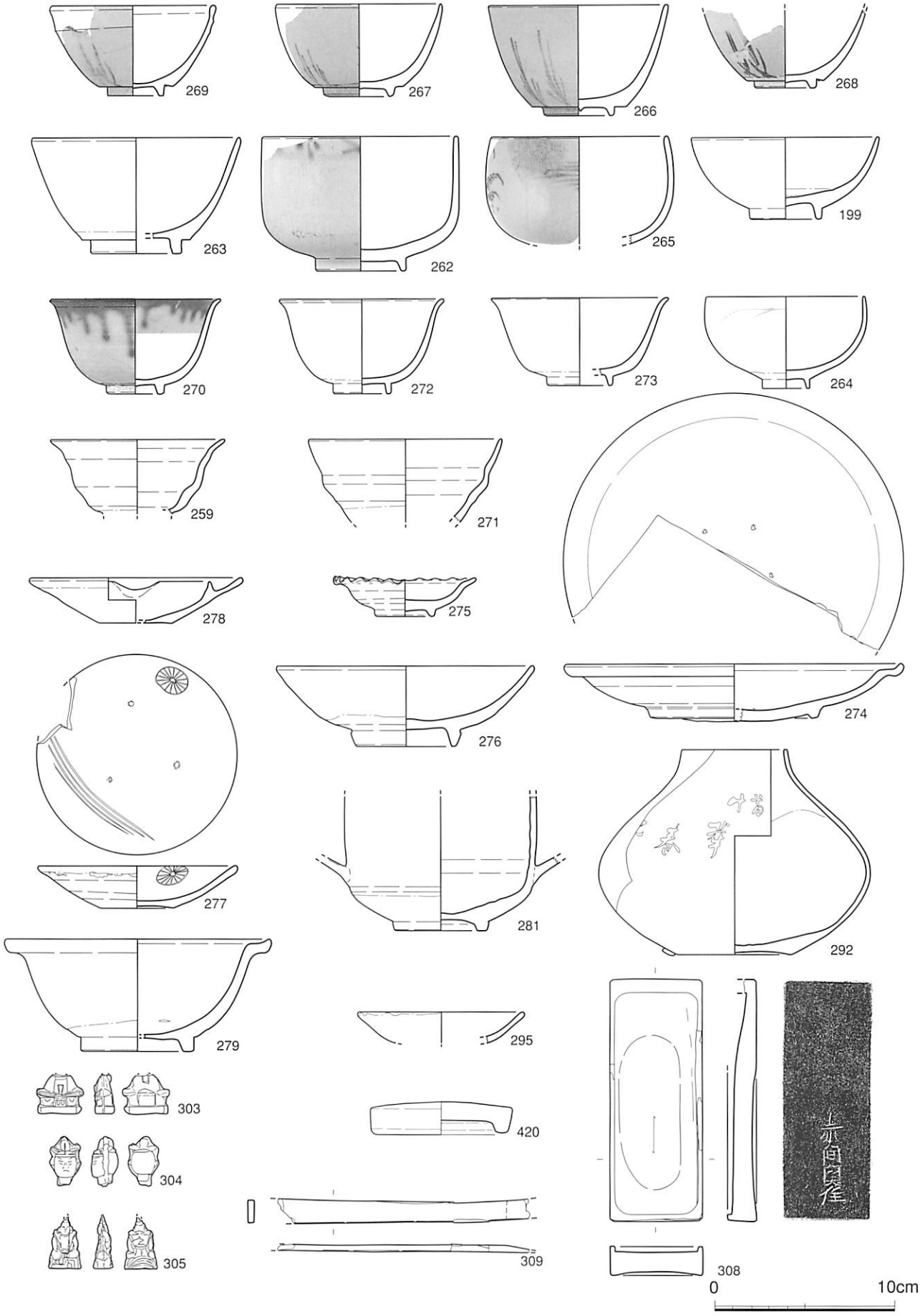
第39図　S032遺物実測図①（1/3）



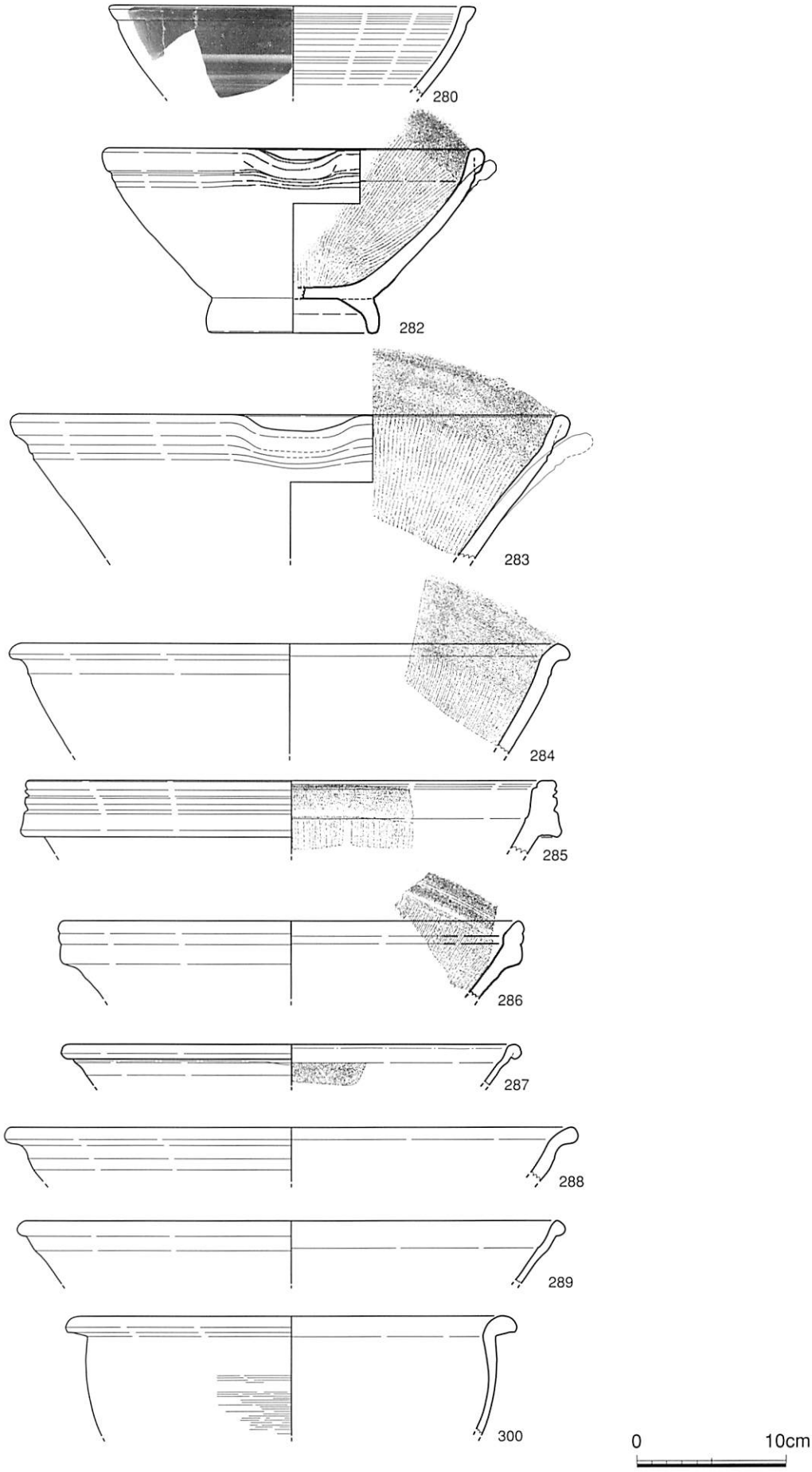
第40図　S032遺物実測図②（1/3）



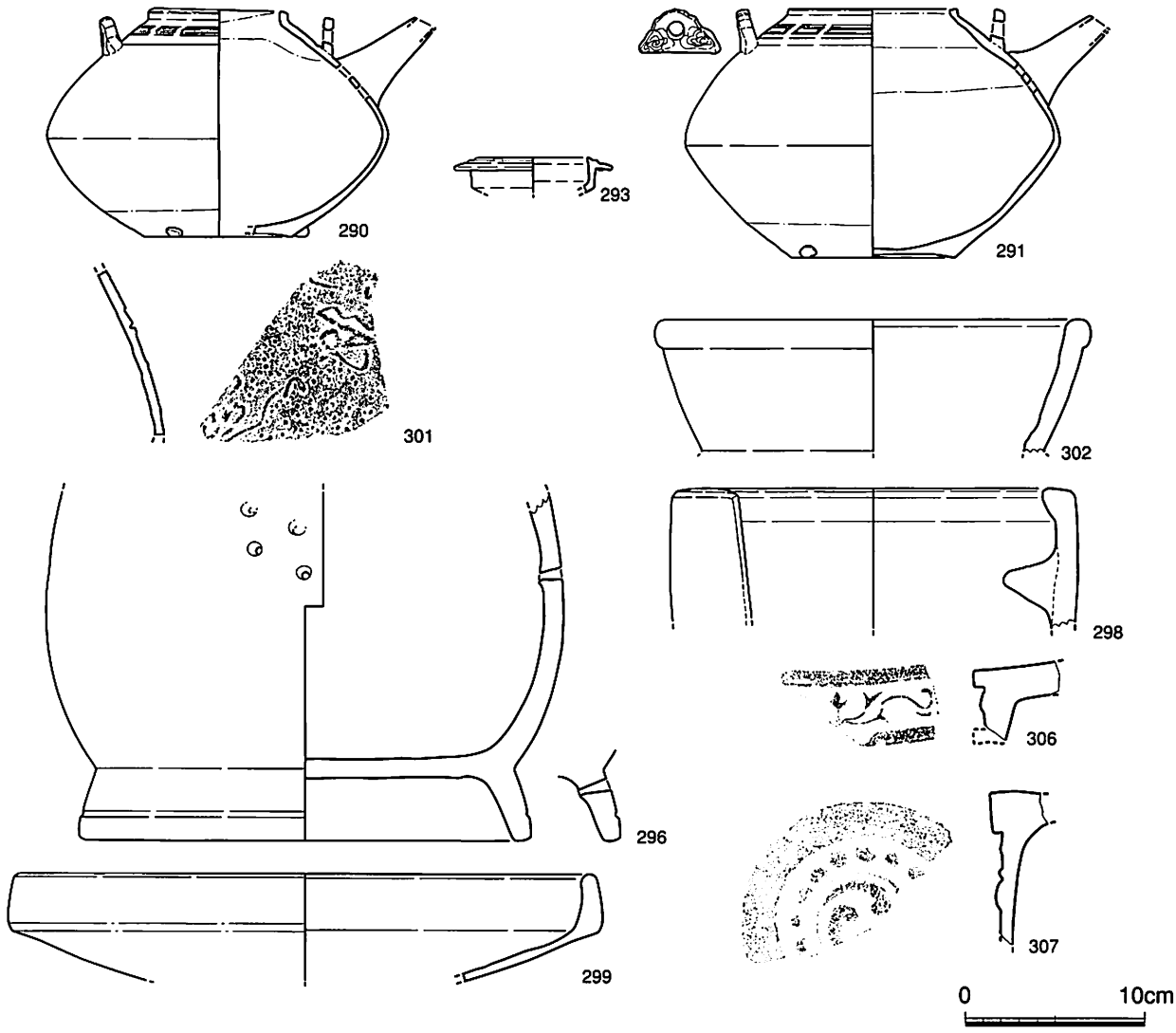
第41図　S032遺物実測図③（1/3）



第42図　S032遺物実測図④（1/3）



第43図　S032遺物実測図⑤（1/4）



第44図　S032遺物実測図⑥（1/4）

S033（CDコード：2433）

グリット…5-E17

形　状…長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
1.4	0.87	0.23	1.1

埋　土

土層の堆積は、褐茶色土の単層で、炭が微量に含まれる。

遺物出土状況

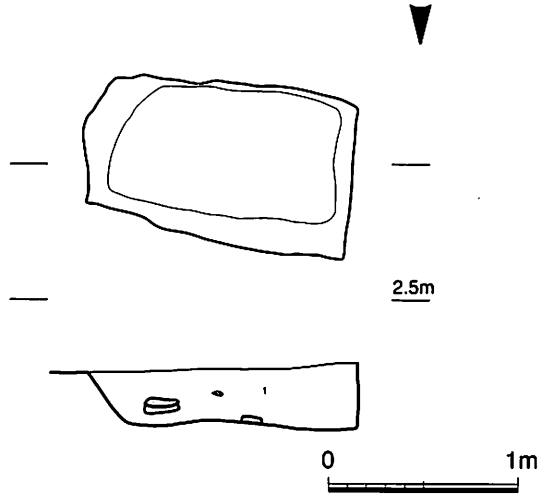
遺物は、磁器18点、陶器17点、計41点出土している。遺物の出土状態は西よりに偏りが見られる。

遺構の時期…19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3233）

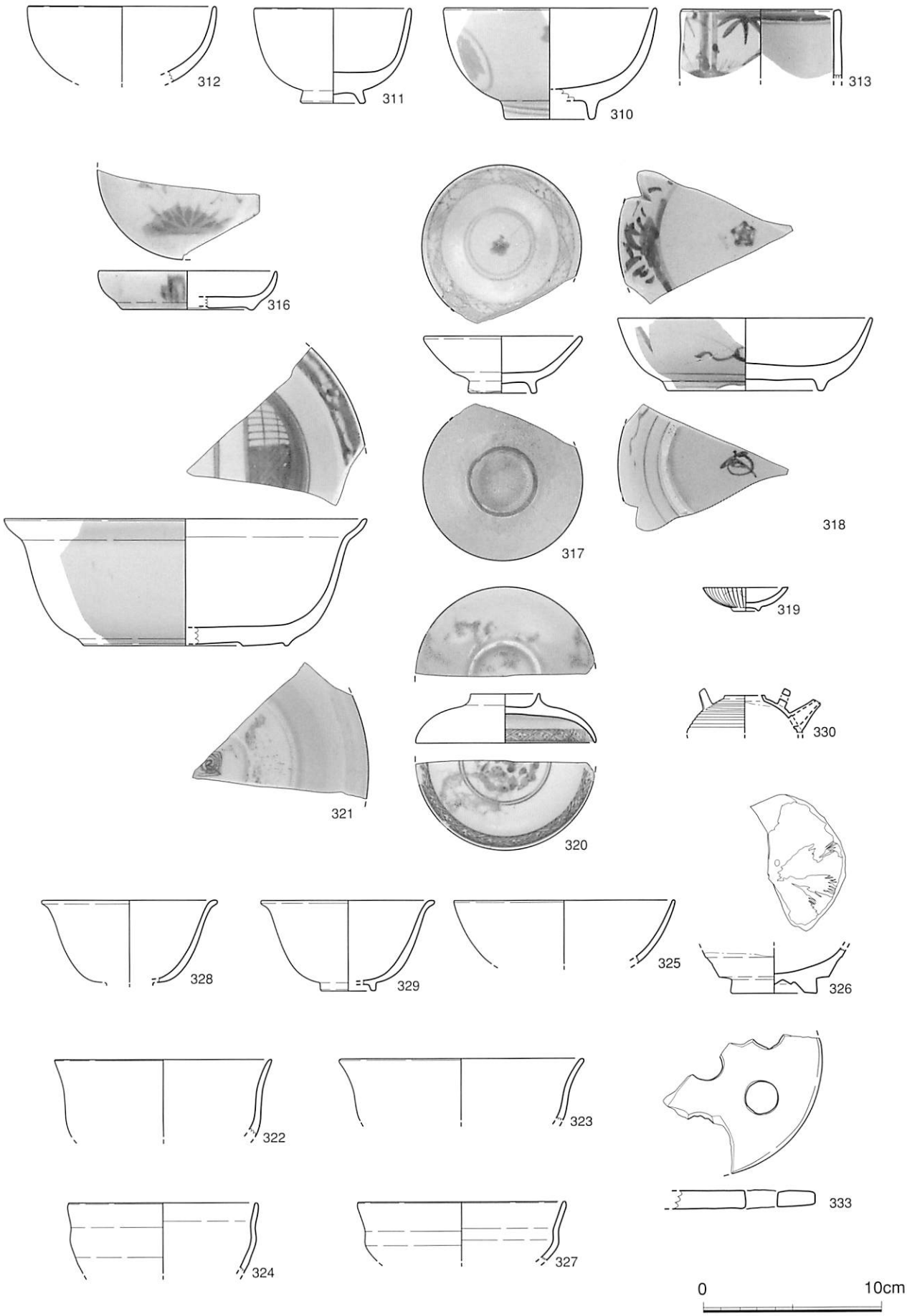
主な遺物は、高台内「渦福」銘の肥前産磁器の極小皿(R318)、萩焼産の藁灰釉のかかった腰張碗(R327)、京都・信楽産のままごと道具の土瓶(R330)、陶器小碗(R328・R329)である。

遺構の性格…土坑

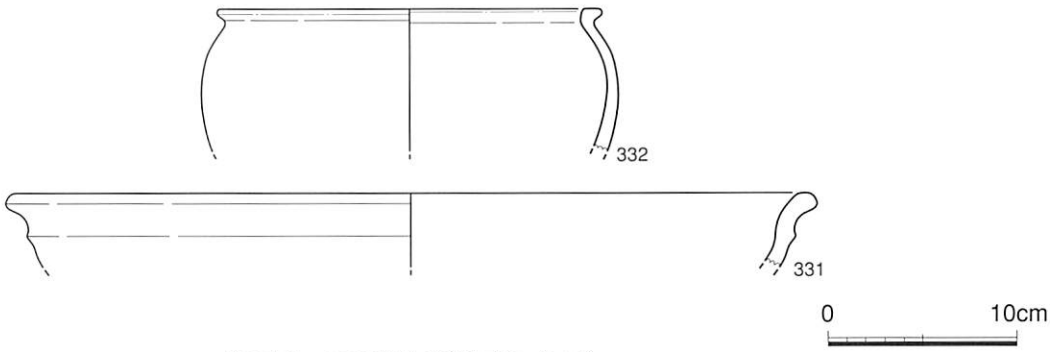


1　軟質　褐茶色土層（炭・焼土層を少量含む）

第45図　S033平面・断面図（1/40）



第46図　S033遺物実測図①（1/3）



第47図　S033遺物実測図②（1/4）

S034（CDコード：2434）

グリット…5-E18

形　状…長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
0.9	0.73	0.5	0.6

埋　土

土層は、3層に分層され、基本的にすべての層とも軟質で、2層において炭が含まれる。

遺物出土状況

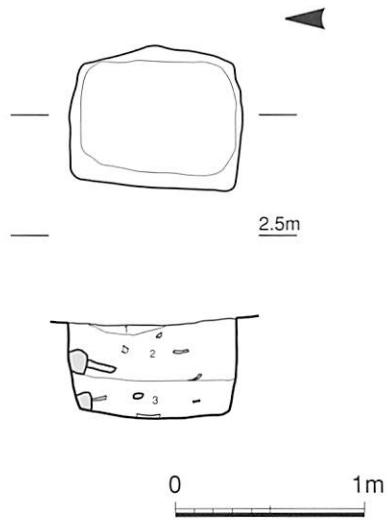
すべての層に遺物を含み、陶磁器67点が出土している。

遺構の時期…19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3234）

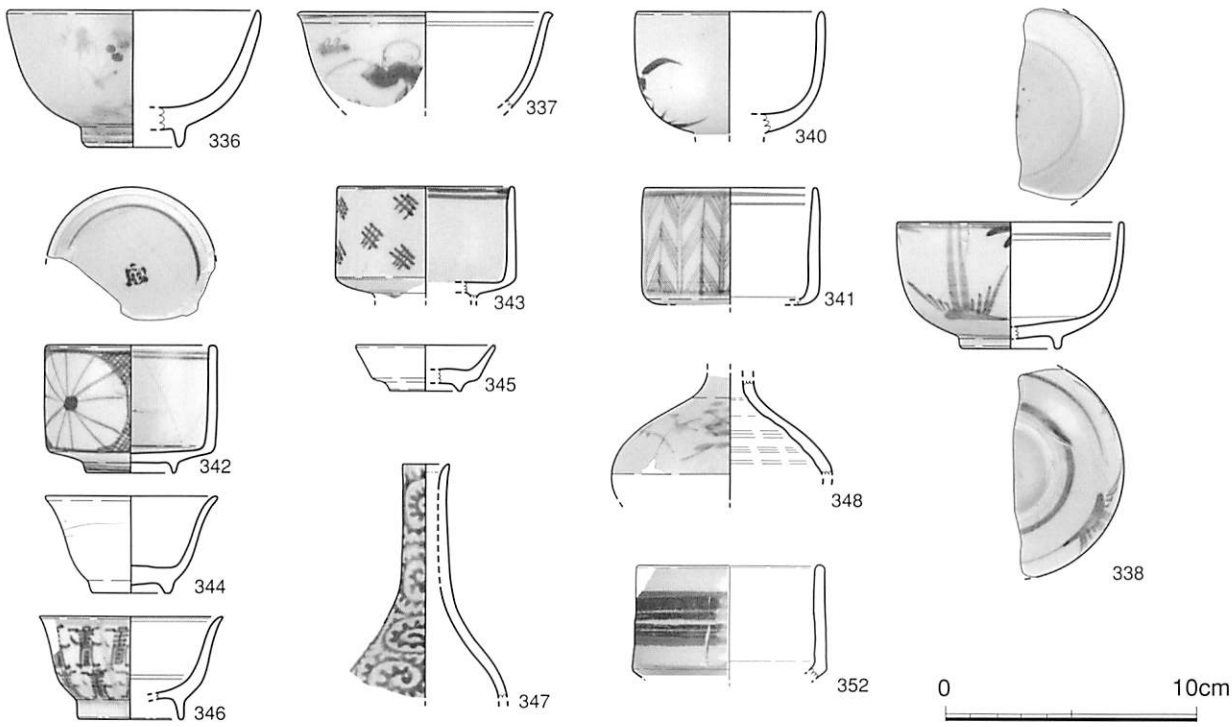
主な遺物は、焼継のある中国産染付の小坏(R346)、京都・信楽産の陶器碗(R349)や石塔窯の陶器筒形碗(R352)、関西系陶器の京焼小皿(R353)や土瓶(R358)など肥前産以外のものも多く見られる。

遺構の性格…土坑

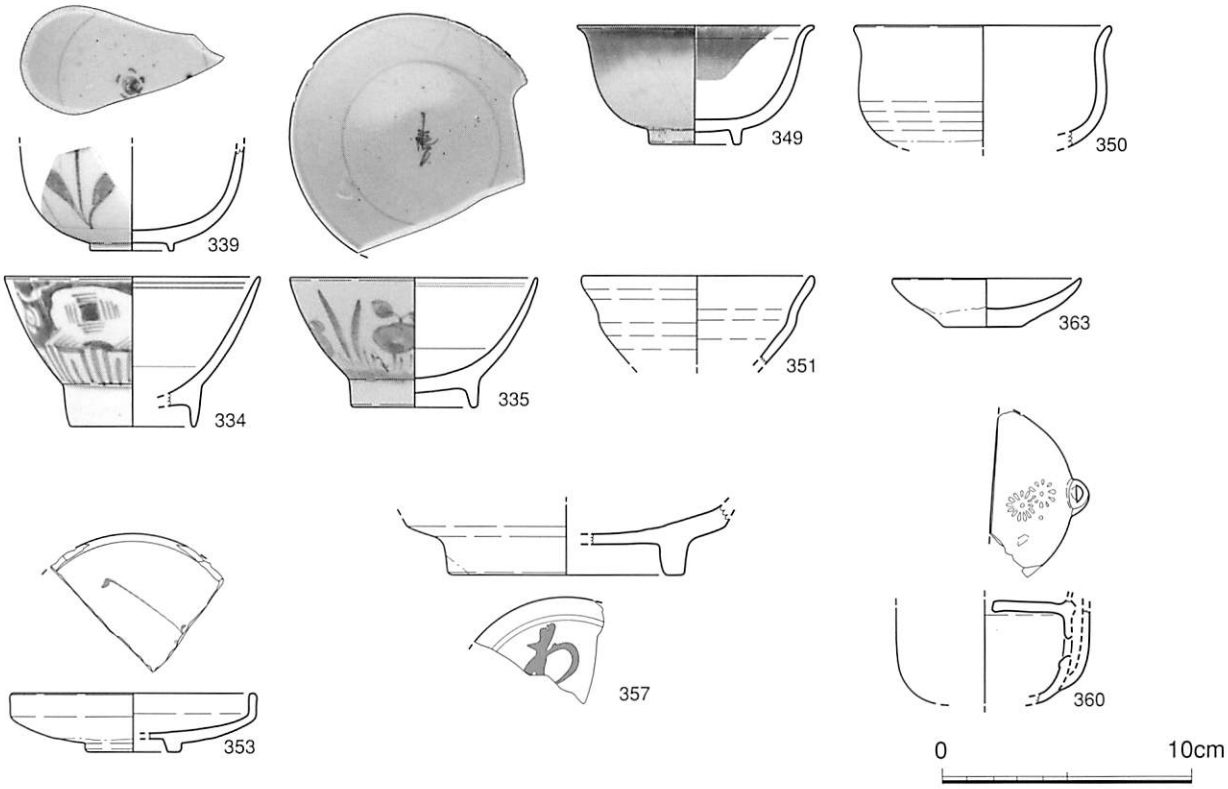


1　軟質　茶褐色土
2　軟質　褐灰色土（炭を微量に含む）
3　軟質　褐灰色シルト質土

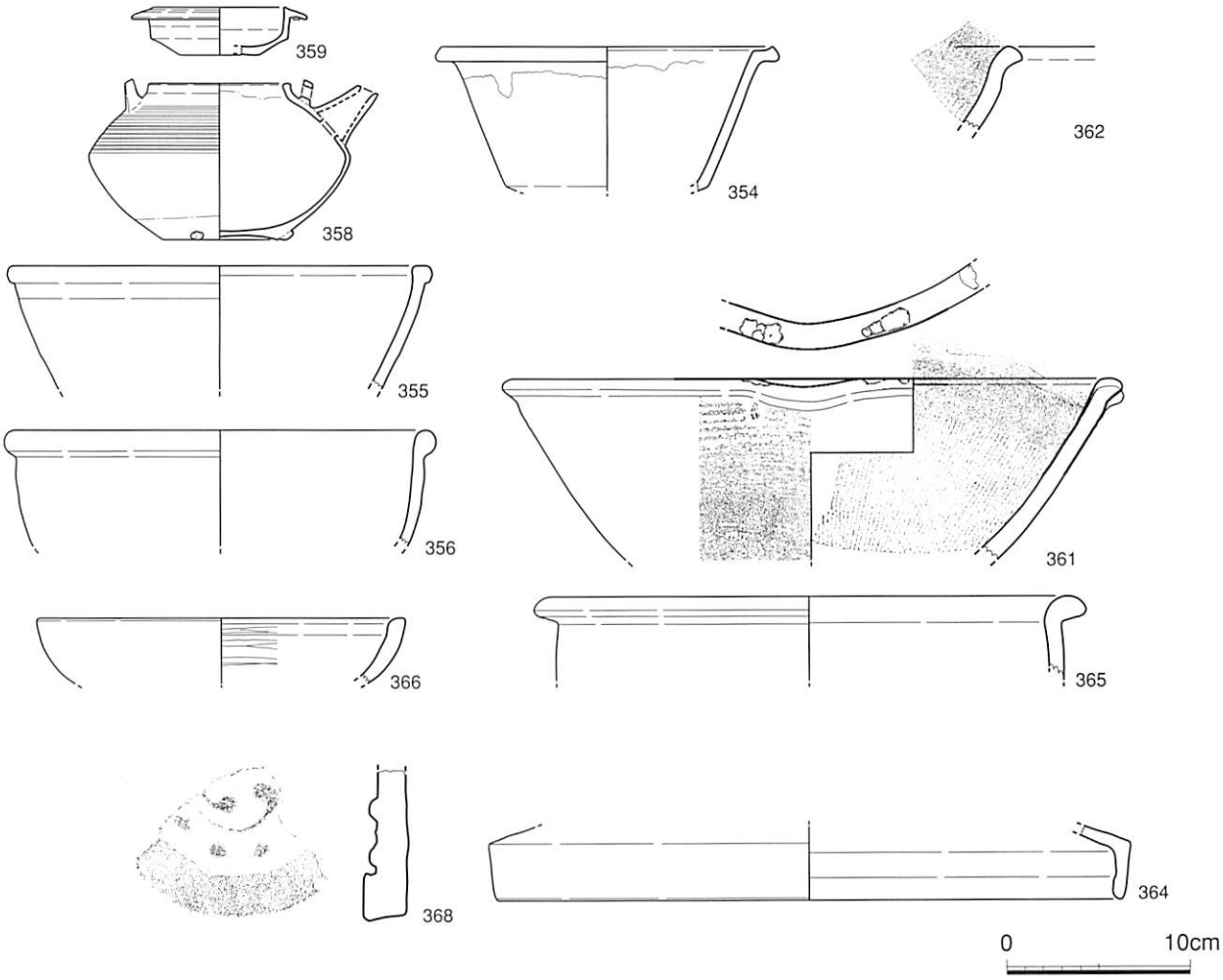
第48図　S034平面・断面図（1/40）



第49図　S034遺物実測図①（1/3）



第50図　S034遺物実測図②（1/3）



第51図　S034遺物実測図③（1/4）

S039（CDコード：2439）

グリット…5-E17

形　状…不定形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
0.8+α	0.44	0.28	0.24+α

埋　土

堆積土層は、単層で褐色の砂質土であった。

遺物出土状況

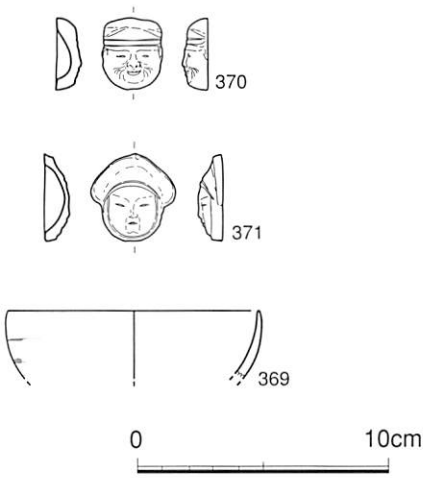
遺物の出土は、僅少で陶磁器数点、土人形2点であった。

遺構の時期…19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3239）

遺物は、肥前産の磁器染付小碗(R369)、京都産の型打成形の芥子面(R370・R371)である。

遺構の性格…土坑



第52図　S039遺物実測図（1/3）

S040

グリット…5-E18

形　状…長楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
2.04	0.55	0.32	0.8

埋　土

堆積土層は、単層で褐色シルト土であり、炭が微量混入している。

遺物出土状況

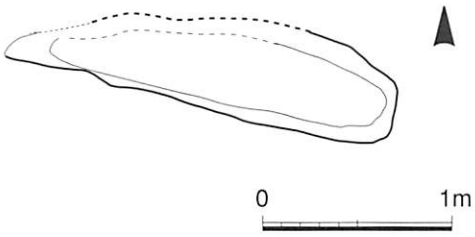
遺物は、総数22点出土しており、磁器が8点、土師質のままごと道具2点などが出土している。

遺構の時期…19世紀前半～19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3240）

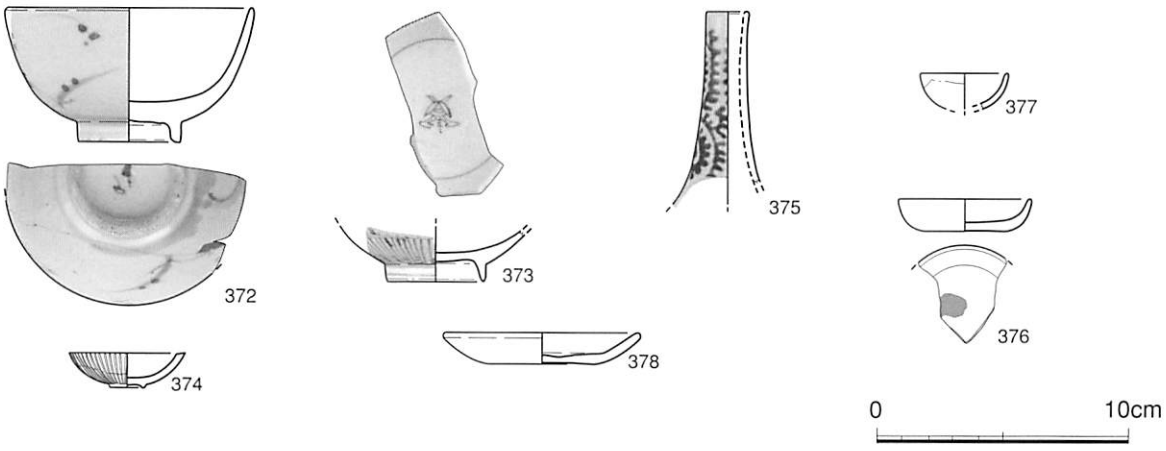
主な遺物は、肥前産のくわらんか碗(R372)・蛸唐草文の染付瓶(R375)、京都産で緑釉のかかったままごと道具の皿(R376)・碗(R377)、型押しの土人形(R379・R380)である。

遺構の性格…土坑



1　軟質　褐色シルト質土層（炭を微量に含む）

第53図　S040平面図（1/40）



第54図　S040遺物実測図（1/3）

S042（S047・048）（CDコード：2442）

グリット…5-E17・5-E18・5-E19

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
検出11.8	幅0.6	0.2	検出6.7

埋　土

堆積土層は、単層で灰茶色の粘質土であり、炭が微量に混入している。粘土を使用して意図的に埋めている。

遺物出土状況

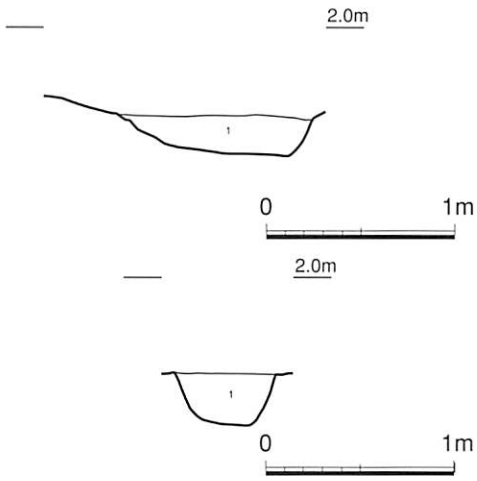
遺物は、総数31点出土し、磁器14点、陶器12点を占める。

遺構の時期…19世紀前半～19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3342）

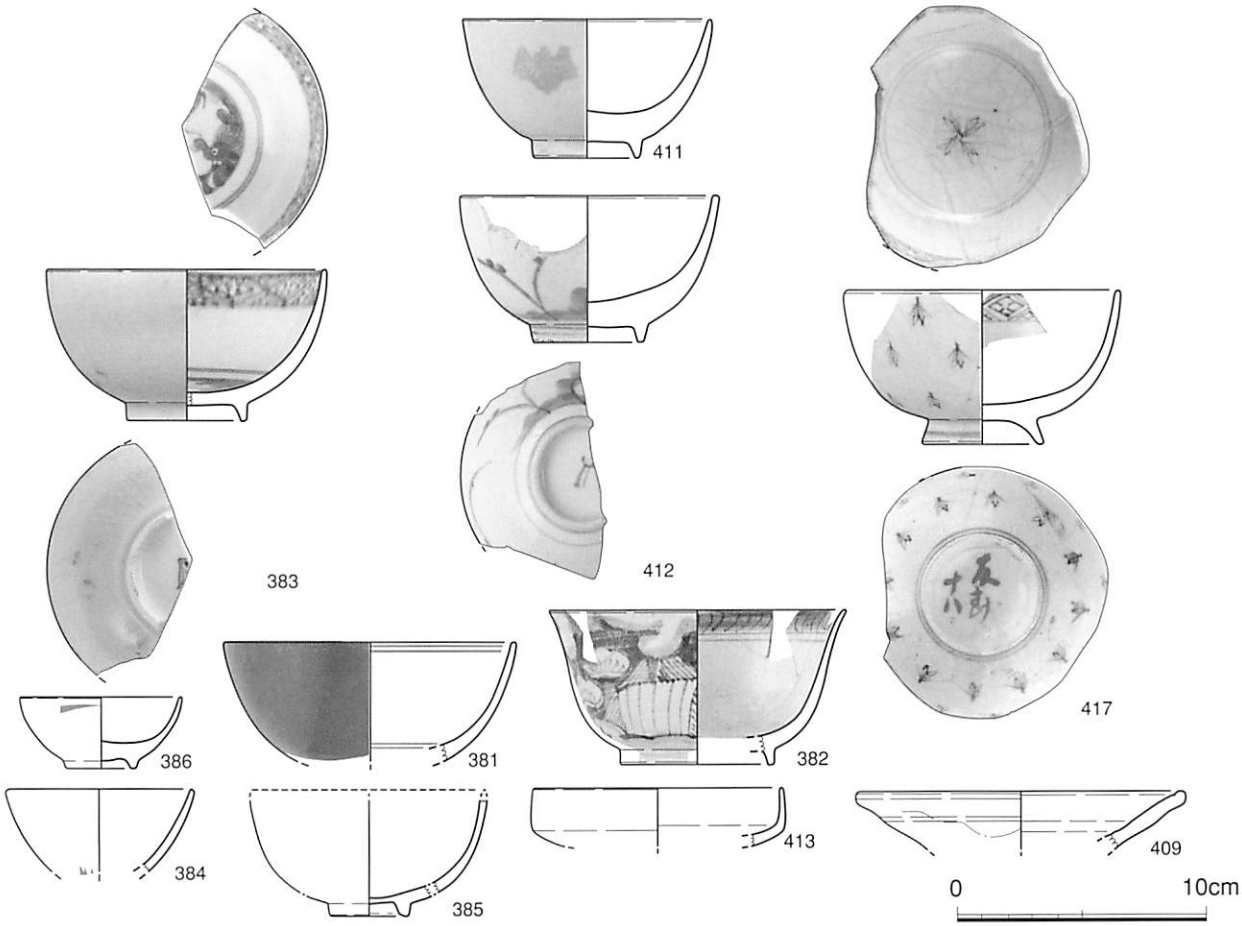
主な遺物は、高台内に朱書きで「友助十八」銘のある肥前産磁器の染付碗(R417)、肥前産の磁器染付端反碗(R382)・紅猪口(R386)である。

遺構の性格…溝

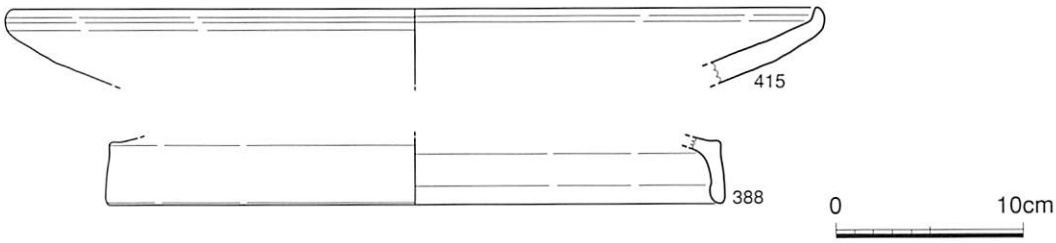


1　軟質　灰茶色粘土層（カーボン微量含む）

第55図　S042断面図（1/40）



第56図　S042遺物実測図①（1/3）



第57図　S042遺物実測図②（1/4）

S045（CD コード：2445）

グリット…5-E19

形　状…長楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
2.16+α	0.4	0.5	0.8+α

埋　土

堆積土層は、単層で灰褐色の粘質土であり、炭が微量に混入している。粘土を使用し、意図的に埋めている。

遺物出土状況

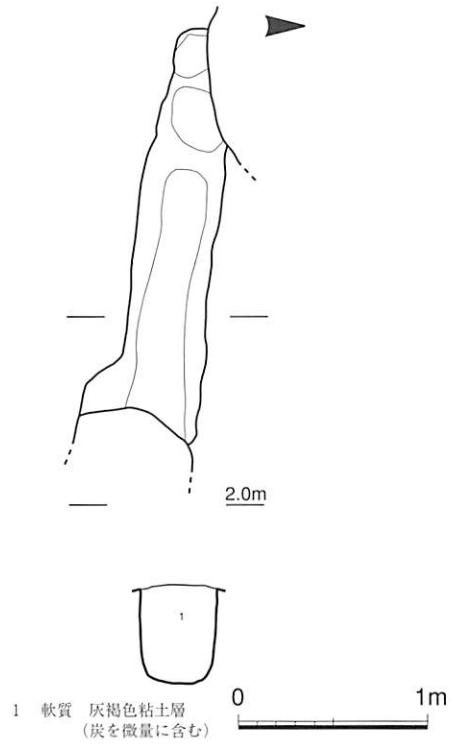
陶磁器類が主に出土している。

遺構の時期…18世紀後半

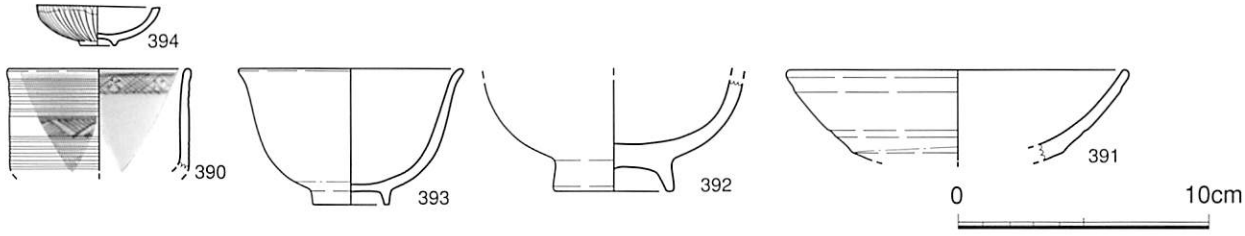
主な遺物（CD コード：3245）

出土遺物は、肥前産の磁器染付筒形碗(R390)、唐津系陶器の小皿(R391)と呉器手碗(R392)、京都・信楽産陶器の灰釉のかかった小碗(R393)などである。

遺構の性格…土坑



第58図　S045平面・断面図（1/40）



第59図　S045遺物実測図（1/3）

S046（CD コード：2446）

グリット…5-E19

形　状…楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
0.96+α	0.6	0.43	0.5+α

埋　土

堆積土層は、単層で褐色の粘質土であり、炭が微量に混入している。

遺物出土状況

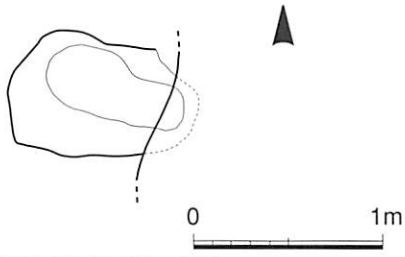
陶磁器が主に出土している。

遺構の時期…19世紀初頭

主な遺物（CD コード：3246）

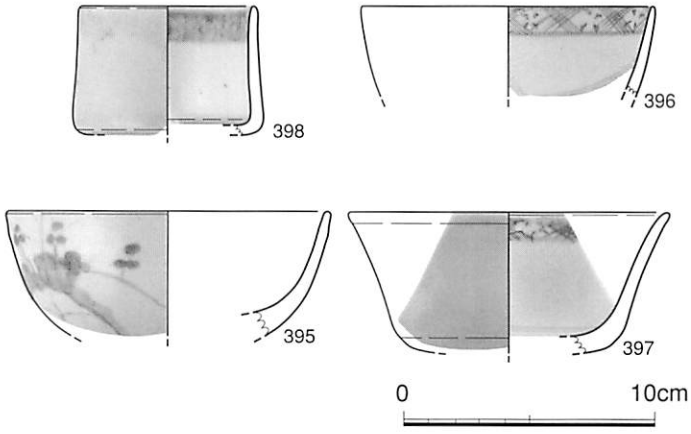
主な遺物は、肥前産の外面が青磁釉で内面が染付の碗(R396・R397)や筒形碗(R398)、京都・信楽産の陶器碗(R399)・小碗(R401)、陶器の擂鉢では上野・高取系(R402)・堺産(R404)が見られる。

遺構の性格…土坑

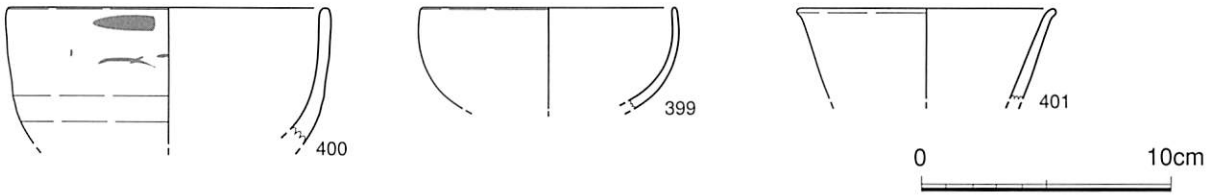


1　軟質　褐色粘土層（炭を微量に含む）

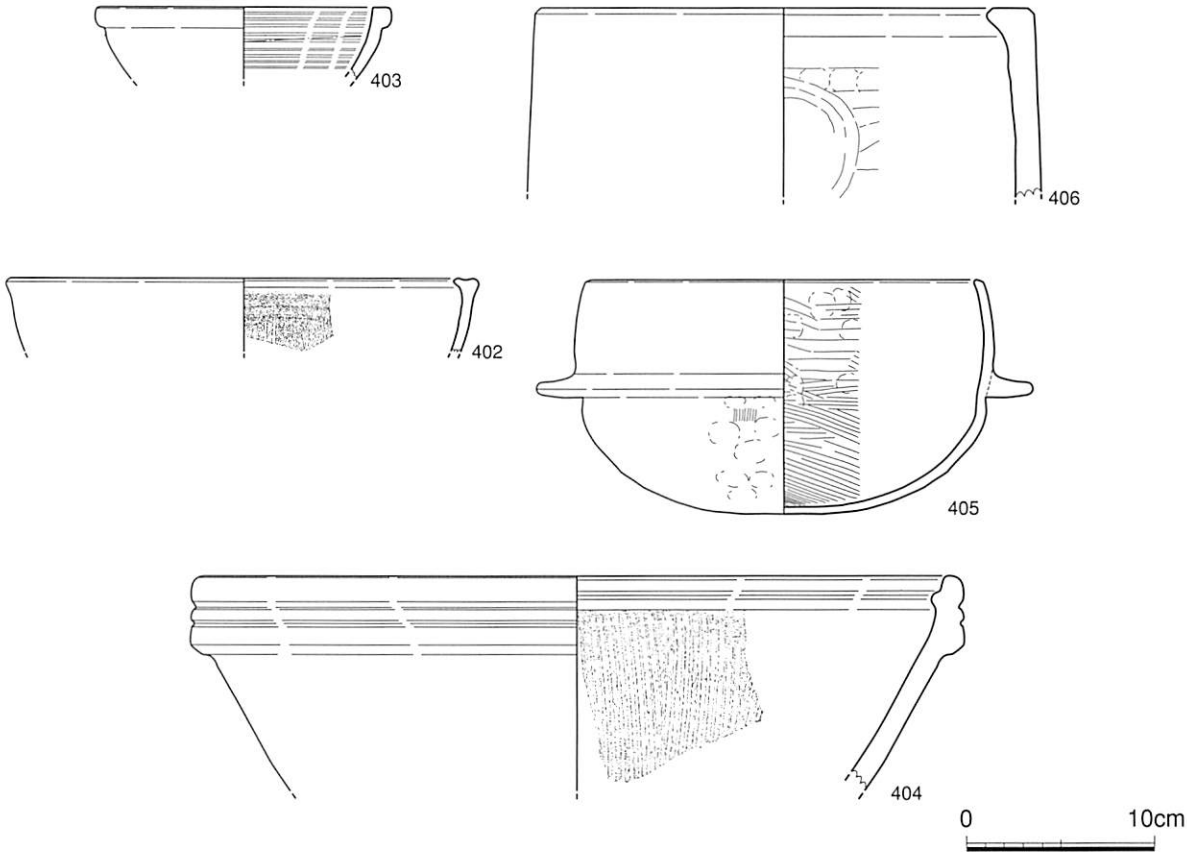
第60図　S046平面図（1/40）



第61図　S046遺物実測図①（1/3）



第62図　S046遺物実測図②（1/3）



第63図　S046遺物実測図③（1/4）

S049（CD コード：2449）

グリット…5-E19

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
1.2	0.56	0.51	0.6

埋　土

堆積土層は、単層で灰褐色の粘質土であり、炭が微量に混入している。

遺物出土状況

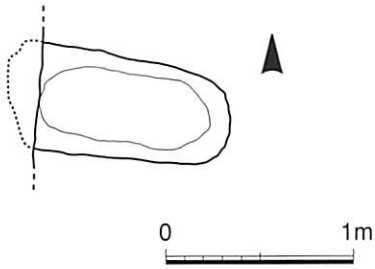
遺物の出土は、僅少であり、報告する遺物は1点のみである。

遺構の時期…18世紀前半

主な遺物

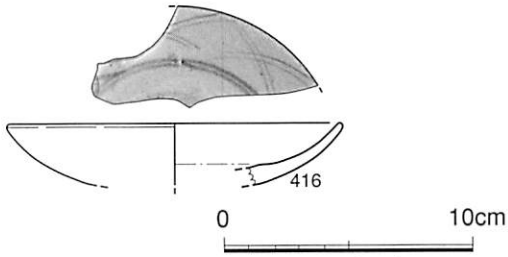
遺物は、見込み蛇の目釉剥ぎの肥前産磁器染付小皿(R416)であり、内面に二重斜格子文が描かれている。17世紀後半～18世紀中頃のものである。

遺構の性格…土坑



1　軟質　灰褐色粘質土層（炭を微量に含む）

第64図　S049平面図（1/40）



第65図　S049遺物実測図（1/3）

S050（CD コード：2450）

グリット…5-A18

形　状…円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
0.94	0.94	0.17	0.71

埋　土

堆積土層は、単層で褐色土である。

遺物出土状況

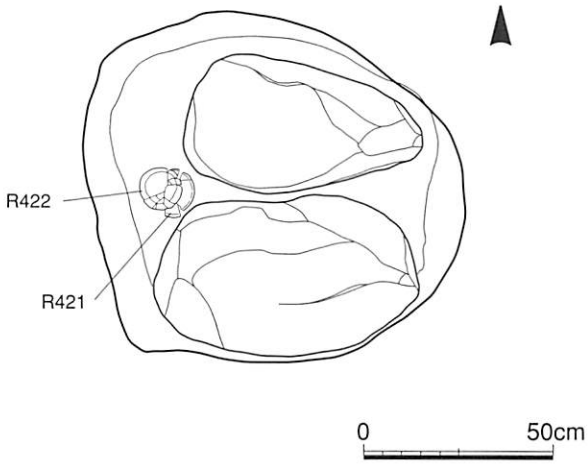
２個の礎石との間の部分に、２枚の土師器が口縁部をそれぞれ合わせて、埋置された状態で出土している。

遺構の時期…18世紀中頃

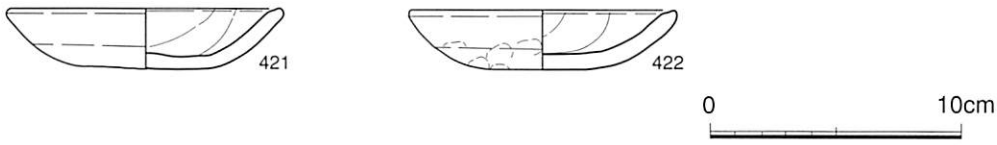
主な遺物（CD コード：3250）

遺物は、在地産の非ロクロ成形による土師器小皿(R421・R422)で、いずれも口縁部に横方向にナデを施した特徴を持つ。戦国時代における京都系土師器の流れを汲む土師器である。

遺構の性格…土坑



第66図　S050平面図（1/20）



第67図　S050遺物実測図（1/3）

S051（CD コード：2451）

グリット…5-A19

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
1.39	1＋α	0.1	1.18＋α

埋　土

堆積土層は、単層で褐色土であり、焼土・炭が多量に混入している。床面は、火を受けた痕跡がありカマドとして使用されていたものと想定される。

遺物出土状況

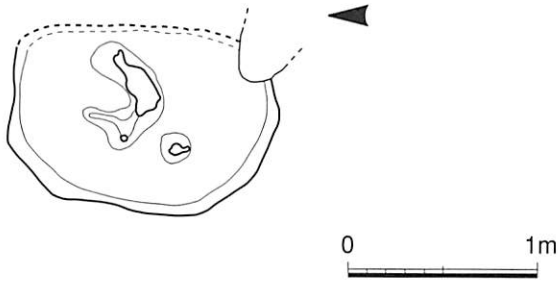
量は少ないものの、陶磁器、瓦等が遺構全体から廃棄された状態で出土している。

遺構の時期…18世紀後半

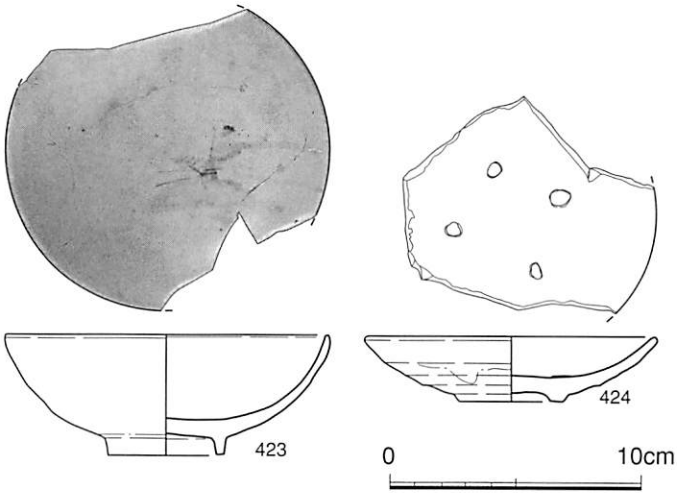
主な遺物（CD コード：3251）

主な遺物は、高台が露胎した唐津系陶器の京焼風小皿(R423)と胎土目積みの唐津系陶器の小皿(R424)である。

遺構の性格…土坑



第68図　S051平面図（1/40）



第69図　S051遺物実測図（1/3）

S052（CDコード：2452）

グリット…5-E18

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
0.96+α	0.82	0.35	0.77+α

埋　土

堆積土層は、3層に分かれ、褐色土を基調としており、3層とも炭が微量に混入している。

遺物出土状況

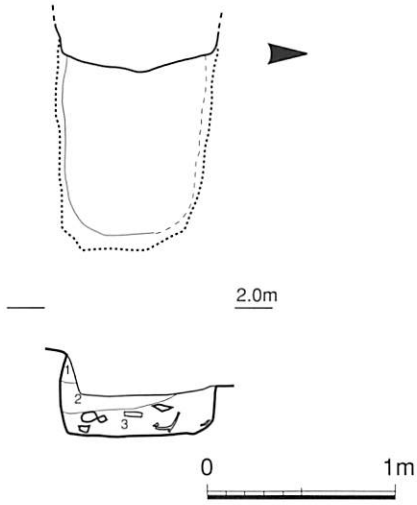
陶磁器類を中心に61点の遺物が下層で出土している。

遺構の時期…19世紀前半～19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3252）

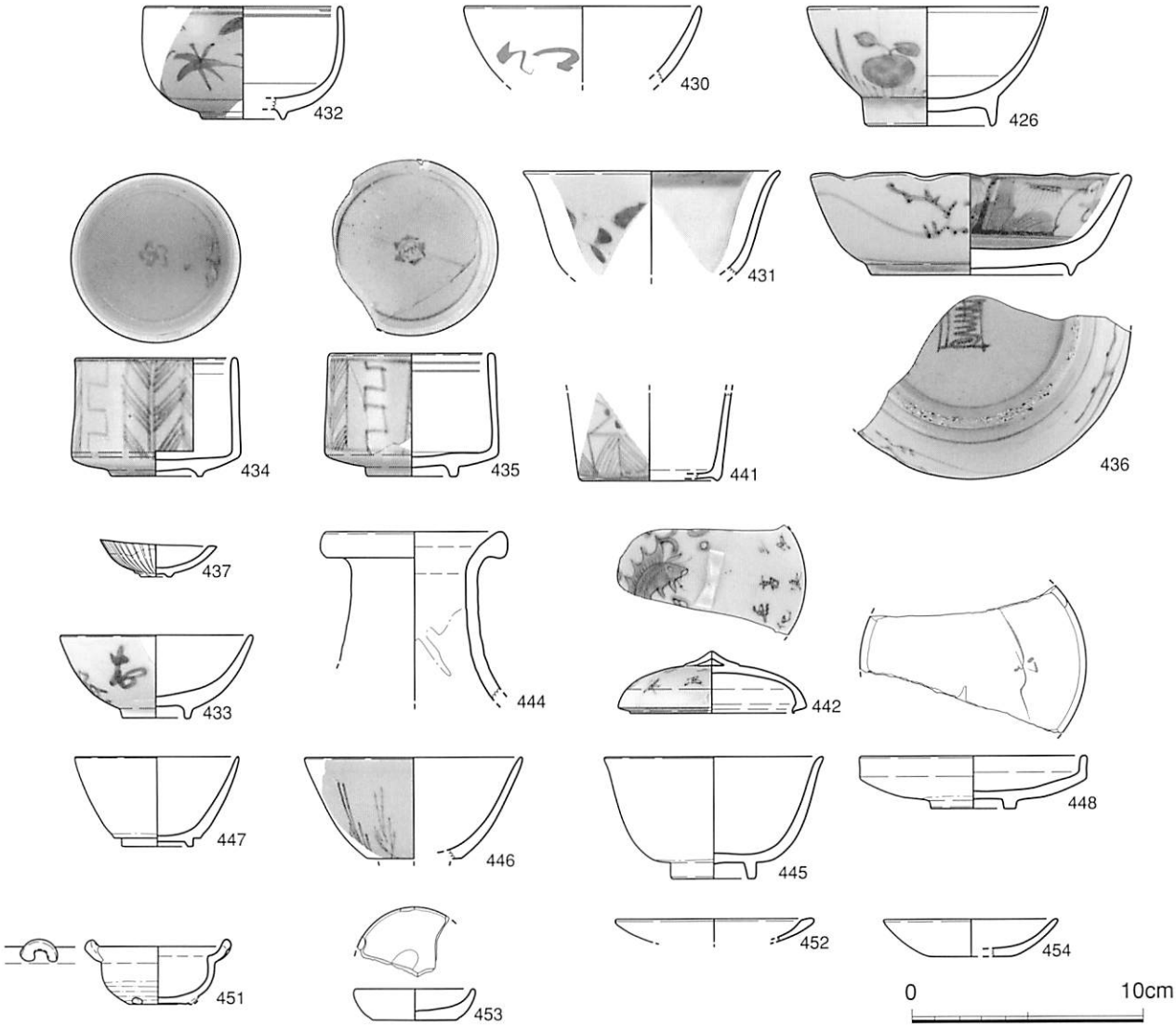
主な遺物は、肥前産の磁器染付碗(R426)、見込みにコンニャク印判の五弁花文のある磁器の染付筒形碗(R435)、7点も出土している肥前産の磁器紅皿(R437～R440)、京都・信楽産陶器の小杉碗(R446～R447)がある。

遺構の性格…土坑

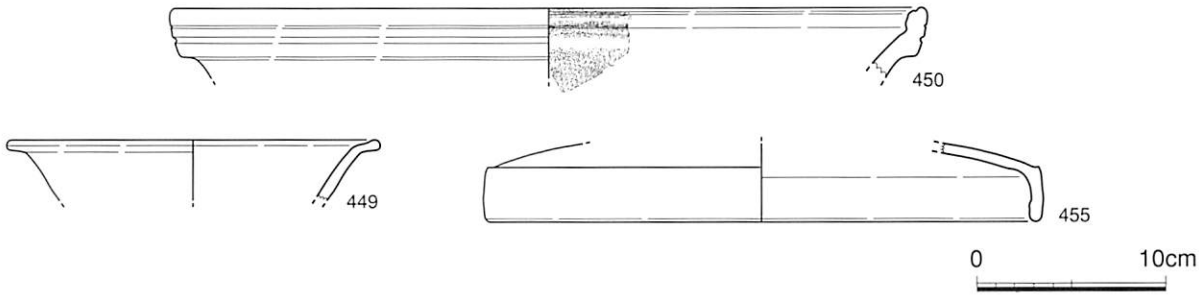


1　軟質　茶灰色土層
2　軟質　褐灰色土層（炭を微量に含む）
3　軟質　褐色土層

第70図　S052平面・断面図（1/40）



第71図　S052遺物実測図①（1/3）



第72図　S052遺物実測図②（1/4）

S054（CDコード：2454）

グリット…5-E17

形　状…楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
1.38	0.93	0.5	1.06

埋　土

堆積土層は、単層で灰茶褐色粘質土であり、炭が中量混入している。

遺物出土状況

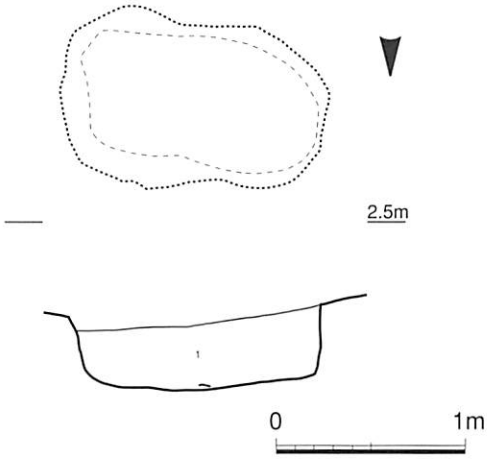
陶磁器類が主に出土している。

遺構の時期…19世紀前半～19世紀中頃

主な遺物（CDコード：3254）

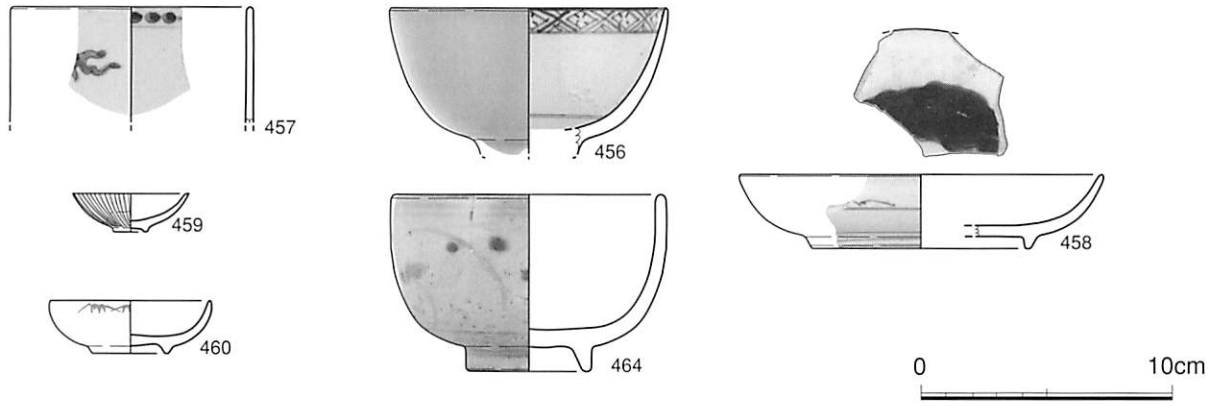
主な遺物は、外面が青磁釉で内面が染付の肥前産の磁器碗(R456)、唐津系の半磁半陶の染付碗(R464)、唐津系の土鍋(R462)がある。

遺構の性格…土坑

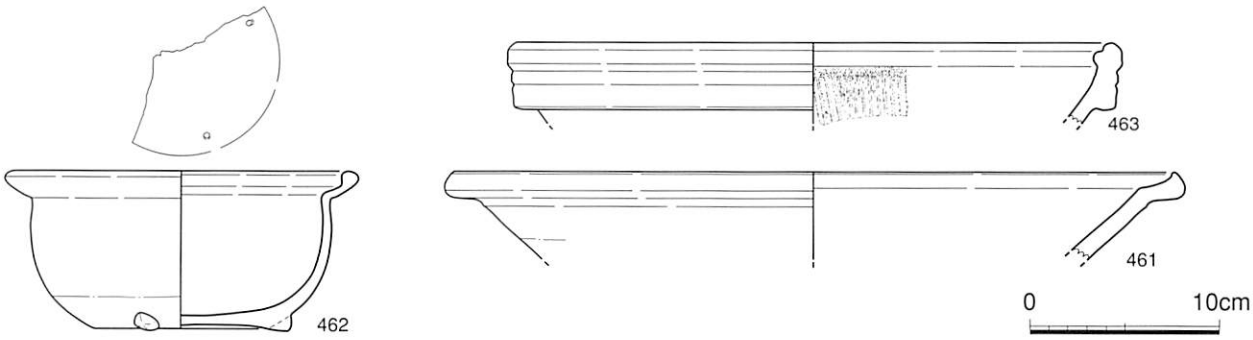


1　軟質　灰茶褐色粘質土（炭が中量含まれる）

第73図　S054平面・断面図（1/40）



第74図　S054遺物実測図①（1/3）



第75図　S054遺物実測図②（1/4）

S055（CDコード：2455）

グリット…5-E19

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
2.43	0.93	0.52	1.95

埋　土

堆積土層は3層に分層され、褐色を基本とした軟質土層である。北から南に向かって堆積土が流入している。

遺物出土状況

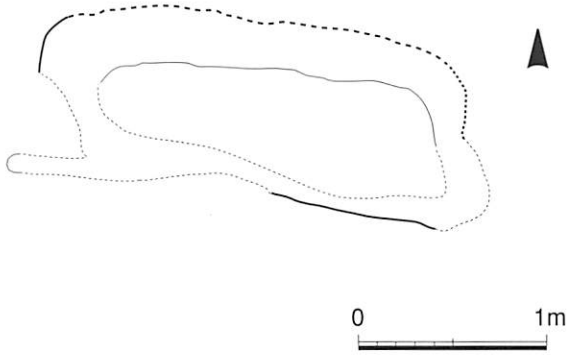
出土総数36点のうち、陶磁器類が主に占めている。

遺構の時期…19世紀末

主な遺物（CDコード：3255）

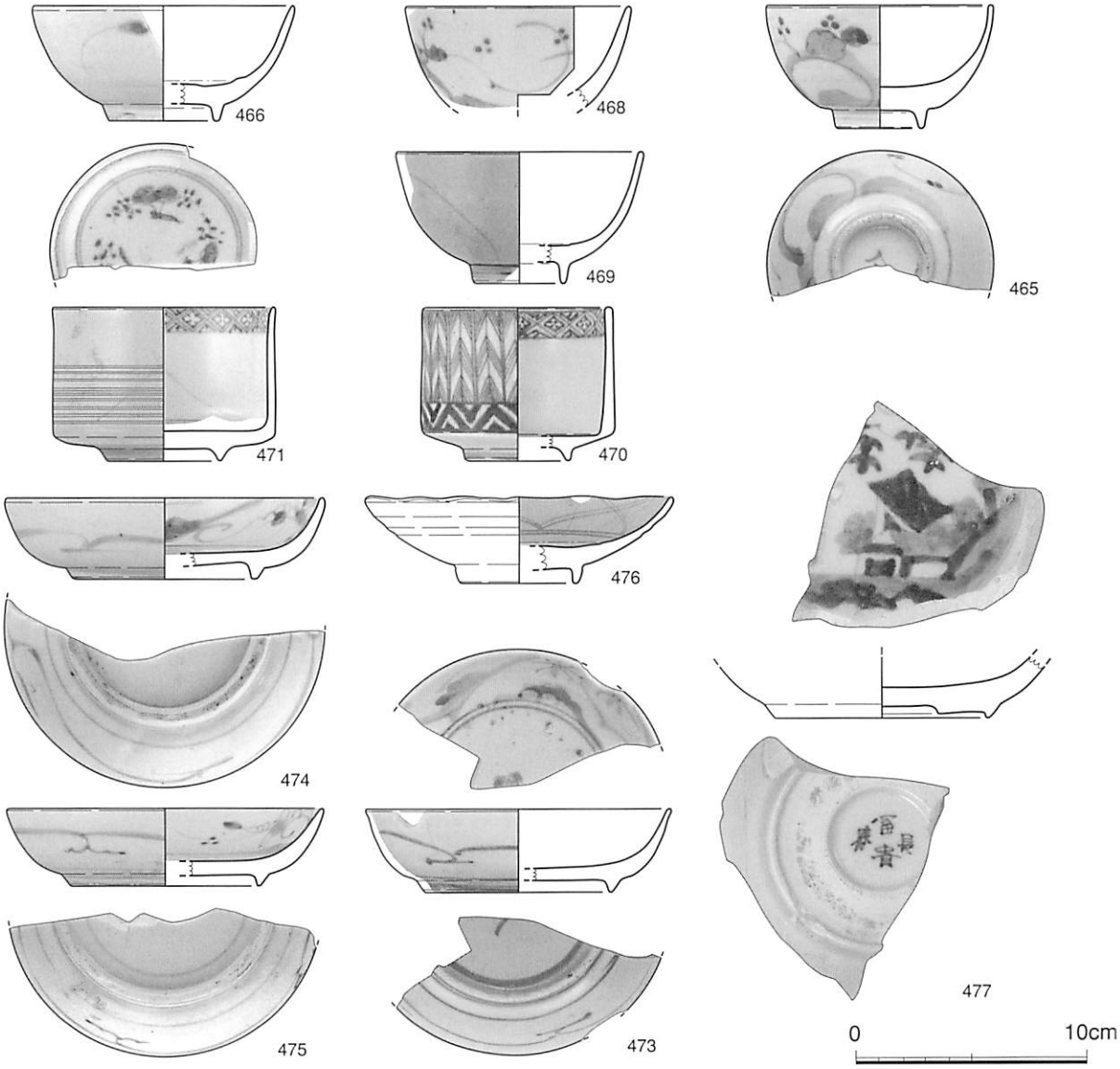
主な遺物は、肥前産の磁器筒形碗(R470・R471)、蛇の目凹形高台の磁器中皿(R477)、京都・信楽産の陶器碗(R480)である。

遺構の性格…土坑

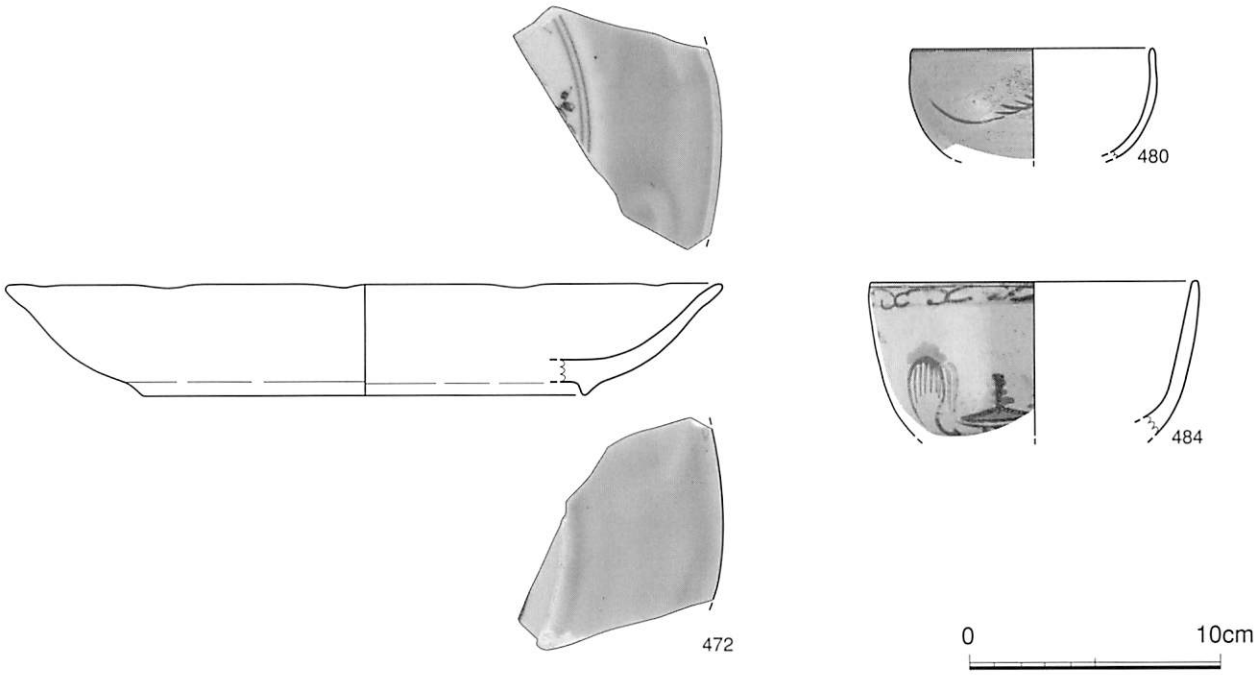


1　軟質　暗灰褐色粘質土（炭が少々含まれる）
2　軟質　暗褐灰色粘質土(炭が微量に含まれる)
3　軟質　淡褐灰色粘質土(炭が微量に含まれる)

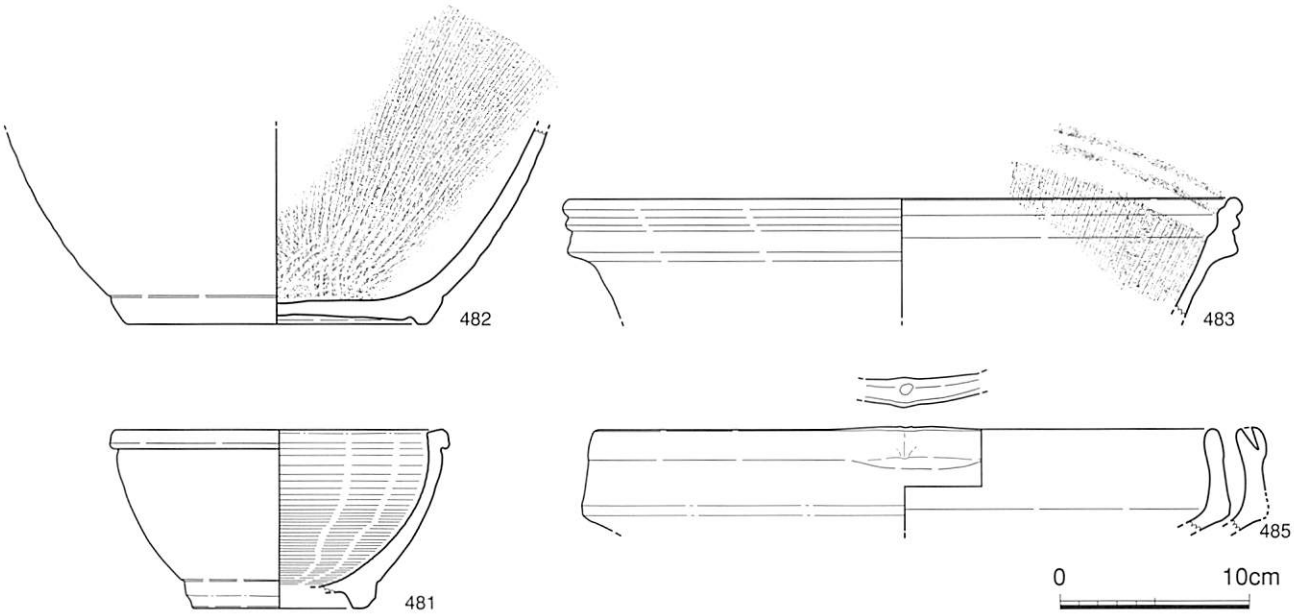
第76図　S055平面図（1/40）



第77図　S055遺物実測図①（1/3）



第78図　S055遺物実測図②（1/3）



第79図　S055遺物実測図③（1/4）

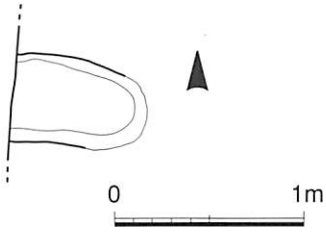
S058（CD コード：2458）

グリット…5-E17

形　状…隅丸長方形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(m²)
0.72+α	0.49	0.21	0.3+α



第80図　S058平面図（1/40）

埋　土

堆積土層は、単層で褐色土であり、炭が微量に混入している。

遺物出土状況

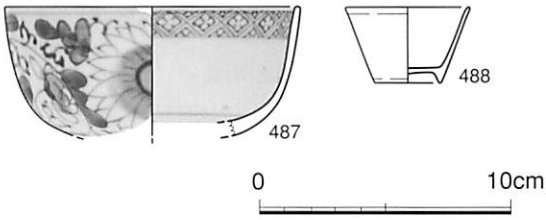
遺物の出土は僅少で、磁器が出土している。

遺構の時期…19世紀中頃以降

主な遺物

遺物は、肥前産の染付碗(R487)と白磁小坏(R488)がある。

遺構の性格…土坑



第81図　S058遺物実測図（1/3）

2．柱穴遺構

調査区の中で、柱穴として確認された遺構は、12基である。これらの柱穴はいずれも円形もしくは楕円形を呈するものであり、規模は30～50cmと80～90cmとに集中する。柱穴には並ぶものがあり、これが建物の基礎にあたる可能性も高い。S050に見られるような、掘り込みに伴って礎石と思われる石を埋設しているものやS009の西側の遺構に見られる柱穴ほどの大きさに石が組み込まれている状況が確認されていることから、柱穴の中には、すでに礎石を取り除かれてしまったものもあると考えられる。

S009

グリット…5-E19

形　状…楕円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
0.5	0.37	0.23	0.14

埋　土

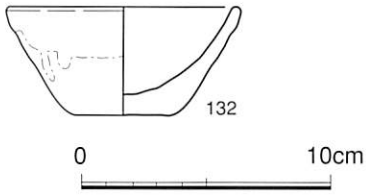
堆積土層は、単層で褐色土であり、炭が微量に混入している。

遺構の時期…17世紀中頃

主な遺物（CDコード：3309）

遺物は、唐津系陶器の小碗(R132)であり、底部は糸切りである。

遺構の性格…柱穴



第82図　S009遺物実測図（1/3）

S023

グリット…5-E17

形　状…円形

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
0.54	0.44	0.21	0.19

埋　土

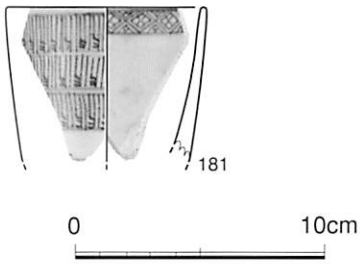
堆積土層は、単層で褐色土であり、炭が微量に混入している。

遺構の時期…19世紀初頭

主な遺物

遺物は、肥前産の磁器染付そば猪口(R181)である。

遺構の性格…柱穴



第83図　S023遺物実測図（1/3）

3．溝状遺構

調査区の南側と西側に6条の溝状遺構が確認されている。西側にあるS031は、土地を区画する溝であったものと考えられる。南側にあるS011とS012は19世紀以降の道路の排水溝と考えられる。また、S042は、堀川町を貫く道路に伴う溝状遺構であったものと思われる。

S011（CDコード：2411）

グリット…5-E18・5-E19

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
検出11.89	幅1.2	0.75	検出13.86

埋　土

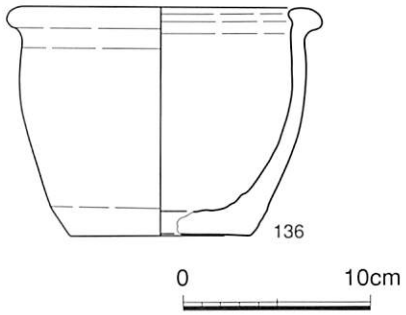
堆積土層は、単層で褐色土であり、炭が微量に混入している。

遺構の時期…19世紀初頭

主な遺物（CDコード：3311）

主な遺物は、信楽の陶器小碗(R133)、陶器の植木鉢(R136)である。

遺構の性格…溝



第84図　S011遺物実測図（1/4）

S012（CDコード：2412）

グリット…5-E17・5-E18・5-F18・5-F19

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
検出11.83	幅2.0	0.53	検出23.85

埋　土

堆積土層は、単層で褐色土であり、炭が微量に混入している。

遺構の時期…19世紀後半

主な遺物（CDコード：3312）

主な遺物は、高台に朱文字のある広東碗(R137)、見込みに「寿」銘のある中国産の染付小坏(R138)、肥前産の磁器の戸車(R139～R141)である。

遺構の性格…溝

S031

グリット…5-B17・5-C17・5-D17

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
検出12.4	幅1.1	0.2	検出8.7

埋　土

堆積土層は、単層の褐色土であり、炭が微量に混入している。

遺構の時期…17世紀後半

主な遺物

遺物は、唐津系の灰釉のかかった陶器小皿(R191)である。

遺構の性格…溝

S044

グリット…5-D17・5-D18・5-D19

規　模

長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	面積(㎡)
11.18	0.4	0.1	検出5.3

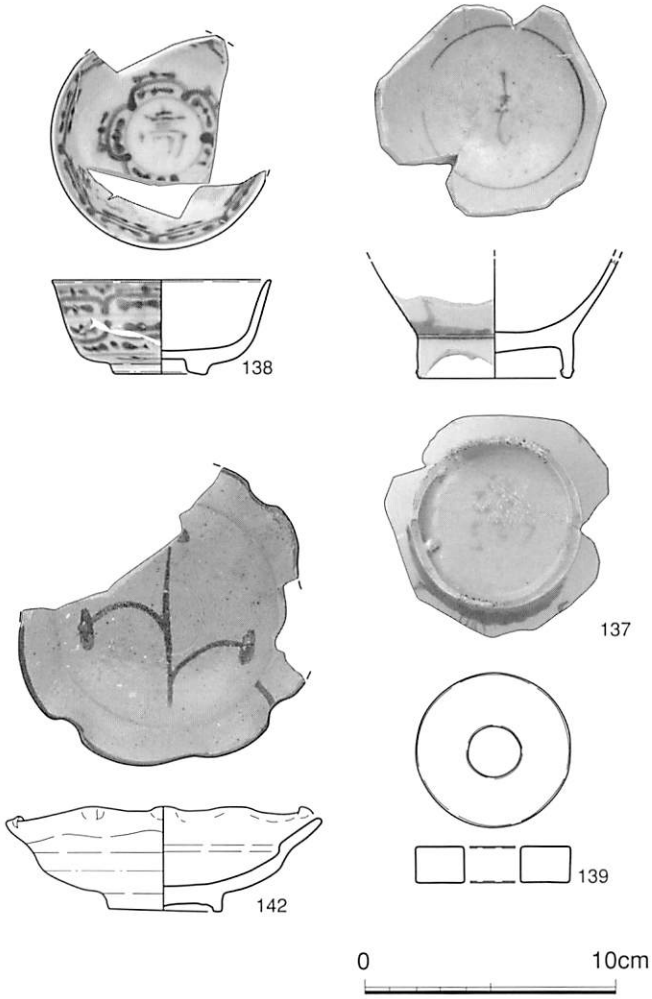
埋　土

堆積土層は、単層の褐色土であり、炭が微量に混入している。

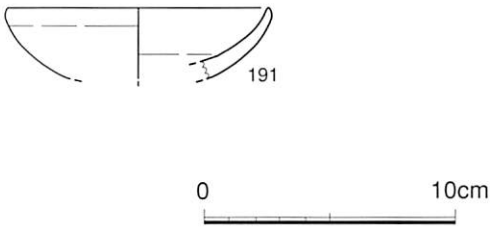
遺構の性格…溝

備　考

調査区中央部に推定される堀川町を貫く道路状遺構と調査区北部分の建物区域との境に位置する区画溝であることが考えられる。東側の溝内には、石が敷き詰められているのが確認されており、暗渠としての役割も考えることができる。



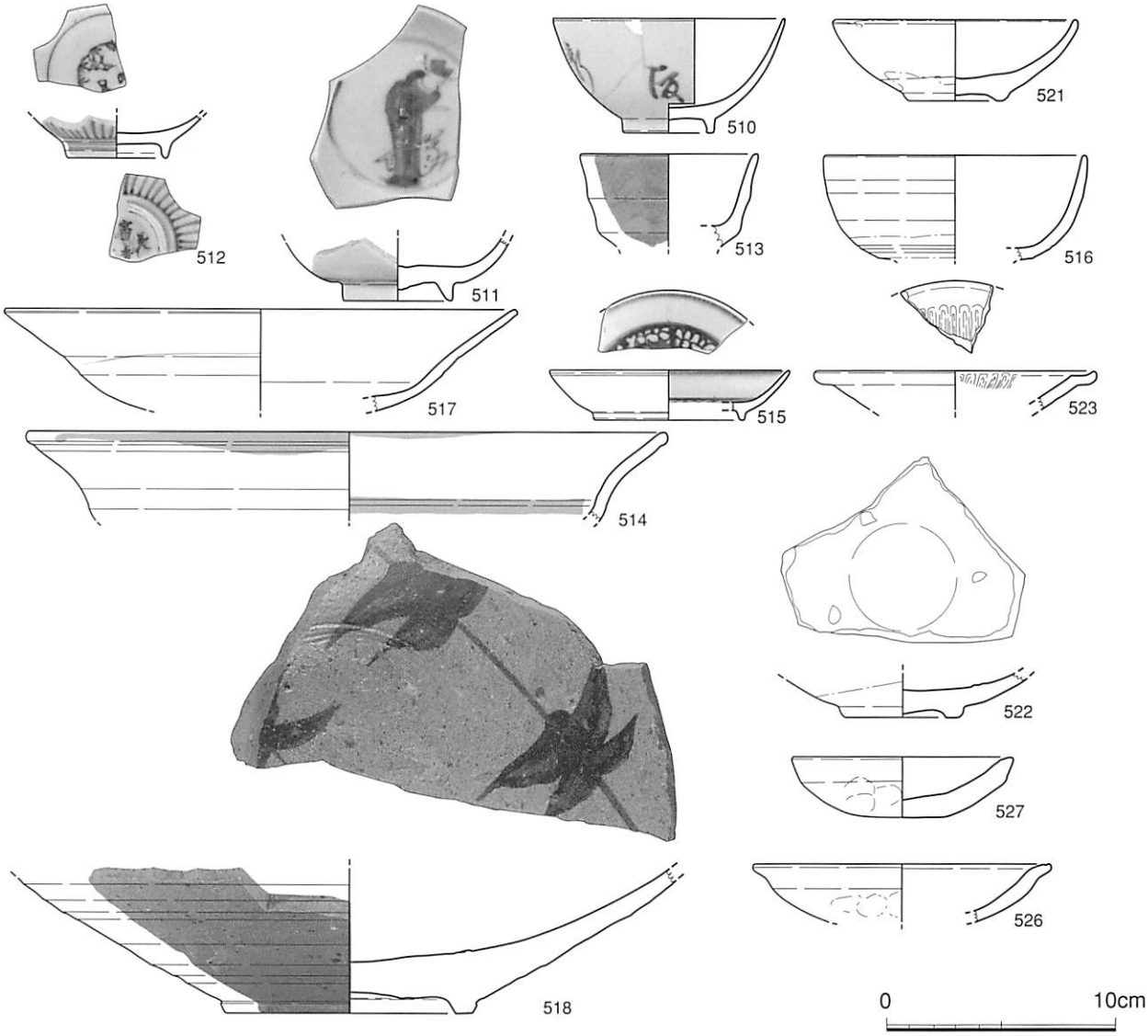
第85図　S012遺物実測図（1/3）



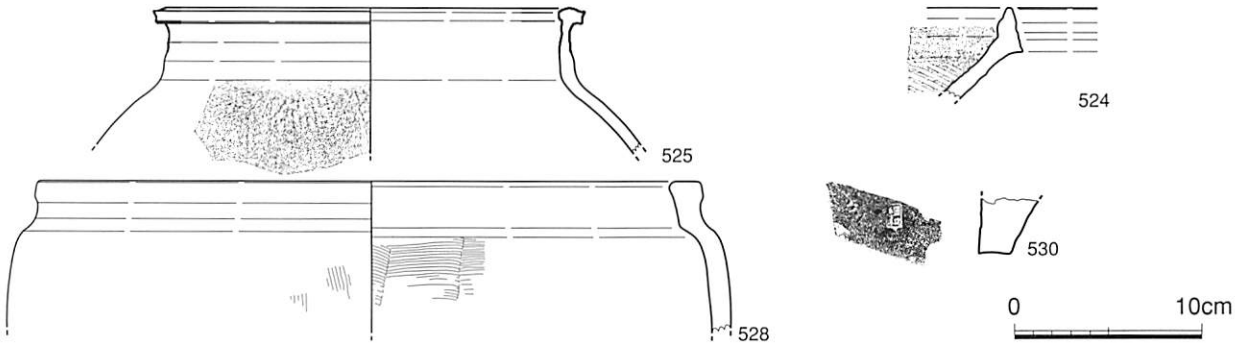
第86図　S031遺物実測図（1/3）

4．整地層（CDコード：2210・3110）

整地層は、調査地の全面で確認されており、南側の東西に伸びる道路推定域では褐色土、北側部分では褐黄色土の堆積層であった。近世の確認された遺構は、これらの層を基盤面として形成されている。整地層の下層は、自然に堆積した青灰色シルト質層となっており、遺構・遺物は確認出来なかった。また、表土下60cmは、現代から近現代にかけて形成された層で、さらに下層は近世の整地層が確認出来る地点があったが、一部で深く掘り下げられた近現代の撹乱により、調査区の南側は、遺構の削平が行われていた。整地層から出土した主な遺物は、唐津系陶器で灰釉のかかった大皿(R517)、唐津系陶器で藁灰釉のかかった鉄絵の大皿(R518)、胎土目積みの痕のある藁灰釉の陶器の小皿(R522)、在地産非ロクロ成形の京都系土師器の小皿(R526)である。



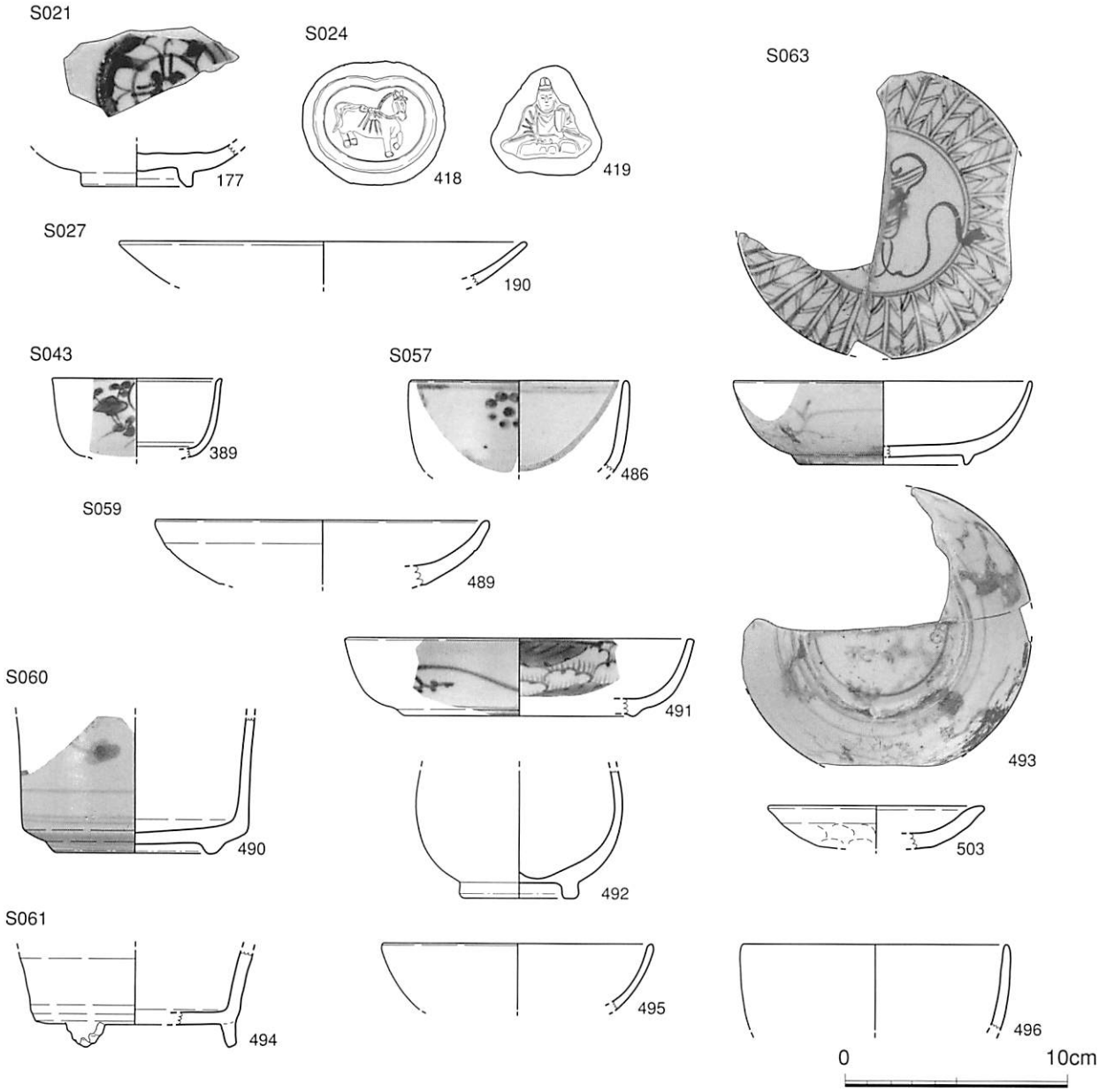
第87図　整地層遺物実測図①（1/3）



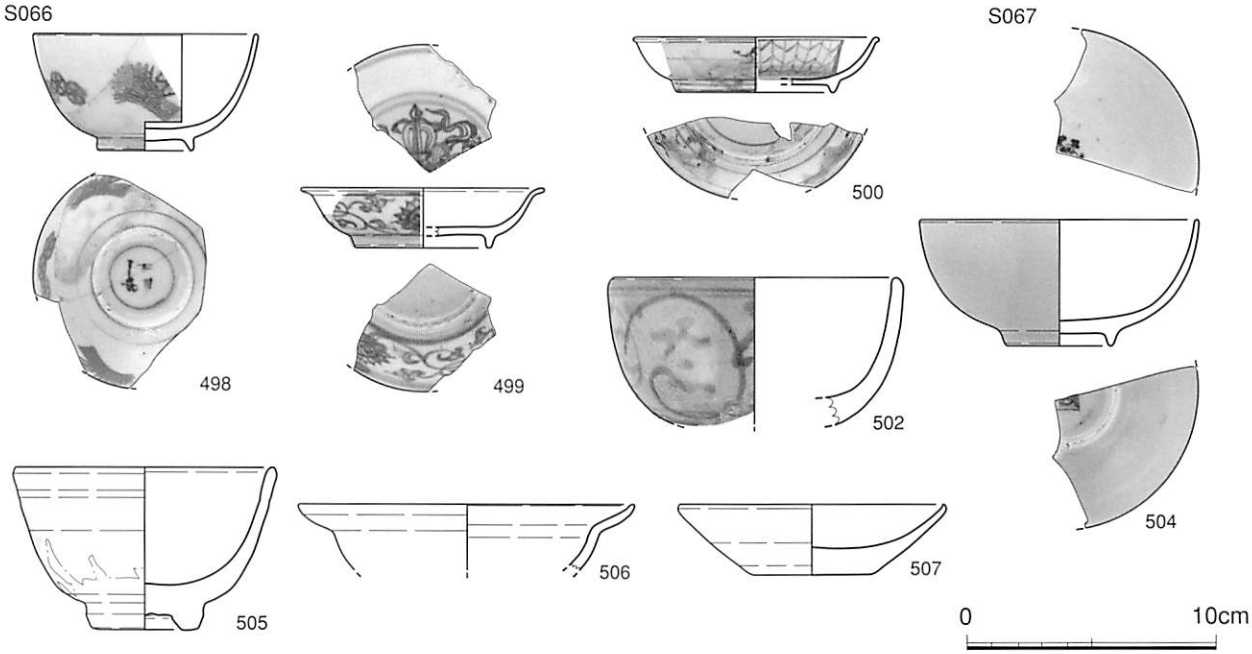
第88図　整地層遺物実測図②（1/4）

5．その他遺構・出土遺物

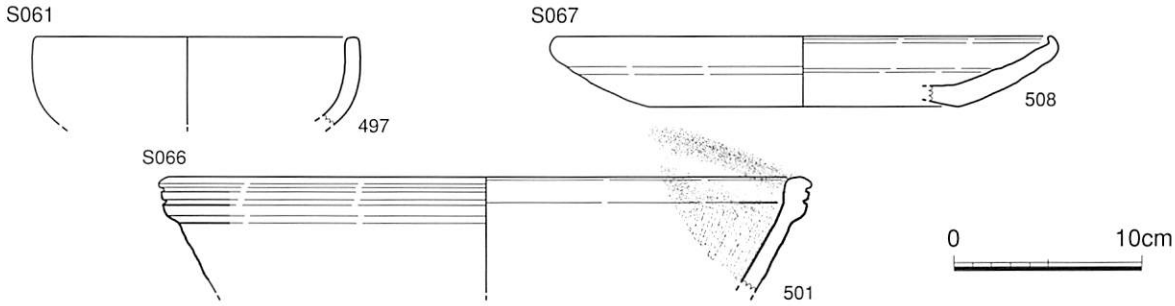
S021は円形の柱穴で、遺構埋土は１層で褐色シルト質土であった。肥前産の磁器染付碗(R177)が出土している。S027は不定形の土坑で、遺構の深さは削平を受けているため、非常に浅い。土師器の小皿が出土している。S043は土坑で、遺構埋土は黒褐色土を主体とする。肥前産の磁器染付小坏(R389)が出土している。遺構の時期は、19世紀前半～19世紀中頃が考えられる。S059は隅丸長方形の土坑で、唐津系の灰釉のかかった陶器の小皿(R489)が出土している。遺構の時期は、19世紀中頃以降と考えられる。S060は隅丸長方形の土坑で、肥前産の磁器染付筒形碗(R490)が出土している。遺構の時期は、19世紀中頃以降と考えられる。S063は土坑で、遺構埋土は褐色土であった。焼継があり、高台内に銘があり、見込みに朱で宝が描かれる肥前産の磁器染付小皿(R493)が出土している。S061は土坑で、遺構からは青磁釉のかかった肥前産の磁器香炉(R494)が出土している。S066は平面形態が隅丸長方形の土坑で、遺構埋土は１層で淡褐色の粘質土層であった。高台内に「大川○長」銘のある磁器染付小碗(R498)や肥前産の半磁半陶の染付碗(R502)が出土している。遺構の時期は17世紀末～18世紀初頭である。S067は隅丸長方形の土坑で、遺構埋土は褐色土を主体とする。見込みに手書きの五弁花文、高台内に「二重渦福」銘の磁器碗(R504)が出土している。遺構の時期は、18世紀後半である。



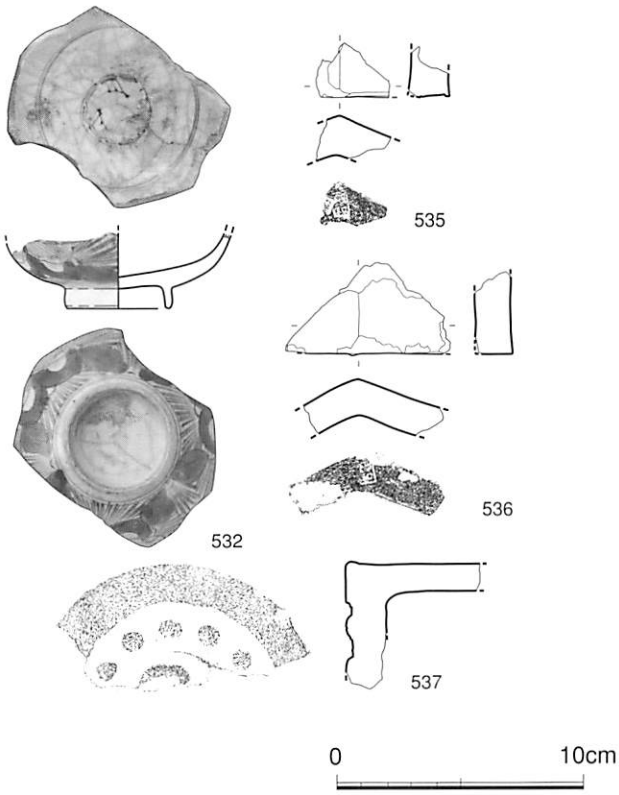
第89図　S021・024・027・043・057・059・060・061・063遺物実測図（1/3）



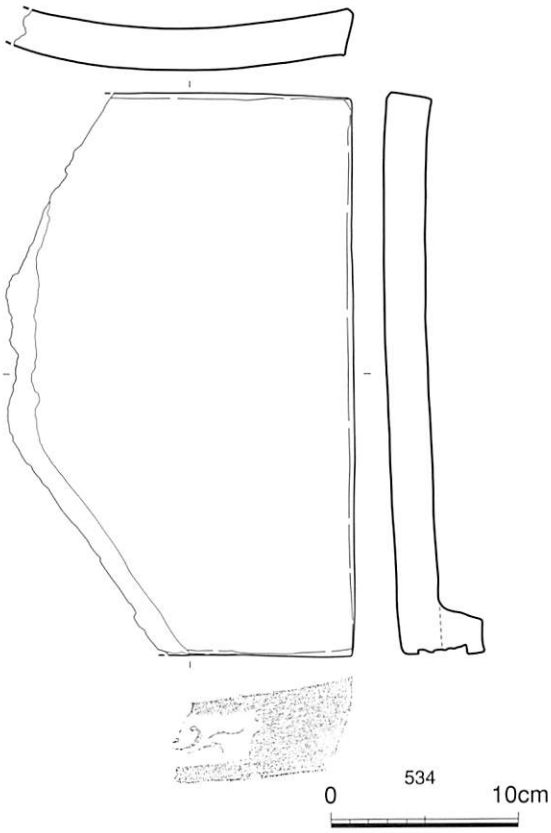
第90図　066・067遺物実測図（1/3）



第91図　S061・066・067遺物実測図（1/4）



第92図　表土遺物実測図①（1/3）



第93図　表土遺物実測図②（1/4）

第4章　まとめ

1節　火災処理土坑について

今回の調査により廃棄土坑、火災処理土坑など多数の土坑が確認された。その中で、S002の火災処理から紀年銘の入った硯が出土した。それには、左側面に「正月吉日　辰之○」、右側面に「享保十三年」、裏面に「堀川町○屋　安部時信」と文字が刻まれてあった。つまり、所有者が購入日とともに氏名を刻んだものと考えられる。この硯の石材は、周防の赤間石である。S002は、埋土が大きく3層に分層でき、最下層は東側から瓦を多量に一括廃棄した状況が確認された。しかも、瓦の大半が2次的比熱を受けて赤色に変色したものが観察できた。こうした状況により、S002は家屋の火災による火災後の廃棄物を処理した土坑であることが判明した。また、瓦や2層目の堆積層に混ざって165点におよぶおびただしい焼き物が出土している。その内訳は、磁器が85点、陶器が36点、半磁半陶が4点、土師質・瓦質が4点である。瓦は、土嚢袋に30袋以上見つかっている。

紀年銘の入った硯が出土したことにより、土坑の廃棄時期がこれよりも遡ることはないことが判明した。また、この火災処理土坑から出土した遺物が、S001とも接合することから同時期に形成されたものであり、大規模な火災後の片付けによるものとも考えられる。なお、S006の土坑からもS001・S002と同一の瓦が出土していることから、火災処理時の土坑と考えられる。埋土には、30～40cm大の石が十数個廃棄されていた。これらの石を観察すると建物の礎石に使用されたものと考えられる。したがって、建物の火災後に礎石も含めて片付けがおこなわれたものと考えられる。

こうした、火災処理土坑が認められることから、府内藩日記に出てくる大火の記録と照合すると、6年後の享保19年(1734)に堀川町で出火した記録[注]が最も近い。この記録によれば町数24、家608にもおよぶ被害が書かれている。その前の記録は、正徳元年(1711)であり、硯の年代よりも古くなる。

このことから、火災処理土坑の年代は、状況的に享保19年(1734)1月14日であった可能性が高いものと考えられる。そうだとすれば、S002、さらにはS001の火災処理土坑の埋没時期は、享保19年(1734)1月14日以降の近い時期に限定するものと言えよう。また、出土した陶磁器は、享保13年(1728)の硯を包括していることからある程度限定された時期として捉えることができよう。

陶磁器の組成は、家屋の火災が発生する享保19年(1734)1月14日までの堀川町に所在する安部時信の屋敷で所有・使用されていた状況を顕著にあらわしている資料として貴重である。この一括遺物の中には、水指・聞香炉・水滴・硯など町人クラスのものとは考えられず、武士クラスの層が想定できるものである。

注：享保19年(1734)1月14日　堀川町松本与七郎土蔵出火、町数24、家608、倉13、死者9(男6・女3)、城内酒井七兵衛屋敷類焼。

元禄7	(1694)	11.1	西町より出火、焼失町数10町、家数232
正徳元	(1711)	3.21	生石村長吉裏出火、焼失188、残家46
享保19	(1734)	1.14	堀川町松本与七郎土蔵出火、町数24、家608、倉13、死人9(男6・女3)、城内酒井七兵衛屋敷類焼
元文元	(1736)	7.22	火元中上市町岩田屋善三郎納屋、7町、家数111(本家89、裏家2、こぼち家2、空家1、納屋8、馬屋9)
寛保3	(1743)	4.7	火元下柳町市兵衛宅、焼失、本丸・天守はじめ城内大半、町42、家数1,079、外土蔵37、死人3、馬1
宝暦6	(1756)	閏11.27	火元後小路町、4町109軒
宝暦9	(1759)	9.29	火元萩原村孫兵衛納屋、4町142軒(内こぼち家4、裏家14)外に納屋8、厩23
明和8	(1771)	2.2	火元下柳町清六、27町、家606、土蔵25、納屋67、馬屋14
安永8	(1779)	1.29	火元下柳町利兵衛、100余軒
天明4	(1784)	12.1	西新町下駄屋平兵衛、家中77(内寺2)、家601、土蔵14、納屋60、馬屋6、堂2、室1
寛政3	(1791)	1.2	古川町与六、3町、家35、納屋1、室1、土蔵13

第3表　「府内藩日記」にみえる大火(100軒以上のもの『大分市史　中巻』より)

2節　出土土師器について

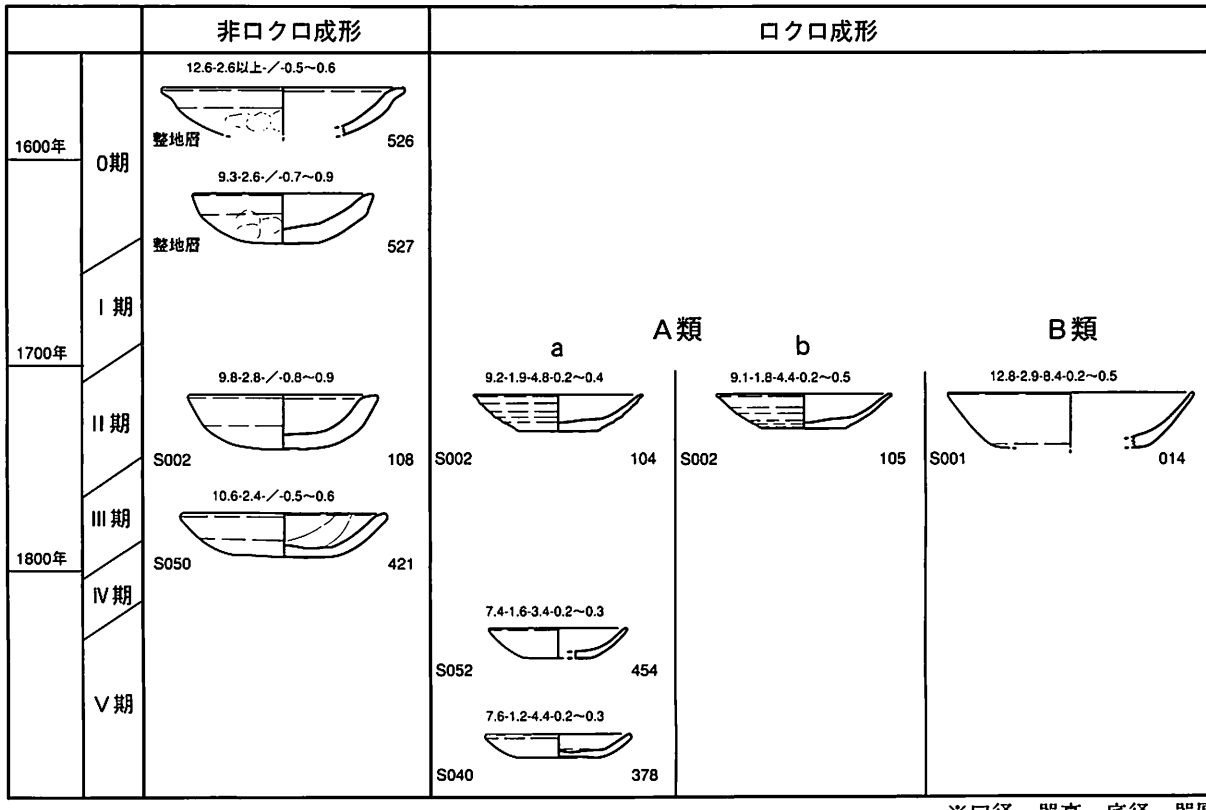
今回の調査において、主要遺構ならびに整地層より非ロクロ成形の土師器とロクロ成形の土師器が数十点出土している。非ロクロ成形土師器は、いわゆる中世に府内町を中心に出土している京都系土師器の系譜と考えられる一群である。この器は、大友氏における「式三献」という儀礼と密接に関わっているものである。その特徴は、口縁部を外反させ、強いヨコナデを施しているのが特徴である。近世における出土事例は多く、府内城・城下町跡を調査すれば少なからず出土していることが分かっている。このため、京都系土師器の系譜が追える土師器が「式三献」の儀礼としての役目を終えた後も、在地土師器としての役割を担ったものと考えられる。

一方のロクロ成形土師器は、全段階の中世より長く作られている在地系の土師器と考えられる。中世の府内においては、16世紀の中頃～後半の一時期に、儀礼によってロクロ成形土師器から京都系土師器に量的に取って代わった時期があるものの、総体的にはロクロ成形土師器が占める。

それでは、これら土師器の出土した遺構において年代の判明できたものについて見ていきたい。

始めに非ロクロ系土師器であるが、16世紀末～17世紀初頭と考えられている整地層から出土したR526の遺物である。法量は、口径12.6cm、器高2.6cm、器壁5～6mmである。口縁部が大きく外反し、横ナデが明瞭に見られる。内側の先端部が工具によってややつまみ上げ状になっている。底部にいくに従い器壁はやや薄くなる。この器は、中世府内町跡や大友氏館跡からも出土しているもので、近世の城下町を形成する以前に製作されたものと考えられる。同じく整地層から出土したR527は、法量が口径9.3cm、器高2.6cm、器壁7～9mmである。器形は、口縁部が短く外反し、横ナデが明瞭である。内面は、平坦で先端部が突出するつまみ上げ状の口縁となっている。器壁は全体的に厚い。この遺物は、府内城・城下町跡8次からも城下町の道路を形成するにあたり地鎮祭祀をおこなった段階で2枚の土師器を合わせ口にして埋納したものと類似している。このため、近世の城下町の形成段階のものと考えられる。

次に享保13年銘の入った硯と共にS002の火災処理土坑から出土したR108は、法量が口径9.8cm、器高2.8cm、器壁8～9mmである。器形は、口縁部があまり外反していないが、横ナデは意識的に施さ



※口径－器高－底径－器厚

第94図　京都系土師器変遷図

れている。内面は、平坦面を形成する。器壁は全体的に厚く、特に口縁部は肥厚化している。

そして、S002を切って作られたS050の土坑から出土したR421とR422である。この2枚は、礎石と思われる石の脇に2枚を合わせ口として埋納されていた。2枚とも同一タイプである。R421は、法量が口径10.6cm、器高2.4cm、器壁5～6mmである。器形は、口縁部が外反しておらず、端部のみ内外に屈曲している。しかしながら横ナデは口縁部に施されている。内面は、やや平坦面を有し、先端部が突出してつまみ上げ状になっている。器壁は、全体的に一定である。

以上から、非ロクロ成形土師器は、時期の変遷の特徴として次の事が言える。

1．口縁部の外反が次第に消滅していく。
2．器の口径が12～13cm大のものから次第に小形化していく。
3．17世紀後半～18世紀前半をピークに器壁が肥大化した後、その後は縮小していく。
4．口縁部内側の平坦面または外反面が狭くなり、先端部のつまみ上げ状が17世紀後半に強調されるが、その後次第に退化していく。

一方のロクロ成形土師器は、18世紀前半代に大きくA類とB類に大別でき、A類はさらに口縁部の端部が尖ったa類と口縁部の端部が外反したb類に細分できる。S002の火災処理土坑からは、非ロクロ成形土師器に混じってA類のロクロ成形土師器が4点出土した。S001の火災処理土坑からは、B類のロクロ成形土師器が出土した。

A類aのR104は、法量が口径9.2cm、器高1.9cm、底径4.8cm、器壁が口縁部で2mm、底部で4mmである。全体に逆「ハ」字状を呈し、見込みもロクロによる横ナデのみである。外面は、工具によるナデによって段が数段見られ稜を有する。底部は、回転糸切り離しが施されている。口縁部の処理は、やや端部を尖らせる。A類bのR105は、法量が口径9.1cm、器高1.8cm、底径4.4cm、器壁が口縁部で2mm、底部で5mmである。全体に逆「ハ」字状を呈し、見込みもロクロによる横ナデのみである。外面は、工具によるナデによって段が数段見られ稜を有する。底部は、回転糸切り離しが施されている。口縁部の処理は、端部を外反させる。

同一時期の廃棄土坑であるS001から出土したR014は、法量が口径12.8cm、器高2.9cm、底径8.4cm、器壁が口縁部で2mm、底部で5mmである。内外面は、ロクロによる横方向のナデが施され、底部には回転糸切り痕が認められる。赤褐色の胎土で焼成は良い。口縁部の処理は直線的である。

18世紀末～19世紀中頃の土坑S052からは、A類aの流れを汲むと思われるR454が出土している。法量は、口径7.4cm、器高1.6cm、底径3.4cmであり、器壁が口縁部で2mm、底部で3mmである。外面は、ナデによって施され、体部はやや丸味をもって立ち上がる。底部は、回転糸切り離しが施されている。口縁部の処理は、やや端部を尖らせている。

19世紀前半～19世紀中頃の土坑S040からは、R378が出土している。法量は、口径7.6cm、器高1.2cm、底径4.4cmであり、器壁が口縁部で2mm、底部で3mmである。底部には回転糸切り痕が認められる。口縁部の処理は、直線的である。

以上から、ロクロ成形土師器は、時期の変遷の特徴として次の事が言える。

1．新しくなるに従い口縁部と底部の比率が近づき、底部が広がり箱形になる。
2．器壁は次第に薄く作られるようになる。
3．外面の段々が次第に無くなる。

今回の調査で出土した土師器により、非ロクロ成形土師器が18世紀前半まで使用されていたことは判明したが、実際にいつ頃まで使用されていたかが今後の問題になろう。また、同時期にロクロ成形土師器の使用も認められるが、双方の使用用途についても今後の課題となろう。

3節　遺構の変遷について

調査をおこなった結果、城下町建設段階に形成された整地層を基盤面として遺構が展開することが判明した。それによって、整地段階を含め近世～近代にかけて10時期に遺構の変遷が見て取れた。城下町形成段階の整地層を剥いだその下層は、灰色の泥炭層が南側に向かって広がっていることが判明し、城下町形成以前は人の生活の場としての使用が確認できなかった。しかしながら、調査中に弥生土器片や奈良時代の土師器を採取することができたために、周辺にはこれらの時期の遺構が展開しているものと考えられる。一方、近代以降は、昭和16年頃の地図によれば、ここには「赤松醤油屋」と「大分味噌」があったことが分かっており、そうした施設が建っていたものと思われる。なお、S016土坑からは、卵から孵った雛鳥が殻を割ったイメージの醤油差しが9点(R165～R173)と磁器の皿が4点(R161～164)が出土している。醤油差しには、外面に「醤油　京徳(商号)臼杵二王座　赤穂屋商店　電話二二四番」と記され、磁器の皿には「醤油　京徳(商号)　大分支店」と記されている。こうした遺物が複数出土したことから、景品等として一般消費者に配布するためのものと思われる。そしてその後、昭和20年7月の太平洋戦争の空襲による焼土層がパックされていた。戦後は、住宅が建っていたようで家の基礎や土管を確認した。そして調査前は、駐車場としてアスファルトが全面に張られていた。

それでは、近世～近代にかけて遺構の切り合いと遺物の年代観により時期を10時期に区分し遺構の変遷を見ていきたい。

0期は、17世紀初頭の城下町形成段階にあたる時期で、遺構としては整地層がこれにあたる。出土遺物は、唐津系の大皿・小皿が出土しており、16世紀末～17世紀初頭の遺物である。

Ⅰ期は、17世紀中頃～17世紀末の時期で、調査区西側に南北に伸びる溝状遺構(S031)、S007・S008・S022などの土坑が見られる。S031は、屋敷の境にあたることが考えられる。また、溝が南側で途切れるのは、その南側に調査区を東西に斜行している堀川町の道路にあたるためと考えられる。

Ⅱ期は、18世紀の前半の享保13年の家屋火災段階の時期で、S001・S002・S006等に見られる廃棄土坑や火災処理土坑が作られているが、これが享保13年の家屋火災後に形成された土坑と考えられるものである。これら土坑の位置が偏っていることから、既存の建物が建っていた場所を避けて作られたと考えられ、家屋は、南側の道路にあったものと推測される。なお、建物の痕跡を示す柱穴や礎石は確認できなかった。

Ⅲ期は、18世紀中頃～18世紀末の時期で、屋敷の火災後に、復興によって形成された遺構となる。S050は、S002の火災処理土坑を埋戻した後に切り込んで形成された土坑であり、土坑内に礎盤として使用されたと考えられる40～50cm大の石が出土しており、火災後に建て替えられた家屋の遺構と考えられる。また、S051は、床面およびそれを囲むように漆喰がまわり、かまど施設とも考えるものである。その周りには、50～60cm大の礎石が配置されている。

Ⅳ期は、19世紀初頭の時期で、S046の廃棄土坑が道路に沿った場所に作られている。

Ⅴ期は、19世紀初頭～中頃の時期で、調査区南側にS040・S052・S054に見られるように廃棄土坑が集中している。その並びが東西方向に伸びていることから、道路に沿った場所に作られたものと考えられる。

Ⅵ期は、19世紀前半～中頃の時期で、S042が東西に長い掘り込みを有することから道路に沿っていたものと思われる。なお、この遺構は、一度掘った後に上面を粘土混じりの土で塞いでいるために、道路側溝の暗渠の役割をしていたものとも考えられる。あるいは、道路脇の地盤改良による作為も考えられる。

Ⅶ期は、19世紀中頃の時期で、道路に沿って掘られたS042を切るようにS032・S033・S034などの廃棄土坑が掘り込まれている。いずれも、陶磁器が多量に出土する。この段階で、道路幅が減少した可能性も指摘できる。

Ⅷ期は、19世紀後半～末の時期で、調査区南側にあるS012の溝状遺構である。東西方向に伸びており、道路に沿った遺構であることは明確である。S012は、土層観察により数回の掘り返しが認められ

る。もっとも北側には、下水用の土管を埋設するために付設した基礎のコンクリートが等間隔に並んで確認された。

Ⅸ期は、19世紀末～20世紀初頭の時期で、S012の溝状遺構と平行して北側に掘削している。

Ⅹ期は、20世前半の時期であり、醤油の景品と思われる醤油差しと小皿が出土したS046である。前述したように、昭和16年頃の地図によって、この場所に「赤松醤油屋」があったことからこうした関連した遺構や遺物を伴っている。

以上、城下町形成段階に整地をおこなってから、南側には連面と東西方向に延びていた道路があり、その北側の屋敷地における状況が展開していったものと思われる。

	16世紀		17世紀					18世紀					19世紀					20世紀		時期区分
	後半	末期	初頭	前半	中頃	後半	末期	初頭	前半	中頃	後半	末期	初頭	前半	中頃	後半	末期	初頭	前半	
整地層																				0期
S009																				Ⅰ期
S007																				Ⅰ期
S008																				Ⅰ期
S022																				Ⅰ期
S031																				Ⅰ期
S066																				Ⅰ期
S001																				Ⅱ期
S002																				Ⅱ期
S006																				Ⅱ期
S025																				Ⅱ期
S049																				Ⅱ期
S015																				Ⅲ期
S050																				Ⅲ期
S045																				Ⅲ期
S051																				Ⅲ期
S067																				Ⅲ期
S055																				Ⅲ期
S046																				Ⅳ期
S023																				Ⅳ期
S052																				Ⅴ期
S054																				Ⅴ期
S040																				Ⅴ期
S042																				Ⅵ期
S039																				Ⅶ期
S032																				Ⅶ期
S033																				Ⅶ期
S034																				Ⅶ期
S012																				Ⅷ期
S011																				Ⅸ期
S016																				Ⅹ期

遺物の年代幅　　遺構の最終埋没年代

第4表　遺構変遷表

4節　遺物の組成について

本地点において、城下町形成段階の整地層を0期と設定し、S002の紀年名の入った硯の廃棄土坑を定点として、さらに接合遺物による同一時期の遺構の検証、その後の遺構の切り合い関係により、近世段階を10時期に区分した。遺物については、主要な遺構を取り上げて検証した。

0期は、整地層より出土した唐津系の大皿・碗・小皿により16世紀末～17世紀初頭とされるものである。

Ⅰ期は、肥前産の見込み蛇の目釉剥を施した染付小皿、唐津系の碗・小皿により17世紀中頃～17世紀末とされるものである。

Ⅱ期は、享保13年(1728)紀年名の入った硯の廃棄土坑の一括遺物と接合関係にあるS001が享保19年(1734)の大火による火災処理土坑の形成時期にあたる。遺物は、磁器が全体の55%、陶器が23%を占める。また、かわらけとも呼ばれる土師器の皿が全時期の中で最も多い。陶器の産地を見ると唐津系が43%、信楽・京都が39%と続く。唐津系では1690～1740年代の京焼風の小皿が目を引く。また、信楽の水指が出土している。磁器は、大半が肥前産であり、1680～1700年代の高台内に「大明」銘の染付碗・小坏のものや、1680～1740年代の見込み蛇の目釉剥の施された染付小皿が多い。

Ⅲ期～Ⅳ期は、享保19年(1734)の大火後の復興以降の廃棄土坑などである。遺物は、磁器が44%、陶器が32%とほぼ互角の出土量となっている。陶器の産地を見ると唐津系が29%、丹波産が29%、信楽・京都が21%、関西系が14%となっている。唐津系や丹波は摺鉢が出土している。磁器は、肥前が大半であり、見込みにコンニャク印判や手書きの五弁花文を有する碗が見られ、1700～1740年代のものである。

Ⅴ期は、道路に沿った土坑の一括廃棄遺物にあたる。遺物は、磁器が59%、陶器が20%と磁器が占める割合が大きい。肥前の磁器が大半であり、1780～1810年代の筒形碗などに混じって、1700～1750年代のくらわんか碗、見込み蛇の目釉剥のある染付碗が見られる。また、この時期より紅皿や紅猪口が出現する。陶器の産地を見ると唐津系と関西系と丹波がそれぞれ17%、信楽・京都50%である。信楽・京都産が非常に多く端反碗、小杉碗などが含まれる。また、陶器・土師質のままごと道具が含まれるようになる。

Ⅵ期は、Ⅴ期と同一で道路に沿った場所に溝状遺構が掘削される段階である。遺物は、磁器が45%、陶器が39%、土師質・瓦質が10%の比率である。磁器は、肥前産が占めており1780～1860年代の染付碗などが見られる。また、紅皿・紅猪口も数点出土する。陶器は出土点数が少なく、京都・信楽の小杉碗が見られる。

Ⅶ期は、溝状遺構を切るように掘削された廃棄土坑である。遺物は、磁器が58%、陶器29%、土師質・瓦質9%の比率である。磁器は、1780～1810年代の広東碗や見込みにコンニャク印判もしくは手書きによる五弁花の小碗と筒形碗が見られる。また、1810～1860年代の蛇の目形高台の小皿も見られる。なお、紅皿・紅猪口においては全時期の中で最も出土点数が多い。陶器の産地を見ると唐津系が30%、信楽・京都が30%、関西系が19%、萩が14%となっている。信楽では小杉碗の比率が多く、萩も碗となっている。また、摺鉢の出土量も多く、比率的には唐津系が多く占め、上野・高取系と丹波がこれに続く。

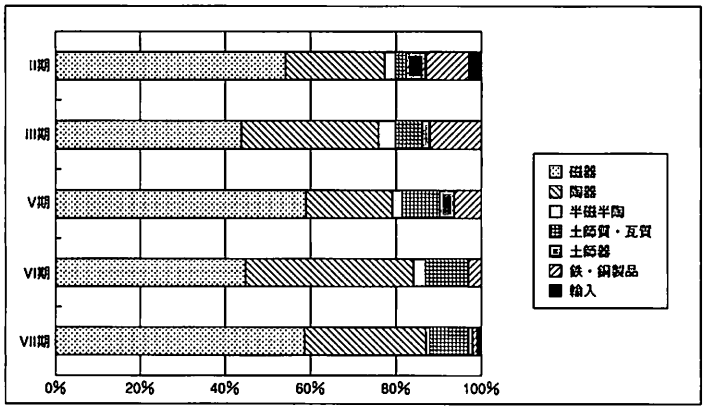
Ⅹ期は、S016のみであり、遺構からは肥前産の極小皿と容器が出土している。これらの遺物には、醤油の販売店の印刷が見られ、昭和16年頃の地図に記載された「赤松醤油屋」で使用された物に該当する。

以上、全時期を通じて、磁器が占める割合は過半数を越え、肥前産が主体を成しているものであるが、陶器は、およそ2～3割を占め、唐津系が3～4割、信楽・京都も3～4割と同じような割合を占めている。また、瀬戸・美濃産や丹波産のものは幕末にいくに従い減少している。また、かわらけとも呼ばれる土師器の使用頻度も幕末にいくに従い減少している。一方、ままごと道具や紅皿・紅猪口が18世紀後半以降に見られるようになる。

特にⅡ期においては、信楽の水指、肥前産の聞香炉等、組成においても非常に高級品に位置付けられる陶磁器を多く含んでいる。さらに、「安部時信」姓と共に家紋？花押？が刻まれた硯が共伴していることから、この段階では府内藩における武士階層と考えられ、礎石建物の存在や瓦葺き建物などの状況により武家屋敷に該当するものと考えられる。このⅡ期の段階は、火災処理による一括資料であり、硯の年代とその後の火災の年号により、非常に限定した時期における武家屋敷の食器の組成を表しており陶磁器編年の一指標と成り得る貴重な資料である。

	磁器	陶器	半磁半陶	土師質・瓦質	土師器	鉄・銅製品	輸入	計
Ⅱ期	128 55%	53 23%	6 2.5%	4 2%	11 5%	24 10%	6 2.5%	232点 100%
Ⅲ期	42 44%	30 32%	4 4%	6 6%	2 2%	11 12%	0 0%	95点 100%
Ⅴ期	48 59%	16 20%	2 2%	7 9%	3 4%	5 6%	0 0%	81点 100%
Ⅵ期	14 45%	12 39%	1 3%	3 10%	0 0%	1 3%	0 0%	31点 100%
Ⅶ期	182 58%	93 29%	4 1%	30 9%	1 1%	3 1%	2 1%	315点 100%

第５表　時期別陶磁器の組成表



第６表　時期別陶磁器の組成グラフ

	擂鉢	土師器	ままごと道具	紅猪口・紅皿
Ⅱ期	3 12%	11 65%	0 0 %	0 0 %
Ⅲ期	8 32%	2 12%	0 0 %	2 5 %
Ⅴ期	1 4 %	3 18%	4 67%	8 21%
Ⅵ期	0 0 %	0 0 %	0 0 %	2 5 %
Ⅶ期	13 52%	1 6 %	2 33%	26 68%

第７表　時期別特定遺物数量表

	唐津系	信楽・京都	関西系	瀬戸・美濃産	萩	上野・高取系	丹波(堺産)	計
Ⅱ期	10 43%	9 39%	1 4 %	1 4 %	0 0 %	0 0 %	2 9 %	23点 100%
Ⅲ期	4 29%	3 21%	2 14%	1 7 %	0 0 %	0 0 %	4 29%	14点 100%
Ⅴ期	1 17%	3 50%	1 17%	0 0 %	0 0 %	1 17%	0 0 %	6 点 100%
Ⅵ期	0 0 %	2 100%	0 0 %	0 0 %	0 0 %	0 0 %	0 0 %	2 点 100%
Ⅶ期	17 30%	17 30%	11 19%	0 0 %	8 14%	2 4 %	2 4 %	57点 100%

第８表　時期別陶器の産地数量表

	唐津系						信楽・京都					関西系				瀬戸・美濃産			萩		上野・高取系	丹波(堺産)	計
	碗	皿	擂鉢	土瓶	甕	その他	碗	皿	水差	ままごと道具	その他	碗	皿	土瓶	その他	碗	壺	その他	碗	その他	擂鉢	擂鉢	
S001	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
S002	1	7	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	17
S025	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
S015	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	8
S055	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
S052	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6
S042	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
S032	0	2	4	2	0	2	9	0	0	0	3	2	1	1	0	0	0	0	2	1	2	2	33
S033	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	11
S034	0	0	2	0	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2	0	0	0	13
計	1	9	8	2	3	9	24	1	4	1	4	7	3	2	3	1	1	0	7	1	3	8	102

第９表　遺構別陶器の産地別組成表

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R001	10	磁器	染付	筒形碗	S001	染付透明	外：菊花文	(6.7)	5.3	(3.4)	ロクロ			肥前産	
R002	10	磁器	染付	極小皿	S001	染付透明	外：唐草文／内：草花文	(10.3)	－	－	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	高台内に「大明成化年製」銘
R003	10	磁器	－	小皿	S001	灰釉	－	(12.8)	3.5	5.2	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R004	10	磁器	－	坏	S001	透明釉	－	6.0	2.7	2.6	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R005	－	磁器	－	坏	S001	透明釉	－	(6.0)	2.5	2.6	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R006	－	磁器	－	坏	S001	透明釉	－	6.0	2.6	2.5	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R007	10	磁器	染付	瓶	S001	染付透明／鉄釉	外：笹文	－	－	5.0	ロクロ	1700～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R008	－	磁器	染付	瓶	S001	染付透明	外：草花文	－	－	－	ロクロ	1690～1750年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	
R009	10	陶器	－	碗	S001	灰釉	－	－	－	(4.4)	ロクロ			信楽産	
R010	12	陶器	－	水指	S001	－	－	－	－	(15.4)	ロクロ			信楽産	
R011	10	陶器	素三彩	香炉	S001	外：緑釉	－	(9.6)	－	－	ロクロ		17世紀前	中国産	
R012	12	陶器	－	水指	S001	－	－	(11.4)	－	－	ロクロ			信楽産	R013と同一個体
R013	12	陶器	－	水指	S001	－	－	－	－	(14.4)	ロクロ			信楽産	大粒の石英を多く含む、R012と同一個体
R014	10	土師器	糸切り	小皿	S001	－	－	(12.8)	－	－	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R015	－	銅製品	－	銅銭	S001	－	－	2.4	－	－	－				「寛永通宝」
R016	－	銅製品	－	銅銭	S001	－	－	2.4	－	－	－				「寛永通宝」
R017	－	銅製品	－	銅銭	S001	－	－	2.4	－	－	－				「寛永通宝」
R018	－	銅製品	－	銅銭	S001	－	－	2.4	－	－	－				「寛永通宝」
R019	－	銅製品	－	銅銭	S001	－	－	2.3	－	－	－				「寛永通宝」
R020	11	瓦	－	軒平瓦	S001	－	均整唐草	－	－	－	－				吉田分類「G群古段階」より古相
R021	11	瓦	－	軒平瓦	S001	－	均整唐草	－	－	－	－				吉田分類「G群古段階」より古相
R022	11	瓦	－	軒丸瓦	S001	－	巴	15.4	－	－	－				珠文数は13個、瓦当径15.2cm
R023	14	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：人物	11.3	4.9	4.6	ロクロ		17世紀後	中国産	高台に離れ砂、小野分類「染付碗F群」
R024	－	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：人物	11.2	5.2	4.5	ロクロ		17世紀後	中国産	高台に離れ砂、小野分類「染付碗F群」
R025	－	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：人物	11.6	5.0	4.8	ロクロ		17世紀後	中国産	高台に離れ砂、小野分類「染付碗F群」
R026	－	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：人物	11.2	5.2	4.7	ロクロ		17世紀後	中国産	高台に離れ砂、小野分類「染付碗F群」
R027	14	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：？／内：？	(9.8)	5.5	4.4	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	高台内に「二重角福」銘
R028	14	磁器	－	碗	S002	透明釉	－	(10.0)	5.5	4.0	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R029	－	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：草花文	10.8	5.5	4.3	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	高台内に「大明」銘

第10表　遺物観察表①

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R030	14	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：草花文	11.0	5.5	4.4	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	高台内に「大明」銘
R031	－	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：草花文	(10.8)	6.3	4.0	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	
R032	14	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：草花文	9.8	5.7	(3.8)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R033	14	磁器	染付	碗	S002	染付透明	外：氷裂地	10.2	5.5	3.9	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R034	14	磁器	青磁	筒形碗	S002	青磁	－	(9.0)	7.5	6.2	ロクロ			肥前産	見込みに文字有り
R035	14	磁器	－	小碗	S002	灰釉	－	(7.4)	－	－	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R036	－	磁器	染付	小碗	S002	染付透明	外：雨降文	(8.0)	4.6	3.5	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R037	14	磁器	染付	小碗	S002	染付透明	外：？	(8.0)	－	－	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R038	14	磁器	染付	小坏	S002	染付透明	外：？	7.0	3.9	3.3	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R039	14	磁器	染付	小坏	S002	染付透明	外：菊花文	7.0	5.2	4.0	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	高台内に「冨貴長春」銘
R040	14	磁器	染付	小坏	S002	染付透明	外：網目文	6.5	4.5	2.9	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	高台内に「大明」銘
R041	－	磁器	染付	小坏	S002	染付透明	外：網目文	6.2	4.4	(2.8)	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	
R042	－	磁器	染付	小坏	S002	染付透明	外：網目文	6.2	4.4	2.5	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	高台内に「大明」銘
R043	14	磁器	－	小坏	S002	透明釉	－	6.0	2.5	2.6	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R044	－	磁器	－	小坏	S002	透明釉	－	6.0	2.6	2.6	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R045	－	磁器	－	小坏	S002	透明釉	－	5.9	2.5	(2.6)	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R046	－	磁器	－	小坏	S002	透明釉	－	5.8	2.5	2.6	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R047	－	磁器	－	小坏	S002	透明釉	－	5.9	2.6	2.6	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R048	－	磁器	－	碗	S002	染付透明	外：草花文	(5.0)	5.4	3.8	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R049	10	磁器	染付	小皿	S001	染付透明	？	－	－	(4.0)	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	
R050	14	磁器	染付	極小皿	S002	染付透明	外：唐草文／内：馬・瓢箪	(10.6)	2.5	6.4	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	
R051	14	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：山水文	11.8	3.0	6.3	ロクロ		17世紀前	中国産	高台に離れ砂、小野分類「染付皿Ｂ１群」
R052	14	磁器	染付	極小皿	S002	染付透明	内外：唐草文	10.8	2.5	6.4	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	三角高台
R053	15	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	外：唐草文／内：四角	(14.0)	3.2	(8.8)	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	三角高台
R054	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	外：唐草文／内：四角	(13.6)	3.1	(9.4)	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	三角高台
R055	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	外：唐草文／内：四角	(14.0)	3.1	(9.0)	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	三角高台
R056	15	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	外：唐草文／内：鳳凰文	13.9	4.0	7.8	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	高台内に「二瓜角福」銘、見込みに手書きの五弁花文
R057	15	磁器	染付	中皿	S002	染付透明	外：唐草文／内：山水文	(21.0)	4.2	(12.0)	ロクロ	1690～1720年代	17世紀末～18世紀前	肥前産	
R058	15	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.5	4.0	4.5	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R059	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.1	4.1	4.4	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥

第11表　遺物観察表②

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R060	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.1	3.7	4.2	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R061	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.3	3.8	4.4	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R062	15	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.4	4.1	4.2	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R063	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.3	3.9	4.3	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R064	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.0	3.6	4.3	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R065	－	磁器	染付	小皿	S002	染付透明	内：流水文	12.2	3.9	4.2	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀前	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R066	14	磁器	染付	蓋	S002	染付透明	外：？	9.6	2.8	3.5	ロクロ	1730～1740年代	18世紀前～18世紀中	肥前産	高台内に「大明年製」
R067	－	磁器	染付	蓋	S002	染付透明	外：扇子・鞠	(9.0)	2.1	－	ロクロ			肥前産	最大径（10.2）cm
R068	－	磁器	青磁	聞香炉	S002	青磁	－	7.4	－	－	ロクロ	1690～1740年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	
R069	15	磁器	青磁	聞香炉	S002	青磁	－	6.3	6.6	3.6	ロクロ	1690～1740年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	三足付き
R070	15	磁器	青磁	聞香炉	S002	青磁	－	6.3	4.7	3.5	ロクロ	1690～1740年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	三足付き
R071	15	磁器	青磁	聞香炉	S002	青磁	－	7.1	5.1	3.7	ロクロ	1690～1740年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	高台は土見せ（露胎）
R072	15	磁器	青磁	花器	S002	青磁	－	－	－	6.4	ロクロ			肥前産	
R073	16	磁器	染付	花生	S002	染付透明	外：蛸唐草文	2.1	14.95	4.7	ロクロ	1690～1750年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	
R074	16	磁器	染付	花生	S002	染付透明	外：草文	2.8	12.1	4.0	ロクロ	1690～1750年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	
R075	16	磁器	染付	油壺	S002	染付透明	外：葡萄蔓文	3.3	－	－	ロクロ	1690～1750年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	
R076	16	磁器	染付	瓶	S002	染付透明	外：菊花文	(4.8)	19.3	6.1	ロクロ	1690～1740年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	
R077	16	磁器	青磁	瓶	S002	青磁	陽刻蓮弁文	－	－	7.9	ロクロ			肥前産	肩部に蓮弁文（陽刻）
R078	16	磁器	染付	鬢水入れ	S002	外：染付透明／鉄釉	外：葉文	－	3.5	－	ロクロ			肥前産	最大幅6.8cm
R079	15	磁器	白磁	灯芯押	S002	白磁／顔は鉄釉	－	－	4.9	－	手捻り			肥前産	底部から背中にかけて穿孔
R080	16	磁器	染付	水滴	S002	染付透明	外：花・犬？（陽刻）	10.1	6.6	6.4	型押			肥前産	
R081	16	陶器	－	碗	S002	灰釉	外：菊	9.4	5.7	3.0	ロクロ			京都・信楽	
R082	17	陶器	刷毛目	小皿	S002	鉄釉	外：巻刷毛目文／内：打刷毛目文	10.8	4.6	4.2	ロクロ	1690～1740年代	17世紀末～18世紀中	唐津系	高台に離れ砂、見込み蛇の目釉剥
R083	16	陶器	京焼風	碗	S002	灰釉	外：山水文	9.2	5.7	4.8	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	高台は土見せ（露胎）
R084	16	陶器	京焼風	小皿	S002	灰釉	内：山水文	13.4	5.3	5.2	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	高台は土見せ（露胎）、見込み三足ハマ跡
R085	16	陶器	京焼風	小皿	S002	灰釉	内：山水文	11.5	4.6	4.6	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	高台は土見せ（露胎）
R086	－	陶器	京焼風	小皿	S002	灰釉	内：山水文	12.4	4.7	4.6	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	高台は土見せ（露胎）、見込み三足ハマ跡
R087	－	陶器	京焼風	小皿	S002	灰釉	内：山水文	11.7	4.4	4.7	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	高台は土見せ（露胎）
R088	－	陶器	京焼風	小皿	S002	灰釉	内：山水文	(12.4)	4.6	4.9	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	高台は土見せ（露胎）
R089	18	陶器	刷毛目	鉢	S002	鉄釉	内：白化粧の刷毛目	37.6	12.9	13.2	ロクロ	1690～1750年代	17世紀末～18世紀中	唐津系	白土を波状に装飾する刷毛目

第12表　遺物観察表③

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R090	16	陶器	京焼	小皿	S002	灰釉	内：菊	(12.0)	4.3	(3.8)	ロクロ			京都・信楽	高台は土見せ(露胎)
R091	17	陶器	－	小皿	S002	銅緑釉	－	13.6	3.6	4.7	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	見込み蛇の目釉剥
R092	16	半磁半陶	染付	鉢	S002	染付	内：蔓花文	(20.8)	10.2	(8.2)	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	唐津系	
R093	17	陶器	－	鉢	S002	－	－	(18.4)	7.1	(9.2)	ロクロ				内外面にミガキ、焼締陶器
R094	17	陶器	－	油徳利	S002	鉄釉	－	1.5	12.9	5.1	ロクロ			京都・信楽	
R095	17	陶器	－	蓋	S002	外：灰釉	－	(12.2)	(2.6)	－	ロクロ			関西系	
R096	18	陶器	－	擂鉢	S002	－	－	19.0	7.5	10.4	ロクロ			堺産	クシ目８条単位
R097	18	陶器	－	水指	S002	－	－	19.6	16.1	18.0	ロクロ			信楽産	
R098	18	陶器	－	壺	S002	外：鉄釉	－	(8.8)	－	10.0	ロクロ			瀬戸・美濃	
R099	18	陶器	－	甕	S002	－	－	(26.6)	－	－	ロクロ		17世紀後	唐津系	
R100	16	半磁半陶	染付	碗	S002	染付	外：山水文	(10.4)	7.3	(5.1)	ロクロ		18世紀前	肥前産	
R101	16	半磁半陶	染付	碗	S002	染付	外：蔓草文	(10.0)	7.1	(4.4)	ロクロ	1750年代	18世紀中	肥前産	
R102	19	土師質	－	焙烙	S002	－	－	(31.6)	－	－	ロクロ				
R103	19	土師質	－	焙烙の蓋	S002	－	－	(20.2)	3.1	－	ロクロ				天井径（19.2cm）
R104	17	土師器	糸切り	小皿	S002	－	－	(9.2)	1.9	(4.8)	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R105	17	土師器	糸切り	小皿	S002	－	－	(9.1)	1.8	(4.4)	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R106	17	土師器	糸切り	小皿	S002	－	－	(9.8)	2.0	5.0	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R107	17	土師器	糸切り	小皿	S002	－	－	(9.8)	1.7	(5.2)	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R108	17	土師器	京都系	小皿	S002	－	－	(9.8)	2.8	－	手捏ね			在地産	非ロクロ成形
R109	19	瓦	－	軒丸瓦	S002	－	巴	－	－	－	－				珠文数は14個残存、瓦当径14.8cm
R110	19	瓦	－	平瓦	S002	－	－	－	－	－	－				「細和」刻印
R111	19	瓦	－	軒平瓦	S002	－	均整唐草文	－	－	－	－		17世紀初～17世紀前		吉田分類「D-1群」
R112	17	石製品	－	硯	S002	－	－	長19.8	高2.5	幅7.6	－		18世紀前	赤間石産	側面に年号、背面に所有者が刻まれる
R113	－	銅製品	－	銅銭	S002	－	－	2.5	－	－	－		17世紀前～17世紀末		古寛永「寛永通宝」
R114	－	銅製品	－	銅銭	S002	－	－	2.3	－	－	－		17世紀末～18世紀前		新寛永「寛永通宝」
R115	－	銅製品	－	銅銭	S002	－	－	2.4	－	－	－		17世紀末～18世紀前		新寛永「寛永通宝」
R116	－	銅製品	－	銅銭	S002	－	－	2.4	－	－	－		17世紀前～17世紀末		古寛永「寛永通宝」
R117	－	銅製品	－	銅銭	S002	－	－	2.3	－	－	－		17世紀前～17世紀末		古寛永「寛永通宝」
R118	17	青銅製品	－	小柄	S002	－	表：笹・虎（陽刻）	－	－	－	－				幅1.5cm、厚さ0.5cm
R119	－	金属製品	－	雁首	S002	－	－	－	－	－	－		18世紀前		長さ（5.9）cm、古泉弘分類「Ⅲ類」

第13表　遺物観察表④

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R120	－	金属製品	－	吸口	S002	－	－	－	－	－	－				長さ（5.7）cm、古泉弘分類「Ⅳ類」
R121	－	金属製品	－	吸口	S002	－	－	－	－	－	－				長さ（4.3）cm、古泉弘分類「Ⅳ類」
R122	21	磁器	染付	蓋	S006	染付透明	外：蜻蛉文	9.7	2.6	4.6	ロクロ	1700～1730年代	18世紀初～18世紀前		
R123	21	陶器	－	小皿	S006	灰釉	－	(11.6)	－	－	ロクロ	1650～1690年代	17世紀中～17世紀末	唐津系	見込み胎土目痕
R124	22	瓦	－	軒平瓦	S006	－	－	－	－	－	－				吉田分類「G群古段階」と類似
R125	22	瓦	－	軒平瓦	S006	－	－	－	－	－	－				吉田分類「G群古段階」と類似
R126	24	磁器	染付	小皿	S007	染付透明	内：星形	(13.8)	－	－	ロクロ				型紙ずり
R127	24	陶器	鉄釉流し掛け灰釉	碗	S007	外：藁白釉 内：鉄釉流し掛け	－	(11.8)	－	－	ロクロ			萩焼	
R128	－	陶器		碗？	S007	外：藁白釉 内：鉄釉流し掛け	－	(11.2)	－	－	ロクロ			萩焼	
R129	24	陶器	溝縁	小皿	S007	鉄釉	－	(13.6)	2.7	(6.0)	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	見込み・高台に胎土目痕
R130	25	磁器	染付	小皿	S008	染付透明	内：唐草文	(14.0)	(2.9)	(7.6)	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R131	25	陶器	－	碗	S008	外：灰釉 内：鉄釉	－	10.9	7.4	4.9	ロクロ	1650～1690年代	17世紀中～17世紀末	唐津系	高台は土見せ（露胎）
R132	82	陶器	－	小碗	S009	内：灰釉	－	(9.0)	4.3	(3.8)	ロクロ	1610～1650年代	17世紀初～17世紀中	唐津系	糸切り底
R133	－	陶器		小碗	S011	灰釉		－	－	3.7	ロクロ	1850年～	19世紀中～	信楽産	
R134	－	瓦質		植木鉢	S011	－	外：櫛書き波状文	(15.0)	11.3	7.8	ロクロ		19世紀代		三足、焼成後底部穿孔
R135	－	瓦質		植木鉢	S011	－	－	－	－	8.7	ロクロ		19世紀代		三足、焼成前底部穿孔
R136	84	陶器	－	植木鉢	S011	鉄釉	－	14.9	12.1	9.5	ロクロ		19世紀代		三足、焼成後底部穿孔
R137	85	磁器	染付	碗	S012	染付透明	外：草花文／内：一重圏線	－	－	6.0	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初		高台に朱文字、広東碗
R138	85	磁器	染付	小坏	S012	染付透明	外：輪法繋文／内：輪法繋文	(8.6)	3.7	3.7	ロクロ			中国産	見込みに「寿」銘、清朝
R139	85	磁器	－	戸車	S012	透明釉	－	－	1.4	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	外 径6.0cm、内 径2.2cm
R140	－	磁器	－	戸車	S012	透明釉	－	－	1.3	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	外 径6.0cm、内 径1.7cm
R141	－	磁器	－	戸車	S012	透明釉	－	－	1.3	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	外 径4.9cm、内 径1.4cm
R142	85	陶器	鉄絵	小皿	S012	藁灰釉	内：草文	12.4	4.1	4.4	ロクロ	1590～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	
R143	27	磁器	染付	碗	S015	染付透明	外：？	－	－	(5.5)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文
R144	27	磁器	染付	碗	S015	染付透明	外：菊花文	9.8	5.5	4.2	ロクロ	1690～1740年代	17世紀末～18世紀中	肥前産	高台内に「二重渦福」銘
R145	27	磁器	染付	小碗	S015	染付透明	外：花文	8.8	4.1	3.2	ロクロ	1710～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R146	27	磁器	染付	碗	S015	染付透明	外：？	(10.6)	4.8	(3.8)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R147	27	磁器	染付	碗	S015	染付透明	外：草花文	(12.4)	－	－	ロクロ	1700～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R148	27	磁器	青磁／染付	碗	S015	外：青磁 内：染付透明	内：五弁花文	10.2	6.1	4.6	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	見込みに手書きの五弁花文
R149	27	半磁半陶	染付	碗	S015	染付	外：山水文	(10.4)	6.6	(4.4)	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R150	27	磁器	染付	鉢	S015	染付透明	外：口縁部に圏線／内：網目	(19.0)	－	－	ロクロ	1700～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R151	27	陶器	－	碗	S015	鉄釉	－	(10.6)	－	－	ロクロ		18世紀中	瀬戸・美濃	腰折碗
R152	27	陶器	－	碗	S015	灰釉	内：見込みに梅文？	(11.2)	4.6	3.5	ロクロ			関西系	
R153	27	磁器	色絵	碗	S015	透明釉・色絵	外：花文	(9.8)	－	－	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R154	－	陶器		碗	S015	灰釉	外：笹文	(9.6)	－	－	ロクロ		18世紀中	京都・信楽	
R155	28	陶器	刷毛目	鉢	S015	鉄釉	白化粧の刷毛目	(30.0)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R156	28	陶器	－	擂鉢	S015	鉄釉	－	(31.4)	12.8	(12.2)	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	クシ目10条単位
R157	28	陶器	－	擂鉢	S015	－	－	(36.0)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	堺産	
R158	28	陶器	－	擂鉢	S015	－	－	(36.7)	－	－	ロクロ			堺産	クシ目８条単位
R159	28	陶器	－	甕	S015	鉄釉	－	(18.8)	－	－	ロクロ		18世紀代	唐津系	
R160	28	土師質	－	焙烙	S015	－	－	(31.6)	－	－	ロクロ				
R161	－	磁器	－	極小皿	S016	透明釉	内：籠・菊花文	11.8	2.5	6.1	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	外面に「醤油　大分支店」銘
R162	－	磁器	－	極小皿	S016	透明釉	内：籠・菊花文	11.8	2.5	6.0	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	外面に「醤油　大分支店」銘
R163	－	磁器	－	極小皿	S016	透明釉	内：籠・菊花文	11.8	2.4	6.0	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	外面に「醤油　大分支店」銘
R164	－	磁器	－	極小皿	S016	透明釉	内：籠・菊花文	11.8	2.5	6.0	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	外面に「醤油　大分支店」銘
R165	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	9.0	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R166	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.9	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R167	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.9	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R168	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.8	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R169	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.8	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R170	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.8	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R171	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.8	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R172	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.8	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R173	－	磁器	－	容器	S016	透明釉	形状は雛鳥	－	8.8	4.8	ロクロ		19世紀末～20世紀初	肥前産	最大径7.6cm、外面に商店銘あり
R174	30	陶器	刷毛目	鉢	S016	鉄釉	白化粧の刷毛目	(34.8)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R175	30	瓦	－	平瓦	S016	－	－	－	－	－	－				刻印「細瓦」
R176	31	陶器	－	碗	S019	灰釉	－	(13.6)	－	－	ロクロ			京都・信楽	
R177	89	磁器	染付	碗	S021	染付透明	内：見込みに花文	－	－	(4.8)	ロクロ			肥前産	
R178	33	磁器	染付	小皿	S022	染付透明	外：唐草文／内：草花文	13.8	4.0	8.1	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文
R179	33	陶器	－	碗	S022	灰釉	－	(9.2)	－	－	ロクロ			唐津系	

第15表　遺物観察表⑥

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R180	34	陶器	－	甕	S022	鉄釉	－	(25.4)	－	－	ロクロ		17世紀後	唐津系	
R181	83	磁器	染付	そば猪口	S023	染付透明	外：梵字／内：口縁部に四方襷	(7.8)	－	－	ロクロ	1780～1820年代	18世紀後～19世紀前	肥前産	
R182	36	磁器	白磁	碗	S025	白磁	－	12.2	6.0	4.8	ロクロ			肥前産	見込み蛇の目釉剥
R183	36	磁器	染付	碗	S025	染付透明	外：梅花文	(9.6)	5.7	4.6	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	高台内に銘有り
R184	36	磁器	染付	小皿	S025	染付透明	外：唐草文／内：折枝梅文	(12.8)	3.3	(7.2)	ロクロ	1680～1710年代	17世紀後～18世紀初	肥前産	
R185	36	磁器	青磁	小皿	S025	青磁	内：蝶文	(14.2)	2.7	(6.4)	ロクロ	1630～1650年代	17世紀前～17世紀中	肥前産	
R186	36	磁器	染付	鉢	S025	染付透明	外：花文	(12.4)	－	－	ロクロ			肥前産	
R187	36	陶器	京焼	碗	S025	灰釉	外：花文？	(10.2)	－	－	ロクロ			京都・信楽	
R188	37	陶器	－	擂鉢	S025	－	－	(39.4)	－	－	ロクロ		18世紀代	堺産	クシ目９条単位
R189	36	半磁半陶	染付	碗	S025	染付	外：唐草文	(11.0)	－	－	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	
R190	89	土師器	－	小皿	S027	－	－	(18.0)	－	－	ロクロ				ロクロ成形
R191	86	陶器	－	小皿	S031	灰釉	－	(10.2)	－	－	ロクロ	1650～1690年代	17世紀中～17世紀末	唐津系	
R192	40	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：矢羽根文／見込み：「寿」銘	(11.4)	6.4	(6.0)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	高台内に朱文字、焼継、広東碗
R193	40	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：山水文／見込み：岩波文	(11.4)	6.2	(6.2)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	広東碗
R194	40	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：笹／内：二重圏線	(12.4)	6.5	(6.8)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	広東碗
R195	40	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：笹文	(11.6)	6.1	5.7	ロクロ	1810年頃	19世紀初	肥前産	広東碗、見込み三足ハマ跡
R196	40	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：山水文	11.4	6.3	5.8	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	広東碗、見込み三足ハマ跡
R197	39	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：草花文	(11.0)	5.7	(4.2)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	くらわんか碗
R198	39	磁器	白磁	碗	S032	白磁	－	(10.7)	6.6	(3.95)	ロクロ	1760～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R199	42	磁器	－	碗	S032	透明釉	－	(10.2)	4.5	(3.6)	ロクロ	1760～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R200	40	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：梅花文／見込み：五弁花のコンニャク印判	(8.4)	6.0	(3.6)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R201	40	磁器	染付	碗	S032	染付透明	外：梅花文／見込み：五弁花のコンニャク印判	8.4	5.9	3.5	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R202	41	磁器	染付	紅猪口	S032	染付透明	外：「大坂新町お笹紅」銘	(8.4)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R203	40	磁器	染付	小碗	S032	染付透明	外：草花文／見込み：銘	9.3	4.9	5.2	ロクロ	1810年代	19世紀初	肥前産	小広東碗
R204	39	磁器	染付	小坏	S032	染付透明	外：瓢箪文／見込み：瓢箪文	9.3	5.3	(3.8)	ロクロ	1810～1820年代	19世紀初～19世紀前	肥前産	
R205	40	磁器	染付	小碗	S032	染付透明	外：人物／見込み：五弁花	(8.4)	5.7	(2.6)	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	見込みに手書きの五弁花文
R206	40	磁器	色絵	小碗	S032	染付透明・色絵	外：花文／見込み：五弁花文	－	－	(3.3)	ロクロ	1740～1770年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	見込みに手書きの五弁花文
R207	39	磁器	染付	筒形碗	S032	染付透明	外：菊花文／見込み：五弁花文	(7.0)	5.1	(3.6)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	見込みに手書きの五弁花文
R208	39	磁器	染付	筒形碗	S032	染付透明	外：菊花文／内：口縁に四方襷文／見込み：五弁花文	(7.0)	5.7	(3.4)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文
R209	39	磁器	染付	筒形碗	S032	染付透明	外：草文／見込み：五弁花文	(6.7)	5.5	(3.4)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	見込みに手書きの五弁花文

第16表 遺物観察表⑦

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R210	39	磁器	染付	筒形碗	S032	染付透明	外：菊花文／見込み：五弁花文	(7.0)	5.5	(4.0)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	見込みに手尭きの五弁花文
R211	39	磁器	染付	筒形碗	S032	染付透明	外：矢羽根文／見込み：五弁花文	7.2	5.5	3.8	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文
R212	39	磁器	染付	筒形碗	S032	染付透明	外：輪法繋文／内：輪法繋文	(8.4)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R213	－	磁器	青磁／染付	筒形碗	S032	外：青磁 内：染付透明	内：口縁に四方襷文	6.8	5.4	4.0	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R214	41	磁器	染付	小坏	S032	染付透明	外：？／内：？	(6.2)	3.2	(2.9)	ロクロ	1780～1820年代	18世紀後～19世紀前	肥前産	
R215	41	磁器	染付	極小皿	S032	染付透明	内：草花	(10.4)	2.3	4.8	ロクロ	1810～1820年代	19世紀初～19世紀前	肥前産	
R216	41	磁器	染付	極小皿	S032	染付透明	外：唐草文／内：山水文	7.5	2.05	3.6	ロクロ	1810～1820年代	19世紀初～19世紀前	肥前産	
R217	41	磁器	白磁	極小皿	S032	白磁	－	(8.8)	1.8	5.1	型打	1810～1820年代	19世紀初～19世紀前	肥前産	菊花皿
R218	40	磁器	染付	蓋	S032	染付透明	外：山水文	(9.6)	3.2	(4.8)	ロクロ	1810年代	19世紀初	肥前産	広東碗の蓋
R219	41	磁器	染付	小皿	S032	染付透明	外：唐草文／内：草花文	(13.6)	3.9	(8.0)	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文、高台内に「二重渦福」銘
R220	41	磁器	染付	小皿	S032	染付透明	外：唐草文／内：草花文	(13.6)	4.4	(7.8)	ロクロ	1750～1810年代	18世紀中～19世紀初	肥前産	見込みに手尭きの五弁花文
R221	41	磁器	染付	小皿	S032	染付透明	外：唐草文／内：蛸唐草文	(14.0)	3.8	(8.6)	ロクロ	1810～1860年代	19世紀初～19世紀中	肥前産	蛇の目凹形高台
R222	41	磁器	染付	小皿	S032	染付透明	外：唐草文／内：草花文	(13.8)	4.0	(7.8)	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	
R223	41	磁器	染付	小皿	S032	染付透明	外：蔓唐草文／内：椿文	(14.0)	4.9	(8.6)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	高台内に「二重渦福」銘、蛇の目凹形高台
R224	－	磁器	染付	小皿	S032	染付透明	外：蔓唐草文／内：椿文	(14.8)	3.7	(10.0)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	蛇の目凹形高台
R225	41	磁器	青磁／染付	小皿	S032	外：青磁 内：染付透明	内：椿文	(13.8)	4.65	(8.6)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	蛇の目凹形高台
R226	41	磁器	染付	小皿	S032	染付透明	内：蔓花文	(13.2)	3.2	(7.2)	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R227	41	磁器	染付	極小皿	S032	染付透明	外：？	9.5	3.5	3.6	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R228	41	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.8	1.6	1.1	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R229	41	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.9	1.3	1.4	ロクロ	1810～1820年代	19世紀初～19世紀前	肥前産	
R230	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.6	1.6	1.4	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R231	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.7	1.6	1.4	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R232	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.6	1.8	1.3	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R233	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.4	1.5	1.4	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R234	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.5	1.7	1.0	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R235	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	4.9	1.6	1.5	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R236	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	(4.5)	1.4	(1.4)	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R237	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	(4.6)	1.6	1.4	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R238	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	(4.4)	1.4	(1.4)	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R239	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	(4.6)	1.4	(1.4)	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	

第17表　遺物観察表⑧

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R240	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	(4.4)	1.4	1.3	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R241	－	磁器	白磁	紅皿	S032	内：白磁	－	(4.4)	1.4	1.4	ロクロ	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	
R242	41	磁器	染付	紅猪口	S032	染付透明	外：笹	(7.0)	3.4	2.6	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	
R243	41	磁器	染付	紅猪口	S032	染付透明	外：笹	(6.3)	2.5	(2.9)	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	
R244	41	磁器	染付	紅猪口	S032	染付透明	外：笹	(6.6)	3.4	3.0	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	
R245	－	磁器	染付	紅猪口	S032	染付透明	外：笹	(7.4)	3.9	2.6	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	
R246	－	磁器	染付	紅猪口	S032	染付透明	外：笹	(6.6)	－	－	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	
R247	41	磁器	染付	そば猪口	S032	染付透明	外：矢羽根文／内：口縁に四方襷文／見込み：五弁花文	(8.0)	6.1	(5.8)	ロクロ	1820年頃	19世紀前	肥前産	蛇の目凹形高台、見込みに手書きの五弁花文
R248	41	磁器	染付	そば猪口	S032	染付透明	外：風景画／内：口縁に四方襷文／見込み：昆虫状文	(7.6)	6.2	6.2	ロクロ	1820年頃	19世紀前	肥前産	蛇の目凹形高台
R249	40	磁器	染付	蓋	S032	染付透明	外：花文／内：十字花	9.9	3.05	5.5	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	広東碗の蓋
R250	40	磁器	染付	蓋	S032	染付透明	外：山水文／内：十字花	(10.4)	3.1	(6.0)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	広東碗の蓋
R251	40	磁器	染付	蓋	S032	染付透明	外：山水文／内：十字花	(10.2)	3.2	(5.8)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	広東碗の蓋
R252	40	磁器	染付	蓋	S032	染付透明・口錆	外：小カブ文	(9.8)	3.1	(4.0)	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	
R253	－	磁器	染付	瓶	S032	染付透明	外：草花文	－	－	(3.6)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R254	－	磁器	染付	瓶	S032	染付透明	－	－	－	(4.2)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R255	41	磁器	染付	お神酒徳利	S032	染付透明	外：竹文・竹の子文	－	－	(4.8)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R256	41	磁器	染付	仏飯器	S032	染付透明	外：斜格子文	(6.5)	6.0	4.3	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R257	41	磁器	染付	散蓮華	S032	染付透明	内：？	－	4.1	－	ロクロ			肥前産	全長9.9cm、器高4.1cm、幅4.2cm
R258	－	磁器	染付	水滴	S032	染付透明	外：牡丹	－	4.3	－	ロクロ			肥前産	
R259	42	陶器	－	碗	S032	灰釉	－	(9.6)	－	－	ロクロ	1850年～	19世紀中～	信楽産	
R260	39	磁器	青磁／染付	碗	S032	外：青磁 内：染付透明	見込み：五弁花文	(11.2)	5.5	4.4	ロクロ	1760～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R261	39	磁器	青磁	碗	S032	青磁	－	(8.4)	5.1	(3.0)	ロクロ	1770～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R262	42	陶器	染付	碗	S032	灰釉	外：？	(10.6)	7.4	(4.8)	ロクロ			関西系	
R263	42	陶器	－	碗	S032	薬白釉	－	(11.4)	6.4	(4.8)	ロクロ			萩焼	開口碗
R264	42	陶器	色絵	碗	S032	灰釉	外：草文	8.5	5.0	2.6	ロクロ			関西系	
R265	42	陶器	染付	碗	S032	灰釉	外：水・草花文	(9.7)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	京都・信楽	
R266	42	陶器	染付	碗	S032	灰釉	外：草文	(9.8)	6.1	(3.6)	ロクロ		19世紀前	京都・信楽	小杉碗
R267	42	陶器	染付	碗	S032	灰釉	外：草文	(9.0)	5.1	(3.2)	ロクロ		19世紀前	京都・信楽	小杉碗
R268	42	陶器	染付	碗	S032	灰釉	外：草文	－	－	3.2	ロクロ		19世紀前	京都・信楽	小杉碗
R269	42	陶器	染付	碗	S032	灰釉	外：草文	9.2	5.0	3.0	ロクロ		19世紀前	京都・信楽	小杉碗

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R270	42	陶器	－	小碗	S032	灰釉・口縁部に緑釉	－	(9.1)	5.2	(3.0)	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	高台は土見せ(露胎)
R271	42	陶器	－	碗	S032	藁白釉	－	(10.6)	－	－	ロクロ			萩焼	
R272	42	陶器	－	小碗	S032	灰釉	－	(8.8)	5.2	(3.2)	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	
R273	42	陶器	－	小碗	S032	灰釉	－	(9.6)	4.8	(3.4)	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	
R274	42	陶器	－	中皿	S032	灰釉	－	(24.5)	4.2	(12.2)	ロクロ			唐津系	見込みに目跡
R275	42	陶器	－	小皿	S032	灰釉	－	7.9	2.1	3.2	ロクロ			関西系	輪花皿
R276	42	陶器	－	小皿	S032	鉄釉	－	(14.1)	4.4	(5.5)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	高台は土見せ(露胎)
R277	42	陶器	－	油皿	S032	内：灰釉	内：菊花文・クシ目	10.9	2.35	4.0	ロクロ			京都・信楽	見込み三足ハマ跡、口縁部にスス付着
R278	42	陶器	－	受付皿	S032	内：灰釉	－	(11.5)	2.5	(4.0)	ロクロ			京都・信楽	口縁外面にスス付着
R279	42	陶器	－	鉢	S032	藁白釉	－	(14.2)	6.2	(6.0)	ロクロ			萩焼	見込みハマ跡
R280	43	陶器	－	鉢	S032	鉄釉	外：白化粧の刷毛目	(24.2)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R281	42	陶器	－	水注	S032	灰釉	－	(10.4)	－	5.0	ロクロ			京都・信楽	
R282	43	陶器	－	擂鉢	S032	鉄釉	－	(24.6)	12.2	(10.8)	ロクロ		19世紀前	上野・高取系	クシ目10条単位
R283	43	陶器	－	擂鉢	S032	鉄釉	－	(36.0)	－	－	ロクロ		19世紀前	上野・高取系	
R284	43	陶器	－	擂鉢	S032	鉄釉	－	(35.6)	－	－	ロクロ		19世紀前	唐津系	
R285	43	陶器	－	擂鉢	S032	鉄釉	－	(34.6)	－	－	ロクロ			堺産	
R286	43	陶器	－	擂鉢	S032	－	－	(30.2)	－	－	ロクロ			堺産	クシ目10条単位
R287	43	陶器	－	擂鉢	S032	口縁部：鉄釉	－	(29.7)	－	－	ロクロ			唐津系	
R288	43	陶器	－	擂鉢	S032	鉄釉	－	(37.4)	－	－	ロクロ		19世紀前	唐津系	
R289	43	陶器	－	擂鉢	S032	口縁部：鉄釉	－	(35.4)	－	－	ロクロ			唐津系	
R290	43	陶器	－	土瓶	S032	鉄釉	－	7.7	12.6	8.1	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	足3個、注ぎ口に3穴、底部スス付着
R291	43	陶器	－	土瓶	S032	鉄釉	－	(9.2)	13.8	9.0	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	足3個、注ぎ口に4穴
R292	42	陶器	－	土瓶	S032	内：鉄釉	－	(5.8)	11.3	6.2	ロクロ			関西系	足3個、文字有り、底部スス付着
R293	44	陶器	－	蓋	S032	外：鉄釉	－	(6.1)			ロクロ			唐津系	土瓶の蓋
R294	－	陶器		茶入	S032	外：灰釉	－	－	－	－	ロクロ				
R295	42	土師器	－	小皿	S032	内：柿釉	－	(9.0)	－	－	ロクロ				ロクロ成形
R296	44	土師質	－	火鉢	S032	－	－	－	－	25.0	ロクロ				胴部4個・脚部1個に穿孔残存
R297	－	土師質	－	火鉢	S032	－	－	－	－	－	ロクロ				
R298	44	土師質	－	焜炉	S032	－	－	(21.6)	－	－	ロクロ				外：朱彩
R299	44	土師質	－	焙烙	S032	－	－	31.3	－	－	ロクロ				外面にスス付着

第19表　遺物観察表⑩

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R300	43	瓦質	－	火鉢	S032	－	－	(28.2)	－	－	ロクロ				
R301	44	瓦質	－	火鉢	S032	－	－	－	－	－	ロクロ				
R302	44	瓦質	－	火鉢	S032	－	外：陰刻　宝船	(23.4)	－	－	ロクロ				外面：ミガキ
R303	42	土製品	－	人形	S032	－	－	－	－	－	型打		18世紀前		幅2.6cm、「天神」人形
R304	42	土製品	－	人形	S032	－	－	－	－	－	型打				長さ2.75cm 幅1.65cm
R305	42	土製品	－	人形	S032	－	－	－	－	－	型打		18世紀前		幅：1.8cm、「恵比寿」人形
R306	44	瓦	－	軒平瓦	S032	－	均整唐草	－	－	－	－				吉田分類「F－２群」
R307	44	瓦	－	軒丸瓦	S032	－	巴	－	－	－	－				復元瓦当径(13.7cm)、珠文数は8個残存
R308	42	石製品	－	硯	S032	－	－	－	－	－	－			赤間石産	長さ13.4cm、幅5.1cm　高さ1.6cm、線刻有り「赤間○住」
R309	42	木製品	－	笄	S032	－	－	－	－	－	－				長さ(13.9cm)、幅1.1～1.4cm、高さ0.2～0.4cm
R310	46	磁器	染付	碗	S033	染付透明	外：桐文	(11.6)	6.1	(4.8)	ロクロ	1760～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R311	46	磁器	－	碗	S033	透明釉	－	(8.6)	5.2	3.4	ロクロ	1750～1770年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R312	46	磁器	－	碗	S033	透明釉	－	(10.2)	－	－	ロクロ	1760～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R313	46	磁器	染付	筒形碗	S033	染付透明	外：竹	(8.6)	－	－	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	
R314	－	磁器	染付	筒形碗	S033	染付透明	外：菊花文	(11.8)	－	－	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	
R315	－	磁器	染付	筒形碗	S033	染付透明	－	－	－	－	ロクロ			肥前産	
R316	46	磁器	染付・青磁	極小皿	S033	青磁	内：草文	(9.8)	2.1	(7.4)	ロクロ	1740～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	蛇の目凹形高台
R317	46	磁器	染付	極小皿	S033	外：青磁 内：染付透明	内：口縁部に四方襷文／見込み：五弁花文	8.7	3.1	3.7	ロクロ			肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文
R318	46	磁器	染付	小皿	S033	染付透明	外：唐草文／内：草花文／見込み：五弁花	(14.0)	4.0	(8.6)	ロクロ	1750～1810年代	18世紀中～19世紀初	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文、高台内に「浜福」銘
R319	46	磁器	白磁	紅皿	S033	外：白磁	－	4.7	1.3	1.4	型打	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	菊花皿
R320	46	磁器	青磁／染付	蓋	S033	外：青磁 内：染付透明	内：口縁部に四方襷文・花葉文	(5.0)	2.7	(3.8)	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	
R321	46	磁器	青磁／染付	鉢	S033	外：青磁 内：染付透明	内：口縁部は花柄／見込み：障子	(20.0)	7.0	(11.3)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	蛇の目凹形高台
R322	46	陶器	－	碗	S033	薬白釉	－	(11.8)	－	－	ロクロ			萩焼	
R323	46	陶器	－	碗	S033	薬白釉	－	(13.6)	－	－	ロクロ			萩焼	
R324	46	陶器	－	碗	S033	薬白釉	－	(10.4)	－	－	ロクロ			萩焼	
R325	46	陶器	－	碗	S033	灰釉	－	(12.2)	－	－	ロクロ			関西系	
R326	46	陶器	－	碗	S033	薬白釉	－	－	－	4.6	ロクロ			萩焼	閉口碗
R327	46	陶器	－	碗	S033	薬白釉	－	(11.6)	－	－	ロクロ			萩焼	腰張碗
R328	46	陶器	－	小碗	S033	灰釉	－	(9.6)	－	－	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	
R329	46	陶器	－	小碗	S033	灰釉	－	(9.6)	5.0	(3.0)	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	

第20表　遺物観察表⑪

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R330	46	陶器	－	土瓶	S033	外：緑釉	－	(2.2)	－	－	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	ままごと道具
R331	47	陶器	－	擂鉢	S033	鉄釉	－	(41.8)	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	
R332	47	陶器	－	甕	S033	鉄釉	－	(20.0)	－	－	ロクロ			唐津系	
R333	46	土師質	－	目皿	S033	－	－	(12.4)	10.0	－	ロクロ				穿孔が7ヶ所
R334	50	磁器	染付	碗	S034	染付透明	外：雷文・雲文	(10.0)	5.9	(4.8)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	小広東碗
R335	50	磁器	染付	碗	S034	染付透明	外：草花文／見込み：「壽」銘	(9.8)	5.1	(4.9)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	小広東碗
R336	49	磁器	染付	碗	S034	染付透明	外：花文	(9.9)	5.4	(3.6)	ロクロ	1750～1770年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	くらわんか碗
R337	49	磁器	染付	碗	S034	染付透明	外：唐子	(9.6)	－	－	ロクロ			中国産？	
R338	49	磁器	染付	小碗	S034	染付透明	外：笹文／見込み：五弁花文	(8.4)	4.95	(3.8)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R339	50	磁器	染付	小碗	S034	染付透明	外：草花文／見込み：五弁花文	－	－	(3.3)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R340	49	磁器	染付	小碗	S034	染付透明	外：笹	(7.2)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R341	49	磁器	染付	筒形碗	S034	染付透明	外：矢羽根文	(6.8)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R342	49	磁器	染付	筒形碗	S034	染付透明	外：菊花文／見込み：五弁花文	(6.6)	5.0	(3.4)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文
R343	49	磁器	染付	筒形碗	S034	染付透明	外：斜格子文	(6.8)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R344	49	磁器	染付	小坏	S034	染付透明	外：？	(6.6)	3.9	(3.0)	ロクロ	1700～1780年代	18世紀初～18世紀後	肥前産	
R345	49	磁器	－	小坏	S034	透明釉	－	(5.4)	1.8	(2.8)	ロクロ			肥前産	
R346	49	磁器	染付	小坏	S034	染付透明	外：「壽」文	(7.3)	4.1	(4.0)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	中国産	高台内に朱書、焼き継ぎ、清朝
R347	49	磁器	染付	瓶	S034	外：染付透明	外：蛸唐草文	1.8	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R348	49	磁器	染付	油壺	S034	外：染付透明	外：折枝梅文	－	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R349	50	陶器	－	碗	S034	灰釉／口縁部：緑釉	－	(9.3)	4.7	3.6	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	高台は土見せ（露胎）
R350	50	陶器	－	碗	S034	藁白釉	－	(10.0)	－	－	ロクロ			萩焼	腰張碗
R351	50	陶器	－	碗	S034	藁白釉	－	(9.0)	－	－	ロクロ			萩焼	腰張碗
R352	49	陶器	－	筒形碗	S034	灰釉	－	(6.8)	－	－	ロクロ			京都・信楽	石塔窯
R353	50	陶器	京焼	小皿	S034	灰釉	内：？	(9.6)	2.3	(3.6)	ロクロ			関西系	
R354	51	陶器	－	鉢	S034	鉄釉／口縁部：藁白釉	－	(9.0)	－	－	ロクロ				
R355	51	陶器	－	鉢	S034	鉄釉	－	(22.4)	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	
R356	51	陶器	－	鉢	S034	灰釉	－	(23.0)	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	
R357	50	陶器	－	火入	S034	鉄釉	－	－	－	(9.4)	ロクロ			唐津系	高台内に「あ」の墨書
R358	51	陶器	－	土瓶	S034	灰釉	－	(7.5)	8.45	6.2	ロクロ			関西系	足3個
R359	51	陶器	－	土瓶の蓋	S034	内：鉄釉	－		2.6		ロクロ			関西系	

第21表　遺物観察表⑫

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R360	50	陶器	－	水滴	S034	透明釉	外：花文（陽刻）	－	－	－	ロクロ			関西系	
R361	51	陶器	－	擂鉢	S034	鉄釉	－	(32.6)	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	クシ目12条単位
R362	51	陶器	－	擂鉢	S034	鉄釉	－	不明	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	唐津系	
R363	50	陶器	－	油皿	S034	透明釉	－	7.4	1.9	3.0	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R364	51	土師質	－	焙烙の蓋	S034	－	－	(33.8)	－	－	ロクロ				
R365	51	瓦質	－	火鉢	S034	－	－	(28.2)	－	－	ロクロ				
R366	51	瓦質	－	火鉢	S034	－	－	(19.6)	－	－	ロクロ				ミガキ有り
R367	－	土製品		人形	S034	－	－	－	－	－	型押				「ブタ」人形
R368	51	瓦	－	軒丸瓦	S034	－	巴	－	－	－	－				復元瓦当径(14.4cm)、珠文数は3個残存
R369	52	磁器	染付	小碗	S039	染付透明	?	(9.8)	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R370	52	土製品	－	芥子面	S039	－	－	－	－	－	型打	1850年頃	19世紀中	京都産	長さ2.8cm、幅2.35cm
R371	52	土製品	－	芥子面	S039	－	－	－	－	－	型打	1850年頃	19世紀中	京都産	長さ3.4cm、幅3.3cm
R372	54	磁器	染付	碗	S040	染付透明	外：草花文	(9.6)	5.3	(4.0)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	くらわんか碗
R373	54	磁器	染付	碗	S040	染付透明	外：梵字／見込み：昆虫状文	－	－	3.8	ロクロ	1810年代	19世紀初	肥前産	
R374	54	磁器	白磁	紅皿	S040	白磁	－	4.6	1.4	1.4	型打	1840～1860年代	19世紀中	肥前産	菊花皿
R375	54	磁器	染付	瓶	S040	外：染付透明	外：蛸唐草文	1.6	－	－	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R376	54	土師質	－	皿	S040	内：透明釉・緑釉	－	(5.2)	1.3	(3.5)	ロクロ			京都産	糸切り底、ままごと道具
R377	54	土師質	－	碗	S040	外：緑釉	－	(3.4)	－	－	手捻り	1850年頃	19世紀中	京都産	ままごと道具
R378	54	土師器	糸切り	小皿	S040	－	－	(7.6)	1.2	(4.4)	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R379	－	土製品		人形	S040	－	－	－	－	－	型押				長さ5.2cm、「虚無僧」人形
R380	－	土製品		人形	S040	－	－	－	－	－	型押				長さ3.8cm
R381	56	磁器	染付	碗	S042	外：鉄釉 内：染付透明	内：二重圏線	(11.5)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R382	56	磁器	染付	碗	S042	染付透明	外：舟・雲／内：流水？	(11.8)	6.1	(6.0)	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	端反碗
R383	56	磁器	青磁／染付	碗	S042	外：青磁 内：染付透明	内：四方襷文／見込み：龍？	(10.8)	6.0	(4.7)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R384	56	陶器	－	小碗	S042	灰釉	－	(7.2)	－	－	ロクロ			京都・信楽	小杉碗
R385	56	陶器	－	小碗	S042	灰釉	－	－	－	(2.9)	ロクロ			京都・信楽	
R386	56	磁器	染付	紅猪口	S042	染付透明	外：笹	(6.3)	2.8	2.7	ロクロ		19世紀前	肥前産	
R387	－	陶器	－	土鍋	S042	藁白釉	－	－	－	－	ロクロ				
R388	57	土師質	－	焙烙の蓋	S042	－	－	(32.4)	－	－	ロクロ				
R389	89	磁器	染付	小坏	S043	染付透明	外：梅枝文	(7.6)	－	－	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R390	59	磁器	染付	筒形碗	S045	染付透明	外：陽刻文・四方襷文／内：四方襷文	(7.2)	－	－	ロクロ			肥前産	
R391	59	陶器	－	小皿	S045	鉄釉	－	(13.2)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R392	59	陶器	呉器手	碗	S045	灰釉	－	－	－	(4.7)	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R393	59	陶器	－	小碗	S045	灰釉	－	(8.6)	5.4	(3.0)	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	
R394	59	磁器	白磁	紅皿	S045	白磁	－	4.9	1.55	1.4	型打			肥前産	菊花皿
R395	61	磁器	染付	碗	S046	染付透明	外：梅樹文	(12.6)	－	－	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R396	61	磁器	青磁／染付	碗	S046	外：青磁 内：染付透明	内：四方襷文	(11.4)	－	－	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	
R397	61	磁器	青磁／染付	碗	S046	外：青磁 内：染付透明	内：四方襷文	(12.6)	－	－	ロクロ	1760～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R398	61	磁器	青磁／染付	筒形碗	S046	外：青磁 内：染付透明	内：四方襷文	(6.8)	－	－	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	
R399	62	陶器	－	碗	S046	灰釉	－	(10.2)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	京都・信楽	
R400	62	半磁半陶	染付	碗	S046	染付	外：？	(12.8)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R401	62	陶器	－	小碗	S046	灰釉	－	(9.8)	－	－	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	
R402	63	陶器	－	擂鉢	S046	鉄釉	－	(14.2)	－	－	ロクロ		17世紀代～18世紀代	上野・高取系	
R403	63	陶器	－	鉢	S046	鉄釉	－	(15.0)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R404	63	陶器	－	擂鉢	S046	－	－	(40.4)	－	－	ロクロ		18世紀後	堺産	クシ目10条単位
R405	63	瓦質	－	釜	S046	－	－	(10.2)	(12.4)	－	ロクロ				胴部最大径(26.2cm)、口縁部：ミガキ
R406	63	土師質	－	焜炉	S046	－	－	(25.6)	－	－	ロクロ				外面に赤色塗彩
R407	－	磁器	染付	碗	S047	染付透明	－	－	－	－	ロクロ			肥前産	
R408	－	磁器	染付	碗	S047	染付透明	外：蛸唐草文	－	－	－	ロクロ			肥前産	
R409	56	土師器	－	油皿	S047	灰釉	－	(12.8)	－	－	ロクロ				ロクロ成形
R410	－	土製品	－	鍋	S047	透明釉	－	(3.6)	1.9	(2.6)	ロクロ			京都産	ままごと道具
R411	56	磁器	染付	碗	S048	染付透明	外：桐	10.0	5.5	4.2	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	くらわんか碗
R412	56	磁器	染付	碗	S048	染付透明	外：草花文	(10.4)	(5.8)	(4.4)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	くらわんか碗
R413	56	陶器	鉄絵	皿	S048	－	内：？	(9.8)	－	－	ロクロ			関西系	
R414	－	陶器	－	皿	S048	長石釉	－	－	－	－	ロクロ			志野産	
R415	57	陶器	－	盤	S048	－	－	(42.6)	－	－	ロクロ			備前産	
R416	65	磁器	染付	小皿	S049	染付透明	内：二重斜格子文	(13.0)	－	－	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R417	56	磁器	染付	碗	S042	染付透明	外：「薛」銘／内：四方襷文／見込み：「薛」銘	(10.8)	6.1	4.6	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	高台内に朱書きで「友助(？)十八」銘
R418	89	土製品	－	面摸	S024	－	－	－	－	－	手捏ね				「天神」人形型
R419	89	土製品	－	面摸	S024	－	－	－	－	－	手捏ね				「馬」人形型

第23表　遺物観察表⑭

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R420	42	土師質	－	焼塩壺の蓋	S032	－	－	7.0	1.7	－	手捏ね			堺産	内面に布目
R421	67	土師器	京都系	小皿	S050	－	－	10.6	2.4	－	手捏ね			在地産	非ロクロ成形
R422	67	土師器	京都系	小皿	S050	－	－	10.3	2.35	－	手捏ね			在地産	非ロクロ成形
R423	69	陶器	京焼風	小皿	S051	灰釉	内：風景文	12.8	4.8	4.6	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	高台は土見せ（露胎）
R424	69	陶器	－	小皿	S051	鼠灰釉	－	(11.3)	2.6	(3.8)	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	胎土目積み
R425	－	陶器	－	瓶	S051	鉄釉・灰釉	刷毛目	3.6	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R426	71	磁器	染付	碗	S052	染付透明	外：花草文／内：圏線	10.2	5.1	5.4	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	広東碗
R427	－	磁器	染付	碗	S052	染付透明	外：花草文	－	－	3.9	ロクロ	1750～1770年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	くらわんか碗
R428	－	磁器	染付	碗	S052	染付透明	外：花草文	(9.8)	6.0	3.8	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R429	－	磁器	染付	碗	S052	染付透明	外：松	(5.6)	－	－	ロクロ			肥前産	
R430	71	磁器	染付	碗	S052	染付透明	外：？	(10.0)	－	－	ロクロ			肥前産	
R431	71	磁器	染付	碗	S052	染付透明	外：草花文	(11.0)	－	－	ロクロ	1810～1820年代	19世紀初～19世紀前	肥前産	
R432	71	磁器	染付	小碗	S052	染付透明	外：笹文／内：口縁部に二重圏線	(8.2)	4.8	(3.4)	ロクロ	1770～1780年代	18世紀後	肥前産	
R433	71	磁器	染付	紅猪口	S052	染付透明	外：「大坂新町お笹紅」銘	(8.0)	3.5	(2.8)	ロクロ	1810～1820年代	18世紀末～19世紀前	肥前産	
R434	71	磁器	染付	筒形碗	S052	染付透明	外：矢羽根文／内：二重圏線	3.6	5.0	3.8	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R435	71	磁器	染付	筒形碗	S052	染付透明	外：矢羽根／見込み：五弁花文	(6.8)	5.2	(3.8)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文
R436	71	磁器	染付	小皿	S052	染付透明	外：唐草文／内：草花文	(13.4)	4.25	(8.4)	ロクロ	1750～1810年代	18世紀中～19世紀初	肥前産	見込みにコンニャク印判の五弁花文、高台内に銘款
R437	71	磁器	白磁	紅皿	S052	白磁	－	4.9	1.4	1.3	型打	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	菊花皿
R438	－	磁器	白磁	紅皿	S052	白磁	－	4.8	1.5	1.5	型打	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	菊花皿
R439	－	磁器	白磁	紅皿	S052	白磁	－	(4.6)	1.7	1.2	型打	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	菊花皿
R440	－	磁器	白磁	紅皿	S052	白磁	－	(4.4)	1.5	(1.6)	型打	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	菊花皿
R441	71	磁器	染付	そば猪口	S052	染付透明	外：？／内：圏線	－	－	(5.8)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	蛇の目凹形高台
R442	71	磁器	染付	蓋	S052	染付透明	外：コイ・文字	8.0	2.0	6.9	ロクロ			肥前産	全高2.6cm
R443	－	磁器	色絵	水滴	S052	色絵	外：花文	－	4.8	－	ロクロ			肥前産	
R444	71	磁器	－	瓶	S052	灰釉	－	7.6	－	－	ロクロ			肥前産	
R445	71	陶器	－	小碗	S052	灰釉	－	(9.2)	5.3	3.5	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	端反碗
R446	71	陶器	京焼風	小碗	S052	灰釉	外：草文	(9.2)	－	－	ロクロ		19世紀前	京都・信楽	小杉碗
R447	71	陶器	－	小碗	S052	透明釉	－	(6.8)	3.9	(3.0)	ロクロ		18世紀後～18世紀末	京都・信楽	小杉碗
R448	71	陶器	京焼	小皿	S052	灰釉	内：？	(9.6)	2.3	3.6	ロクロ			関西系	
R449	72	陶器	－	鉢	S052	鉄釉	－	(19.2)	－	－	ロクロ			唐津系	

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R450	72	陶器	－	擂鉢	S052	－	－	(39.4)	－	－	ロクロ		17世紀中～17世紀後	上野・高取系	
R451	71	陶器	－	土鍋	S052	鉄釉	－	5.6	2.5	2.4	ロクロ			肥前産？	ままごと道具、足3個
R452	71	土師器	－	小皿	S052	柿釉	－	(8.4)	－	－	ロクロ				ロクロ成形、ミガキ
R453	71	土師質	－	皿	S052	透明釉・緑釉	－	(5.2)	1.3	(3.5)	ロクロ			京都産	ままごと道具、糸切り底
R454	71	土師器	糸切り	小皿	S052	－	－	(7.4)	1.6	(3.4)	ロクロ				ロクロ成形、糸切り底
R455	72	土師質	－	焙烙の蓋	S052	－	－	(28.8)	－	－	ロクロ				
R456	74	磁器	青磁／染付	碗	S054	外：青磁 内：染付透明	内：口縁部に四方襷文	(10.9)	－	－	ロクロ	1750～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R457	74	磁器	染付	筒形碗	S054	染付透明	外：雲？／内：口縁に渦文様	(9.4)	－	－	ロクロ			肥前産	
R458	74	磁器	染付	小皿	S054	染付透明	外：唐草文／内：？	(14.2)	2.9	(8.6)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	
R459	74	磁器	白磁	紅皿	S054	白磁	－	(4.6)	1.5	(1.3)	ロクロ	1780～1860年代	18世紀後～19世紀中	肥前産	菊花皿
R460	74	磁器	染付	紅猪口	S054	染付透明	外：笹	(6.2)	2.1	(3.0)	ロクロ	1820～1860年代	19世紀前～19世紀中	肥前産	
R461	75	陶器	－	鉢	S054	鉄釉	外：刷毛目	(36.2)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R462	75	陶器	－	土鍋	S054	鉄釉	－	(17.5)	8.5	(9.0)	ロクロ			唐津系	足3個残存、底部にスス付着、見込みハマ跡
R463	75	陶器	－	擂鉢	S054	－	－	(31.2)	－	－	ロクロ		18世紀後	堺産	
R464	74	半磁半陶	染付	碗	S054	染付	外：連続唐草文	(10.6)	7.0	4.8	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	唐津系	
R465	77	磁器	染付	碗	S055	染付透明	外：花文	(9.6)	5.3	(3.3)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	くらわんか碗
R466	77	磁器	染付	碗	S055	染付透明	外：？	(11.0)	4.9	(4.6)	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R467	－	磁器	染付	碗	S055	染付透明	外：花文	－	－	4.0	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R468	77	磁器	染付	碗	S055	染付透明	外：梅樹文	(9.6)	－	－	ロクロ	1700～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R469	77	磁器	染付	碗	S055	染付透明	外：唐草文	(10.4)	5.6	(3.7)	ロクロ	1700～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R470	77	磁器	染付	筒形碗	S055	染付透明	外：矢羽根文／内：口縁に四方襷文	(7.8)	6.5	(4.2)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R471	77	磁器	青磁／染付	筒形碗	S055	外：青磁 内：染付透明	外：陽刻文様／内：四方襷文／見込み：折枝梅文	(9.3)	6.5	(4.8)	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R472	78	磁器	青磁／染付	中皿	S055	青磁／見込み・高台内面：染付透明	見込み：梅文	(28.2)	(4.5)	(17.6)	ロクロ	1740～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R473	77	磁器	染付	小皿	S055	染付透明	外：唐草文／見込み：五弁花文	(13.0)	3.6	(8.0)	ロクロ	1700～1730年代	18世紀初～18世紀前	肥前産	
R474	77	磁器	染付	小皿	S055	染付透明	外：唐草文／内：葡萄文	(13.4)	3.5	(7.7)	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R475	77	磁器	染付	小皿	S055	染付透明	外：唐草文／内：葡萄文	(13.3)	3.3	(8.0)	ロクロ	1710～1740年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	
R476	77	磁器	染付	小皿	S055	染付透明	内：二重斜格子文	(13.2)	(3.7)	(5.2)	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	見込み蛇の目釉剥
R477	77	磁器	青磁／染付	中皿	S055	外：青磁 内：染付透明	内：風景	－	－	(9.0)	ロクロ	1740～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	蛇の目凹形高台、高台内に「冨貴長春」銘
R478	－	陶器	－	碗	S055	灰釉	－	－	－	3.0	ロクロ			京都・信楽	
R479	－	陶器	－	碗	S055	灰釉	－	－	－	(3.2)	ロクロ			関西系	腰折碗

第25表　遺物観察表⑯

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R480	78	陶器	色絵	碗	S055	灰釉	外：松	(9.4)	－	－	ロクロ			京都・信楽	
R481	79	陶器	－	鉢	S055	外：鉄釉	－	(17.2)	11.4	8.9	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R482	79	陶器	－	擂鉢	S055	－	－	－	－	(15.6)	ロクロ			堺産	クシ目７条単位
R483	79	陶器	－	擂鉢	S055	－	－	(34.9)	－	－	ロクロ		18世紀後	堺産	クシ目７条単位
R484	78	半磁半陶	染付	碗	S055	染付	外：山水文	(12.8)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R485	79	土師質	－	焙烙	S055	－	－	(32.0)	－	－	ロクロ				
R486	89	磁器	染付	碗	S057	染付透明	外：梅花文／内：二重圏線	(9.6)	－	－	ロクロ	1740～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R487	81	磁器	染付	碗	S058	染付透明	外：草花文／内：口縁に四方襷文	(11.4)	－	－	ロクロ	1780～1810年代	18世紀後～19世紀初	肥前産	
R488	81	磁器	白磁	小坏	S058	白磁	－	(4.8)	3.0	(2.6)	ロクロ	1780～1820年代	18世紀後～19世紀前	肥前産	
R489	89	陶器	－	小皿	S059	灰釉	－	(14.8)	－	－	ロクロ	1650～1690年代	17世紀中～17世紀末	唐津系	
R490	89	磁器	染付	筒形碗	S060	染付透明	外：唐草文	－	－	(7.2)	ロクロ	1740～1780年代	18世紀中～18世紀後	肥前産	
R491	89	磁器	染付	小皿	S060	染付透明	外：唐草文／内：？	(15.2)	3.5	(10.2)	ロクロ	1730～1750年代	18世紀前～18世紀中	肥前産	
R492	89	陶器	－	油差し	S060	外：鉄釉	－	－	－	(4.9)	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R493	89	磁器	染付	小皿	S063	染付透明	外：唐草文／内：矢羽根文／見込み：五弁花文	(13.1)	3.7	(7.5)	ロクロ	1660～1680年代	17世紀中～17世紀後	肥前産	焼き継ぎ、高台内に銘、見込みに朱で宝を描く
R494	89	磁器	青磁	香炉	S061	青磁	－	－	－	(9.0)	ロクロ			肥前産	足３個
R495	89	陶器	－	小皿	S061	灰釉	－	(12.0)	－	－	ロクロ			京都・信楽	
R496	89	陶器	－	碗	S062	外：藁白釉 内：鉄釉	－	(11.6)	－	－	ロクロ			萩焼	
R497	91	陶器	－	鉢	S061	－	－	(16.8)	－	－	ロクロ			備前産	
R498	90	磁器	染付	小碗	S066	染付透明	外：花文	(8.6)	4.65	(3.6)	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	高台内に「大川〇長」銘
R499	90	磁器	染付	極小皿	S066	染付透明	外：青花文／見込み：十字花文	(9.6)	2.3	(5.4)	ロクロ		15世紀後～16世紀前	中国産	小野分類「染付皿Ｂ１類」
R500	90	磁器	染付	極小皿	S066	染付透明	外：唐草文／内：矢羽根文	(9.7)	2.2	(6.8)	ロクロ	1680～1700年代	17世紀後～17世紀末	肥前産	
R501	91	陶器	－	擂鉢	S066	－	－	(33.4)	－	－	ロクロ		17世紀代	上野・高取系	
R502	90	半磁半陶	染付	碗	S066	染付	外：唐草文	(11.2)	－	－	ロクロ	1680～1740年代	17世紀後～18世紀中	肥前産	
R503	89	土師器	京都系	小皿	S063	－	－	(9.4)	－	－	手捏ね			在地産	非ロクロ成形
R504	90	磁器	青磁／染付	碗	S067	外：青磁 内：染付透明	見込み：五弁花文	(10.8)	5.0	(4.0)	ロクロ	1700～1750年代	18世紀初～18世紀中	肥前産	見込みに手書きの五弁花文、高台内に「二重渦福」銘
R505	90	陶器	－	碗	S067	灰釉	－	(10.0)	6.4	(4.4)	ロクロ	1580～1594年代	16世紀後～16世紀末	唐津系	高台は土見せ（露胎）
R506	90	陶器	－	小皿	S067	灰釉	－	(13.4)	－	－	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	
R507	90	陶器	－	灯明皿	S067	－	－	(10.4)	2.8	(4.7)	ロクロ	1690～1780年代	17世紀末～18世紀後	唐津系	ロクロ成形、糸切り底
R508	91	陶器	－	盤	S067	外：鉄釉	－	(26.4)	3.7	(16.4)	ロクロ		16世紀後～17世紀前	備前産	
R509	－	青銅製品	－	小柄	S067	－	－	－	－	－	－				

第26表　遺物観察表⑰

個体番号	挿図番号	種類	特徴	形状	出土区／遺構名	装飾		法量（cm）			成形	年代		産地	備考
						絵付・釉薬	文様	口径	器高	底径		時期①	時期②		
R510	87	磁器	染付	紅猪口	整地層	染付透明	外：「大坂新町お笹紅」銘	(9.8)	4.9	3.8	ロクロ				
R511	87	磁器	染付	碗	整地層	染付透明	外：圏線、見込み：人物	－	－	(4.6)	ロクロ			中国産	
R512	87	磁器	染付	小碗	整地層	染付透明	外：日足文、見込み：草文	－	－	(4.2)	ロクロ			肥前産	高台内に「富貴長春」銘と朱文字
R513	87	磁器	青磁	小碗	整地層	青磁	外：櫛文	(7.6)	－	－	ロクロ		16世紀代	中国産	
R514	87	陶器	－	大皿	整地層	灰釉・一部に鉄釉	－	(36.6)	－	－	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	
R515	87	磁器	染付	極小皿	整地層	染付透明	外：圏線、内：圏線	(10.2)	2.1	(6.4)	ロクロ		16世紀後	中国産	小野分類「染付皿E群」
R516	87	陶器	－	碗	整地層	鉄釉	－	(11.2)	－	－	ロクロ	1580～1594年代	16世紀後～16世紀末	唐津系	
R517	87	陶器	－	大皿	整地層	灰釉	－	(22.0)	－	－	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	
R518	87	陶器	鉄絵	大皿	整地層	藁灰釉、文様：鉄釉	－	－	－	(10.6)	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	
R519	－	陶器	鉄絵	小皿	整地層	藁灰釉、文様：鉄釉	－	－	－	－	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	
R520	－	陶器	－	小皿	整地層	藁灰釉	－	－	－	－	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初	唐津系	
R521	87	陶器	－	小皿	整地層	灰釉、口縁部：鉄釉	－	10.3	3.5	4.0	ロクロ	1580～1594年代	16世紀後～16世紀末	唐津系	
R522	87	陶器	－	小皿	整地層	藁灰釉	－	－	－	(4.7)	ロクロ	1594～1610年代	16世紀末～17世紀初		胎土目積み痕
R523	87	陶器	－	小皿	整地層	灰釉	－	(11.8)	－	－	ロクロ	1590～1600年頃	16世紀末	瀬戸・美濃	折縁削皿
R524	88	陶器	－	擂鉢	整地層	－	－	－	－	－	ロクロ			備前産	
R525	88	陶器	－	甕	整地層	灰釉	－	(21.0)	－	－	ロクロ				
R526	87	土師器	京都系	小皿	整地層	－	－	(12.6)	－	－	手捏ね			在地産	非ロクロ成形
R527	87	土師器	京都系	小皿	整地層	－	－	9.3	2.6	－	手捏ね			在地産	口縁部外面にスス付着、非ロクロ成形
R528	88	瓦質	－	火鉢	整地層	－	－	(34.8)	－	－	ロクロ				
R529	－	瓦	－	軒平瓦	整地層	－	－	－	－	－	－				吉田分類「G群」
R530	88	瓦	－	軒平瓦	整地層	－	－	－	－	－	－				「細和」刻印
R531	－	ガラス製品	－	数珠玉	整地層	－	－	－	－	－	－				
R532	92	磁器	染付	碗	表土	染付透明	外：？　内：二重圏	－	－	4.0	ロクロ			肥前産	高台内に朱書
R533	－	陶器	－	碗	表土	灰釉	－	(8.3)	5.7	(3.2)	ロクロ	1850年～	19世紀中～	信楽産	
R534	93	瓦	－	軒平瓦	表土	－	－	－	－	－	－				長さ29.6cm、厚さ2.2cm
R535	92	瓦	－	平瓦	表土	－	－	－	－	－	－				「細和」刻印
R536	92	瓦	－	平瓦	表土	－	－	－	－	－	－				「細和」刻印
R537	92	瓦	－	軒丸瓦	表土	－	巴	－	－	－	－				珠文数は5個残存、復元瓦当径(15.2cm)

第27表　遺物観察表⑱

報告書抄録

ふりがな	ふないじょう・じょうかまちあと
書名	府内城・城下町跡
副書名	第15次調査報告書
巻次	－
シリーズ名	大分市埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第50集
編著者	池邉千太郎、羽田野達郎
編集機関	大分市教育委員会
所在地	〒870-0046　大分市荷揚町２番31号　TEL（097）534－6111
発行年月日	西暦2004年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふないじょう・じょうかまちあと 府内城・城下町跡	おおいたけんおおいたし 大分県大分市 みやこまち 都町２丁目	大分市	322041	33° 30′30″	131° 17′26″	2002.10.07～ 2003.03.20	216m²	ビル開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
府内城・城下町跡 第15次調査	城跡ほか	江戸時代～ 昭和時代	土坑、溝状遺構、 ピット	磁器、瓦、硯、 土師器	火災処 理土坑

府内城・城下町跡

第15次調査報告書

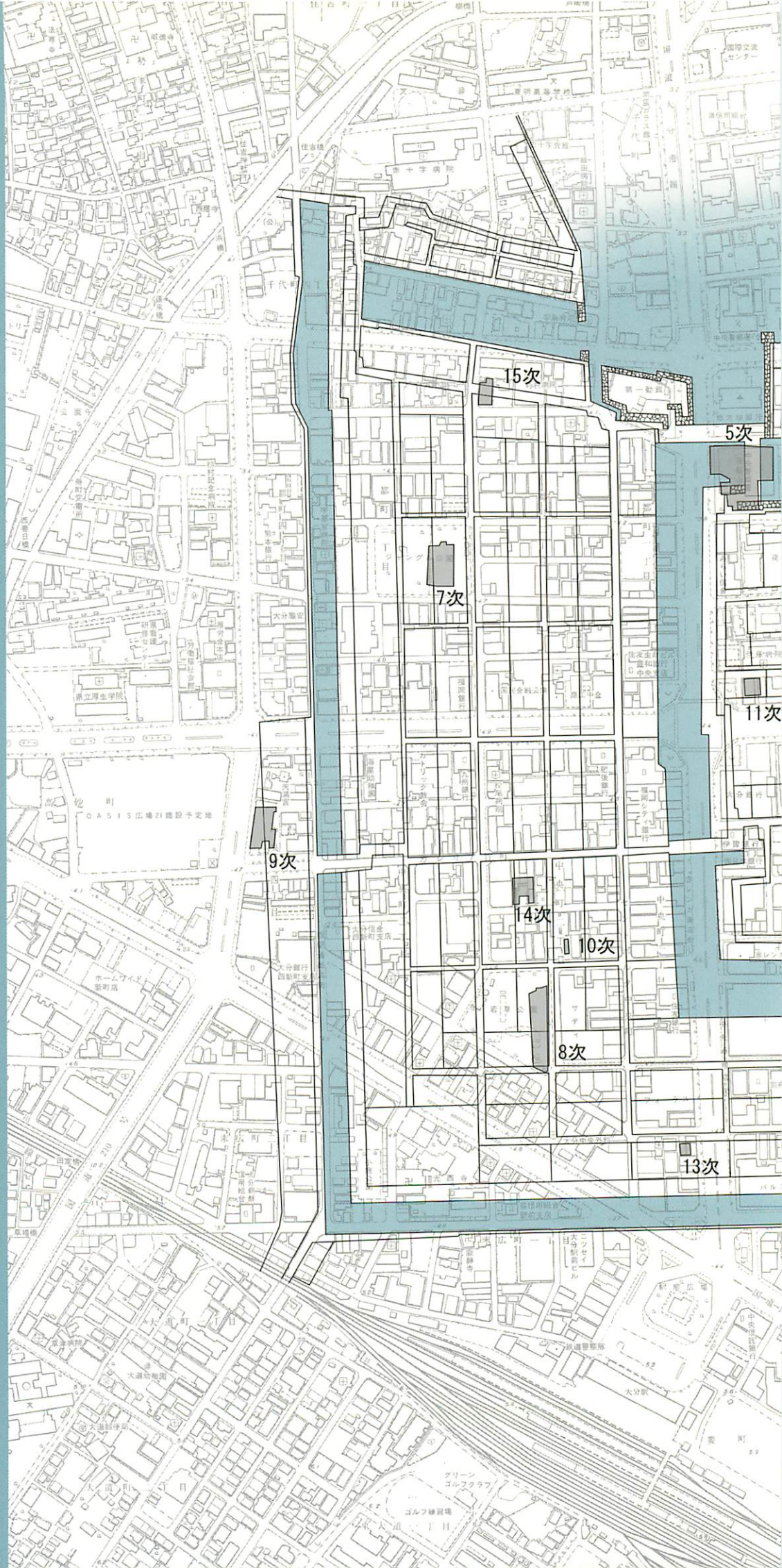
平成16年３月31日

発行　大分市教育委員会

大分市荷揚町２番31号

印刷　佐伯印刷株式会社

大分市古国府1155-1


15次
5次
7次
11次
9次
14次
10次
8次
13次
OASIS広場21建設予定地
県立厚生学院
赤十字病院
大分駅